

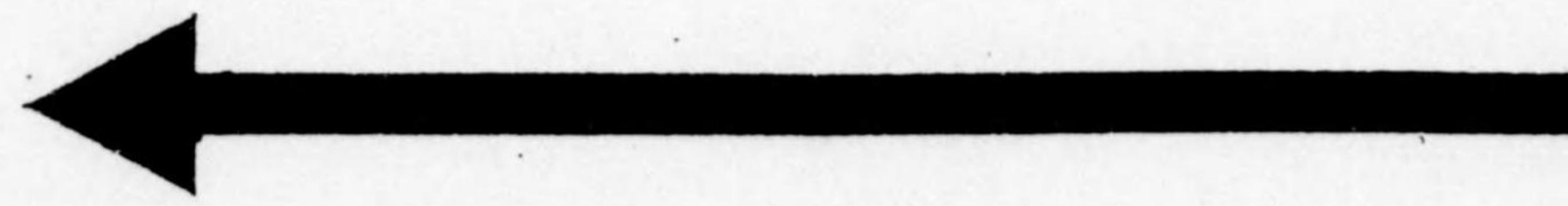
259

259-584
1200501348376

7



始





児童の個性尊重及び職業指導



緒言

昭和二年十一月二十五日、児童生徒の個性尊重及び職業指導に關し文部省訓令が發せられた、これは寔に教育上劃時代的警鐘で、教育者をはじめ社會全般その趣旨を徹底せしむる事に最善を期するに於ては、實に邦家の將來に甚大なる好果を齎すべき事を疑はない。本會は茲に新訓令に發奮し本書を編纂發行した。依て左にその趣意を一言する。

一 本會創立以來五ヶ年公民教育並に職業教育に關し、幾多先輩諸彦の指導と援助とを希ひ、これが振興革新に微力ながら最大の努力を拂つて來た。今や新訓令の發布を見るに至り、一層本會使命の重大なることを痛感した。本會は過去永年職業教育に關して斯道に權威ある多數諸先輩を煩はして、その研究と調査を本會の機關誌上に發表を乞ひ以て當事者の參考に供して來た。本會は自己の使命に立脚して新訓令の趣旨徹底に對し全幅を期することは當然の責任であると信ずる。現今これに關する參考文献の多からざる今日、この重大問題を研究せんとする教育實際家のために、取敢へず從來本會が蒐集し發表して來た資料を一冊に編纂して希望の同志に頒つこととした。このことは確かに我が使命の一端を果す所以であらうと確く信じてゐる。

二 編者は過去及び現在もこれ等教育の實際に關與してゐる立場から、上述の如き趣意の上から聊かなりとも研究者の同伴たらんとする至情から、或は學術上専門的には素人であるにも拘はらず、強ひてこれが編纂に當つたわけであるから多くの不足もあるであらうし、且この重大問題を解決するに本書が與つて完全であるといふことは申さない。更にお断りしておく、上述の通り上梓を急いだところから登載原文に筆者各先輩の訂正増補を希ふ餘裕がなかつた、随つて他日改訂完璧を期することにしたと思ふ。記文作者先輩の責でないことを讀者各位は御承知されたい。

三 挿入した性能検査器械等も更に多方面の資料が多々あると信ずるが、それは他日の補足に俟つこととした。最後に本會は個性、職業等の問題も須らく教育に立脚し、而してその指導をなすべき基調は人生、社會、我が國家等の根本觀念を出發點とすべきことを確く信ずるによつて、特に本書後篇にこの問題を掲げた次第である。

昭和二年十二月二十六日

文部省構内實業補習教育研究會幹事

編纂責任者 金井十郎平識

兒童生徒ノ個性尊重及職業指導ニ關スル件

學校ニ於テ兒童生徒ノ心身ノ傾向等ニ稽ヘテ適切ナル教育ヲ行ヒ更ニ學校卒業後ノ進路ニ關シ青少年ヲシテ其ノ性能ノ適スル所ニ向ハシムルハ時勢ノ進歩ト社會ノ推移トニ照シ洵ニ喫緊ノ要務ニ屬ス隨テ學校ニ在リテハ平素ヨリ兒童生徒ノ個性ノ調査ヲ行ヒ其ノ環境ヲモ考慮シテ實際ニ適切ナル教育ヲ施シ各人ノ長所ヲ發揮セシメ職業ノ選擇等ニ關シ懇切周到ニ指導スルコトヲ要ス是ノ如クシテ國民精神ヲ啓培スルト共ニ職業ニ關スル理解ヲ得シメ勤勞ヲ重ムズル習性ヲ養ヒ始メテ教育ノ本旨ヲ達成スルニ至ルモノナルヲ以テ自今各學校ニ於テハ左ニ掲グル事項ニ就キ特ニ深ク意ヲ用フベシ

一 兒童生徒ノ性行、知能、趣味、特長、學習情況、身體ノ情況、家庭其ノ他ノ環境等ヲ精密ニ調査シ教養指導上ノ重要ナル資料トナスコト

一 個性ニ基キテ其ノ長所ヲ進メ卒業後ニ於ケル職業ノ選擇又ハ上級學校ノ選擇等ニ關シテハ適當ナル指導ヲナスコト

一 學校ハ前掲ノ教養指導等ニ關シ父兄及保護者トノ連絡提携ヲ密接ニスルコト
地方長官ハ克ク以上ノ旨趣ヲ體シ其ノ目的ノ達成ニ力メムコトヲ望ム

昭和二年十一月廿五日

文部大臣 水野鍊太郎

昭和二年十一月廿五日

文部次官 栗屋謙

各地方長官宛

兒童生徒ノ個性尊重及職業指導ニ關スル件

本日文部省訓令第二十號ヲ以テ標記ノ件訓令相成タル處右實施ニ就キテハ特ニ左記事項御留意相成度依命此段通牒ス

記

一 兒童生徒ノ個性、環境等觀察調査ノ方法及記入ノ様式ニ關シテハ學校當事者ヲシテ特ニ研究工夫セシムルコト

一 學校當事者ヲシテ職業紹介所トノ連絡ヲ密接ナラシムルコト

一 師範學校實業補習學校教員養成所等ニ於テ生徒教養上訓令ノ旨趣ニ就キ特ニ留意セシムルコト

一 學校職員等ニ對シ適宜個性調査ニ關スル講習ヲ爲スコト

一 訓令ノ旨趣ハ之ヲ父兄保護者ニ徹底セシムルコト

學校に於ける教授訓練の方法は種々の研究も行はれ、實績も亦見るべきものがあるが、然しながら時勢の進歩に對して教育の本旨が果して十分に徹底して居るや否やに至つては、遺憾ながら尙未だ注意すべき事の夥なからざるを見るのである。元來教育の本旨は、児童生徒の個性環境等を基礎として、實に其の在學中に適當なる教育を行ふのみならず、更に其の卒業後の進路に對しても懇切なる指導誘掖を加へ、各其の性能境遇等に適する所に向はしむるに至つて、始めて其の目的を貫徹することが出来るのである。即ち學校は平素より児童生徒の各自に就いて其の性行、智能、學習情況、身體の情況、家庭其の他の環境等を精密に觀察し、調査もして、各人の教養上重要な資料を得るのみならず、之に基いて教授訓練の方法を適切にし、其の長所は之を益々發揮せしめ、其の短所は之を矯むるは勿論、更に卒業の後、各人をして其の性能に應じて、夫れん適處に進ましめんが爲めに、上級學校又は職業の選擇等に就いても適當に指導を加ふるに至つて、始めて萬全の實績を収むるに至ることと思ふのである。

學校教育が児童生徒に對し、一般國民として共通的に必要な素養を與ふると共に、團體的訓練の成果をも收め、同時に又個人教育の長所をも併行せしめて、適材を適處に向はしめ、獨り當人の成業を助くるのみならず、國家産業上の能率を増進して國運の進展に寄與する所以は畢竟以上の要義に歸するのである。然るに從來の實情に於ては此の教育上最重要なる個性尊重の旨義が頗る徹底を缺き、隨て教授訓練の方法も多く形式に流れ、劃一に失し、國民の實生活に顧みて職業に關する理解を得しめ、又職業に必要な智能を授けるとか、勤勞を重んずるの習慣を養ふとかいふことも、動もすれば閉却せられ、特に高學年に進むに従つて上級學校の入學試験準備に没頭し、之が爲に或は心身の發達を害し、元氣を銷磨せんとするの憂ふべき弊害を助長しつゝあることは争ふべからざる事實である。又卒業後の進路に關しても、指導が行はれざる爲めに漫然上級の學校に入學するも中途にして學業を廢し、或は職業に従事するも其の種類が其の性能資質に適應せずして、失職轉業等の機會を多からしむる如きは亦憂ふべき事象を惹起しつゝあるのである。

今回文部省が試験制度に關する省令の改正及訓令の發布等と同時に、児童生徒の個性尊重及職業指導に關する訓令及通牒を發したのは、畢竟以上の見地に基いて從來の型に捕はれたる教授訓練の諸弊を矯正し、教育本來の目的を貫徹せんことを期するの

旨趣に出たのであつて、試験方法の改善案と共に教育の内容刷新上頗る重要な意義を有するのである。近時一般に高唱せらるゝ教育の劃一の打破、實際化の實願も、畢竟するに此の訓令の旨趣の達成に由つて始めて期待せらるゝことと思ふのである。茲に特に留意を請ひたいのは、職業指導のことである。申す迄もなく職業指導は児童生徒に對し其の學校在學中、個性環境等に基いて職業に必要な素養を與へ、愈々學校卒業の際に於ては將來執るべき職業の選擇、又は進むべき上級學校の選擇等に就き各人の資質に應じて適當なる指導を加へ、尙其の就職後の輔導等を意味するのであるから、其の要旨は全く教育の本旨に包含せらるべきものであつて、假令職業の選擇に對する指導に伴ふて職業紹介所の事務と密接なる聯絡を要する場合ありとするも、其の根本要義は決して勞務の需給關係に胚胎するものでないものであるから、教育の本旨を達成するに於ては所謂職業指導の目的も自ら貫徹せらるゝのである。此の點は特に深く教育當事者等の留意を要することと思ふ。

訓令の旨趣達成に必要な注意事項中、著しきものは通牒に列舉せられて居るのであるが、第一に緊要なることは、児童生徒の個性環境等と觀察調査する方法、及其の結果を精細に記入すべき様式等を如何にすべきかに就ての工夫研究のことである。此の事は平素の教養上及卒業後の進路に對する指導誘掖上、最重要なる根柢を爲すものたることは更に言を要せぬのであるが、此等の外今回の試験方法改善の結果、當該學校長が上級學校入學者の資質等を上級學校長に具申する場合に於ても、重要な資料となるのであるから、學校當事者は此の點にも注意して十分に協議研究し、觀察調査上の規準となるべき諸點及其の結果を表簿等に記入すべき様式を定むるの必要があると思ふ。次に注意を要することは學校と職業紹介所との聯絡を密接にすることである。職業指導の事は前述の通り教育の本旨に合致するのであるが、然しながら學校が其の目的を達成するに就ては國民生活の大部分を占めて居る所の職業に關する實情を熟知し、又各職業群が夫れん青少年の資質に對して如何なる性能等を要求しつゝあるかを熟知し置くの必要があるのであるが、是等は主として職業紹介所に於て調査研究しつゝあるのであるから、此の點に於て既に學校と紹介所との聯絡を要するのである。特に各人の職業の選擇は眞に其の就職と關聯し、而かも此の就職のことも主として職業紹介所に於て取扱ふのであるから、兩者の關係を密接ならしめざるべからざることは又更に言を俟たぬと思ふのである。又今回の訓令は上述の通り學校に於ける教授訓練の刷新を意味するのであるから、師範學校、實業補習學校員養成所等に於て教育學科實業科等を教授する際は勿論、其の他の課程の取扱及生徒訓練の際に於て十分に訓令の旨趣に留意し、生徒が卒業後實際教育の任に當る場合に於て克く訓令の目的を貫徹せしめんことを期せなければならぬ。特に附屬小學校に於ては訓令通牒等に明示せられたる事項を模範的に實施して地方小學校等の參考に資すると共に、本校生徒の教育實習の指導上にも遺憾のないや

う十分に意を用ひなければならぬ。尙從來の實況に考へれば現に學校に在學中の職員及學校醫等に對しても、例へば性能調査に必要な事項とか、個性觀察に必要な事項とか、或は所謂職業指導に關する事項とか、訓令の旨趣達成に必要な事柄に就いて適當に講習を爲し、以てその研究實施を促すことも頗る緊要の事と思ふ。更に最注意することは學校と父兄保護者等との連携を密接ならしめることである。申すまでもなく兒童生徒の個性とか環境とかの觀察調査の如きは、何れも學校當事者のみの力を以てして、到底十分に其の目的を貫徹することの出來ないのであつて、例へば兒童生徒の日常生活に於ける性行とか、家庭其の他の境遇上の事情の如きは、父兄保護者に於て最よく熟知し居るべき管のものであるから、學校は是等に關する資料を得るの點に於て、父兄等と密接なる聯絡を要するのである。特に各人の上級學校への入學に就ての指導、職業選擇及就職に就いての指導の如きは本來父兄の爲すべき事に對して、學校は助言協力を爲する關係にあるのであるから、一層父兄等との連携を密接ならしめなければならぬと思ふのである。又是等の本旨を徹底せしめる爲めには從來一般尙未だ教育の眞の意義を諒知せざきものあるの情況に顧みて、先づ以て一般父兄等に對し、今回の訓令の旨趣を周知せしむるに必要な方法を實施することを考へる。

以上は今回發布せられたる訓令及通牒の要旨の略説であるが、此の旨趣の達成に就ては更に都市とか、農村とか、夫れ々地方の實情に應じ、又學校の事情にも考へて適切なる細案を研究實施せられんことを希望して已まない。要するに今回の訓令は、學校教育の内容刷新に對しては勿論、教育の實效を國運の進展に適應せしむるの本旨に於て、頗る重要な意義を包含して居るのであるから、學校當事者は申すに及ばず一般社會に於ても、深く其の主旨の存する所を諒知せられ、協力一致して以て其の期待する所を達成せんことを切望に堪へぬのである。

兒童の個性尊重及び職業指導

總目次

前 篇

第一章 職業と個性

第一 職業の眞義	奈良女子高等師範學校教授	眞田幸徳	(一)
第二 人類の仕事	文部省督學官	小出滿二	(八)
第三 個性	文部省實業學務局 文學士	矢田篤	(一三)
第四 職業に就いて	東京高等師範學校教授	原房孝	(二〇)
第五 職業觀念	東京高等工藝學校教授	桐淵勘藏	(二六)
第六 職業教育の本旨に就いて	文部省書記官	伊東延吉	(三一)
第七 職業教育の中心問題	文部事務官文部省督學官	矢野貫城	(三七)
第八 職業指導の起源及其の發達	横濱高等工業學校教授	水野常吉	(四四)
第九 少年職業指導と紹介	内務省社會局書記官	大野録一郎	(五一)
第十 少年職業指導の規準	東京市社會局	谷口政秀	(五九)
第十一 職業指導論	横濱高等工業學校教授	水野常吉	(六四)

第十二 實際的職業指導法を述べて普通教育と職業との關係に及ぶ…………… 東京市少年相談部 鈴木松太郎 (七六)

第十三 獨逸勤勞教育に就いて…………… 文部省實業學務局 文學士 遠藤順一 (九〇)

第十四 プレボケーショナル・エジュケーション…………… 奈良女子高等師範學校教授 眞田幸憲 (九六)

第二章 職業指導と教育…………… (一〇七—二八)

第十五 中等教育に於ける國民能率上緊急改善事項…………… 彦根高等商業學校教授 木村善堯 (一〇七)

第十六 我等の兒童を如何なる職業に指導すべきか…………… 東京市社會局 谷口政秀 (一一三)

第十七 職業輔導の教と實業補習教育…………… 文部省實業補習教育主事 岡篤郎 (一一八)

第十八 學校經營と能率増進問題…………… 横濱高等工業學校教授 水野常吉 (一二六)

第十九 産業能率問題より見たる職業指導…………… 文部省督學官 秋保安治 (一三六)

第二十 能率の増進について…………… 農林事務官 一番瀬佳雄 (一五〇)

第二十一 勞働爭議の主題…………… 桐生高等工業學校工學博士 西田博太郎 (一五六)

第二十二 勞働問題と教育…………… 文部省實業補習教育主事 寺崎九一郎 (一六三)

第二十三 勞働の本能と産業組織…………… 文部省實業學務局文學士 宮島清 (一六七)

第二十四 多方實業主義の生産學校…………… 奈良女子高等師範學校校長 槇山榮次 (一七三)

第二十五 失業問題の二大對策…………… 東京商科大学教授法學博士 上田貞次郎 (一七五)

第二十六 新らしい教育制度と職業教育…………… 文部省實業補習教育主事 岡篤郎 (一七七)

第二十七 職業の變革…………… 東京市社會局 谷口政秀 (一八三)

第二十八 職業教育と公民教育…………… 文部省實業補習教育主事 松本喜一 (一八七)

第二十九 青年教育指導要録…………… 文部省實業補習教育主事 菊地良樹 (一九二)

第三十 人間教育と職業的陶冶…………… 東京高等師範學校訓導 廣瀬清 (一九七)

第三十一 管理者たるの資格…………… 東京高等工業學校講師 佐藤富治 (二〇五)

第三十二 少年保護の新傾向…………… 司法省保護課長司法書記官 岩村通世 (二一八)

第三十三 公民教育と少年審判所…………… 東京少年審判所長 植田彗三郎 (二二三)

第三章 性能と適材適所…………… (二二九—四〇)

第三十四 公民教育達成の基礎をなす教育指導…………… 東京市社會局 谷口政秀 (二二九)

第三十五 少年職業指導運動及施設…………… 東京府職業紹介所長 豊原又男 (二七三)

第三十六 職業希望と職業選擇及びその指導…………… 東京市少年相談部 小野磐彦 (二九〇)

第三十七 解放されたる現代青年の進路…………… 東京高等工藝學校教授 桐淵勘藏 (二九七)

第三十八 各種の職業指導計畫及指導組織…………… 横濱高等工業學校教授 水野常吉 (三〇一)

第三十九 成功論(成功の第一線に立つものゝ爲めに)…………… 東京市社會局 谷口政秀 (三三〇)

第四十 個性と能率と職業選擇の基礎…………… 東京市中央職業紹介所 松井詮壽 (三四八)

第四十一 腦の發育と知能……………文部省學校衛生官 岩 原 拓 (三八)

第四十二 眼と耳と職業の選擇……………東京市少年相談部 小野 磐 彦 (三七)

第四十三 公民の能率増進より見たる性能診査……………東京市中央職業紹介所 鈴木松太郎 (三三)

第四十四 我々の能力別學級編制について……………兵庫縣阿萬農業補習學校長 藤 森 龍 市 (三七)

第四十五 學習能率増進法としての試み……………奈良縣田原農業補習學校長 田 中 重 德 (三九)

第四十六 個性研究より見たる職業指導並に
適材適所と個性及個人差について……………東京市中央職業紹介所 鈴木松太郎 (三九)

第四章 職業指導の實際案

第四十七 我が國に採用すべき
職業指導案の骨子……………横濱高等工業學校教授 水野 常 吉 (四二)

第四十八 職業指導の實際に當りては指導案……………東京市少年相談部 小野 磐 彦 (四三)

第四十九 ポストン市及び獨逸に
於ける職業指導の實際……………横濱高等工業學校教授 水野 常 吉 (四五)

第五十 職業輔導の一機關に輔導の實際……………東京市職業輔導會 中川 順 吉 (四六)

第五十一 英國に於ける産業福利……………東京高等工業學校講師 佐藤 富 治 (四七)

第五十二 職業指導の基礎案……………東京市中央職業紹介所 松 井 詮 壽 (四八)

第五十三 地方に於ける職人の教育問題……………山梨縣立師範學校教諭 高橋 榮 五 郎 (四九)

第五十四 農村青年と職業指導問題……………東京市 社 會 局 谷 口 政 秀 (五〇)

第五十五 農村青年教育指導改善の歸着點……………福島縣實業補習教育主事 景 山 鹿 造 (五一)

第五十六 私のプロジェクトメソッド……………新潟縣六日町農商補習學校 古 澤 英 明 (五〇)

第五十七 徒弟教育會……………新潟縣燕町學務委員 中 野 民 次 (五一)

第五十八 郷土背景の職業科教授の方案……………宮城縣池月農業補習學校 川 村 虎 郎 (五二)

第五十九 能率上より見たる補習教育の現在……………和歌山縣實業補習學校長 樋 泉 慶 次 郎 (五三)

第六十 職業教育指導の實際……………宮崎縣三股實業公民學校 荻 生 均 (五四)

第六十一 農事相談所……………愛知縣栗原實業補習學校長 尾 頭 繁 (五五)

第六十二 青年の指導者と愛の持主……………福岡縣朽網實業補習學校長 大 野 一 郎 (五六)

第六十三 少年の職業教育……………文部省實業學務局 (五七)

第六十四 職業指導の實際及參考資料……………東京中央職業紹介所 (五七)

後 篇

第一章 青少年指導と教育

第一 現代教育の根本的革新……………東京商科大学長 法學博士 佐 野 善 作 (五六)

第二 時代の趨向と教育者の責任……………法 學 博 士 岡 實 (五六)

第三 青年 教 育……………文 部 書 記 官 木 村 正 義 (五七)

第四 教育と社會問題……………法 學 博 士 下 村 宏 (五七)

(五六一—五九六)

第五 新時代の青年と職業……………貴族院議員 永田秀次郎 (五二)

第六 青年心理と訓練……………東京府豊島師範學校長 櫻井賢三 (五九三)

第七 心理學的進化論……………文部省實業學務局 文學士 宮島清 (六〇一)

第二章 社會・人世・宗教……………(六〇五—七〇〇)

第八 科學發見と社會の進歩……………廣島高等師範學校教諭 鎌塚扶 (六〇七)

第九 社會觀の一考察……………東京帝大經濟學教室法學士 原彪 (六三)

第十 社會的良心……………明治大學 教授 池岡直孝 (六二〇)

第十一 現代青年の社會的自覺……………東京帝國大學助教授 今井時郎 (六三九)

第十二 農村社會概觀……………熊本縣實補教員養成所主事 長野長廣 (六四五)

第十三 情味ある人間の養成が基調……………福岡縣筑紫國民學校長 石橋長三郎 (六四八)

第十四 人間性の教育……………京都帝國大學教授工學博士 青柳榮司 (六五五)

第十五 人生と宗教……………文部省書記官 松尾長造 (六七二)

第三章 道德・經濟・思想……………(七〇一—七五三)

第十六 新時代と國民道德……………東京帝國大學教授文學博士 深作安文 (七〇二)

第十七 生物學上より見たる道德……………文部省實業學務局 文學士 宮島清 (七〇七)

第十八 道德組織に於ける制度の任務……………明治大學 教授 池岡直孝 (七二)

第十九 經濟と人世……………文部省事務官 矢野貫城 (七一九)

第二十 歐米の財界と我國の信用……………貴族院議員 森賢吾 (七三四)

第二十一 發明獎勵……………文部省督學官 秋保安治 (七三五)

第二十二 思想善導の上に於ける歴史……………東京高等師範學校教授 齋藤斐章 (七四七)

第四章 我國家と其の發展……………(七五三—八二八)

第二十三 國家の職分と社會的基礎……………明治大學 教授 小島憲 (七五三)

第二十四 國家の人的・物的基礎……………明治大學 教授 赤神良讓 (七六九)

第二十五 國家總動員に就いて……………陸軍省動員課長 陸軍大佐 永田鐵山 (七八〇)

第二十六 國際心とは何か……………貴族院議員 學博士 新渡戸稻造 (八〇一)

第二十七 建國の精神……………貴族院議員 永田秀次郎 (八〇七)

第二十九 日本民族の使命……………衆議院議員 永井柳太郎 (八二五)

目次 終

性能検査器械に就て

職業選擇の基礎となるものは心理的生理的個人差である。人はその容貌の萬人萬様である如く各人生れ持つた能力素質も亦萬人萬様である。この各人生れつた素質傾向即ち個人的差違によつて一生の進路方向を決定し、これに應じて正しく啓發させて行くべきものであつて、若し此の進路を誤るときは又と得難いその人の一生を遂に無爲にして終始せしむることとなり、本人の不幸は固より、社會の損失も亦多大である。

優秀な素質を持つた青年が社會の不良分子に投じ、有爲な天賦を有する人が失職者の群に陥り、惜むべき材を抱きつゝ沈淪するのみならず、往々社會に害毒を流す様な悲惨な例も亦最初の進路を誤つたことから來る場合が少くない。

各人の個性特質を精査する方法は様々ある。學校に於ける教師の觀察、豫備知識に基づいた本人の内省等もその主なるものであるが、近年科學的實驗による性能検査法の發達は著しいもので實際的に有効な域に達した。

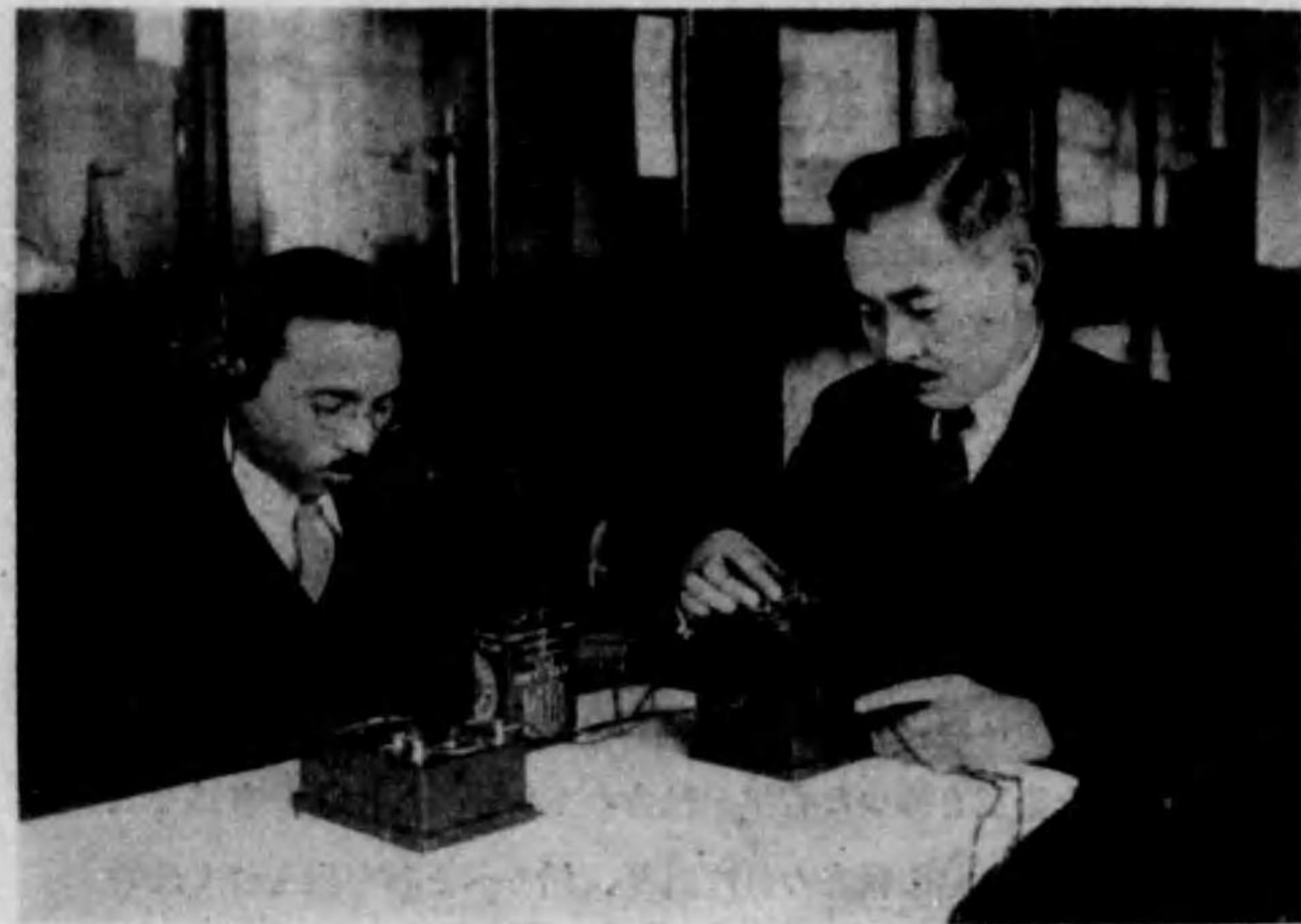
性能検査器械としてこれまで世に現はれたものは實に多種多様であつて、實地採用に當つてその選擇に迷ふのであるが、廣く一般的に應用する爲にはあまり複雑に過ぎず、大さも手頃で値段も成るべく安く然も結果の相當信頼出來るものであることが望ましい。

その點に於て茲に掲げた一組の器械の如きは以上の諸條件に略適合し、現在に於て推奨に値するものと認めて、茲に輯録する所以である、尙器械についても卷頭緒言を參照せられたい。

— 編 者 —

聽力検査實驗中

(聽力検査器械にて)



手先動作實驗中

(作業速度検査器械にて)



東京高等師範學校教授文學博士 田中寬一氏
同 講師文學士 武政太郎氏
(東京高等師範學校心理學教室に於て)

運動速度検査實驗中

(運動速度検査器械にて)



構成能力検査實驗中

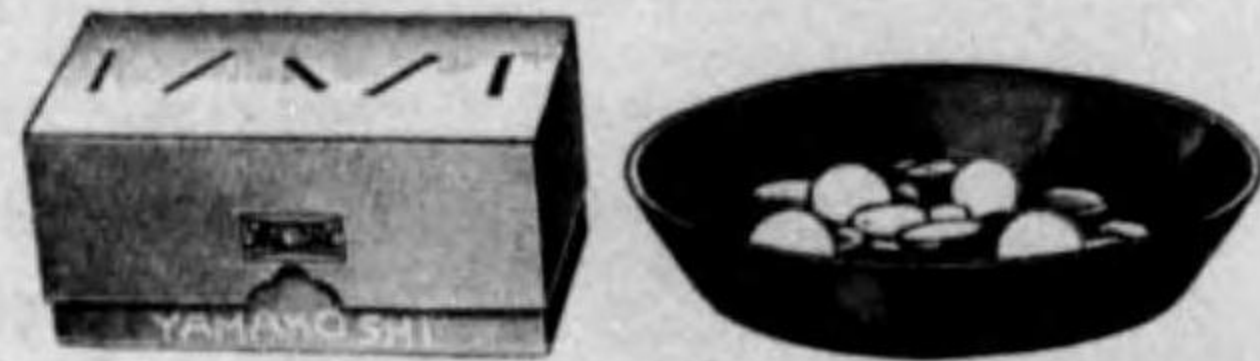
(構成力検査器械にて)



用具 視觸覺辨別検査器 (一名メダル分配器)(第二圖)

之は大きさと厚さの異なるメダル五種、總數 50 個と、メダルに相應した五つの穴のある箱と、メダルを入れる皿とから出来てゐる。

第二圖 視觸覺辨別検査器



文古皿

ストップウォッチ

最初文古皿にメダルを入れ、同種のも
のが同一個所に集まらないやう振り廻し
その皿を被検者の右側に、穴のある箱を
左側に並べておき説明語を與へる。

説明語「ここにちの銀の形をしたものがあります。之をこの穴へ入れるのですが、どの穴からでも
這入るのではありません。メダル一つはどれかこの内の一つからだけに這入ります。(左手で箱を押
へ)之を右手で一個づつ持つて出来るだけ早く全部入れて下さい。用意」

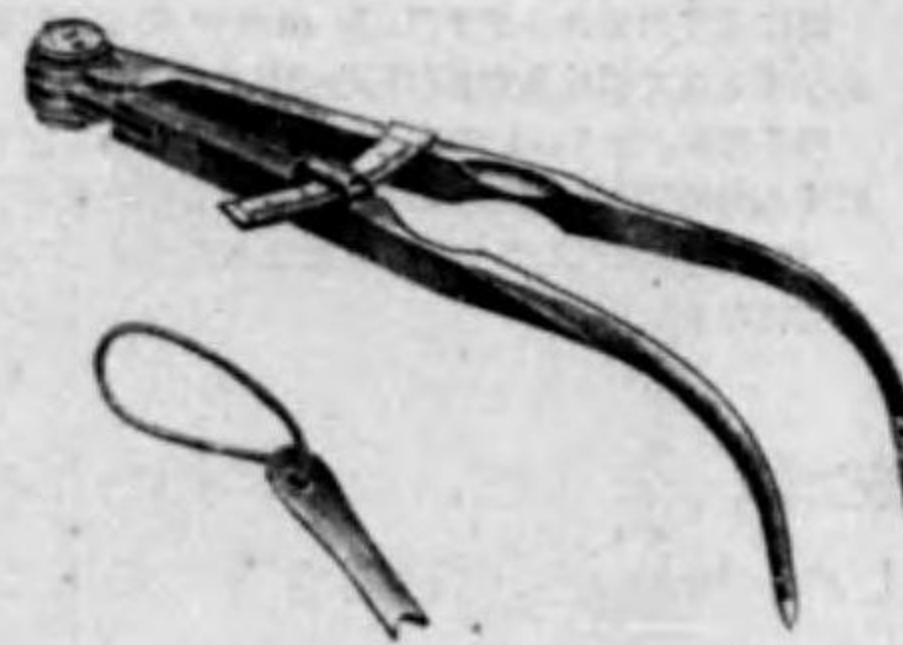
發令と共に時計を進ませ、全部入れ終るまでの時間を測定すればよい。

採點方法 全部入れるに要した時間が點數になる。

3. 觸覺計

ある日一人の少年(十七歳)が轉職の相談に來た。本人は三ヶ年間貴金屬工場で時計の鎖を製造し
てゐたが仲間の者が三連を製造するにも關はらず本人は一連より作り得ない。それで主人よりす
められて轉職せんとする如何? といふのであつた。検査してみると小學校時代に示指に外傷をした爲に指頭
の感覺が鋭敏でないことが知れた(一般の少年では示指の渦卷の上はこの觸覺計で 1.0—1.5 ミリ米が通常で
あるが。(被検者には眼目させる)この時に本人の感覺は 2.5 ミリ米で始めて二點を識別した)それで他の検査
の結果商業につかされたのであつたが、若し本人が三年前に相談に來たならば無駄に三ヶ年を費やさなかつ
たであらう。この検査器はこのやうに皮膚面の感覺の鋭鈍を検査する器械であつて、皮膚面の感覺は智能と
關係があるとも云はれ、最もよく疲勞を報らせるとも云はれてゐる。それはともあれ手先を使ふ職
業に携る者に必要な検査である。(圖には本器と其の螺廻しを示す。)

第三圖 觸覺計



(本器附屬の螺廻しは空間辨別検査器の栓メにも用ひられる。)

4. 視力検査

視力によつて職業の範圍が定まる場合が多い。視力の検査は職業指導の上に緊要なる者である。

用具 萬國式視力表

検査方法 一般に視力の検査は器械及器具、設備の不備の爲めに非常に困難である。又被検者の
氣分、體質等の問題は暫く抜きにしても、時刻によつて明暗の度が非常に異なる。検査はこの點を
顧慮して行はねばならぬ。で普通北向の高い大きな窓の側の壁に表を吊すのが最もよい。表と被検
者との距離を五米とする。一方の目を手で被はせて片方宛検査する。見にくい所を無理に見せやう

とすると疲勞するから一時休憩させてから検査するとよい。

採點方法 視力表の數字により被検者の得點を定める。

5. 色盲検査

色盲の検査は汽車電車の運轉手、信號手、轉轍手等には極めて重要な検査であるが、其他總て色
彩に關係ある職業には特に大切である。

詳細は色盲表に添附の色盲検査手引参照のこと。

6. 空間辨別検査

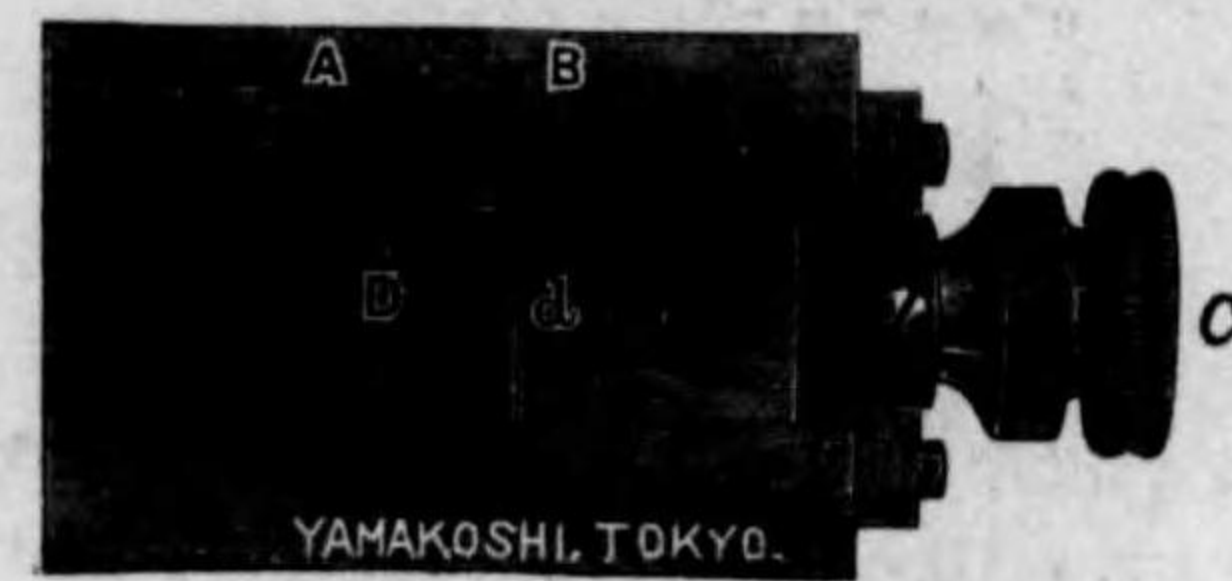
用具 空間辨別検査器 (第四圖)

この器械の表面に固定せる二線(A及B)が縦に二センチ米の間隔を置いて平行してゐる。又他の
一線(d)はその平行線の下にその平行線に平行で左右に動く盤の上に畫かれてある。左右に動く盤
は移動盤(D)といつて、移動栓(C)の廻轉によつて左右に動き同時に(d)線を左右に動かす。そし
て右に廻す時は進み左に廻すときは戻る。

裏面には硝子窓があつて、覗けば二センチ米の間をミリ米の刻み目が見え、又移動栓の根には

更にミリ米の十分の一(0から右の方は 0⁹
まで左の方は 0-IX まで刻んであつて一回
捻にて一ミリ米に達する)を知るやう目盛
が出来てゐて表面からは覆の爲めそれが見
えない。

第四圖 空間辨別検査器



A B } 距. 2cm. 目盛線
C. 移動盤栓 D. 移動盤
d. 移動線

検査方法

検査者と被検者とは机を中にして對座
し、検査者は裏面硝子窓内の目盛を見て、最
初は移動線を 5 の處に置き次には V の處
に、第三回も同じく V の處に、かくして
最後には再び 5 の處に置いて、被検者をして移動栓 C を動して A と B の間を二等分せしむるので
ある。

記號は以上の四回のもを第一回と第四回のもは假りに移動線 0 目盛線に達せざる時を負數
(-)ととり、0 線を越した時には正數(+)とする。又第二回目第三回目に於ては之と同様に 0 線を
越した時を正數(+)とし然らざる場合を負數とする。かくの如く記録するやう検査者は心得てから
説明語を與へるのである。

説明語「上の方に二本の平行した、動かない線があるでせう。下の方の一本の縦線は栓を廻せ
ば動きます。今この栓を廻はし乍ら、下の線を上の二本の線の恰度中間に持つて行つて下さ
い。之でよいと思つた時そのまま栓を持たないで私に渡して下さい」

之は時間には制限なく自由な時間で検査を行ふのである。

採點方法 採點には四回の検査の結果を記號には關係なく平均をとつてそれを目測の價とする。

7. 光度辨別検査

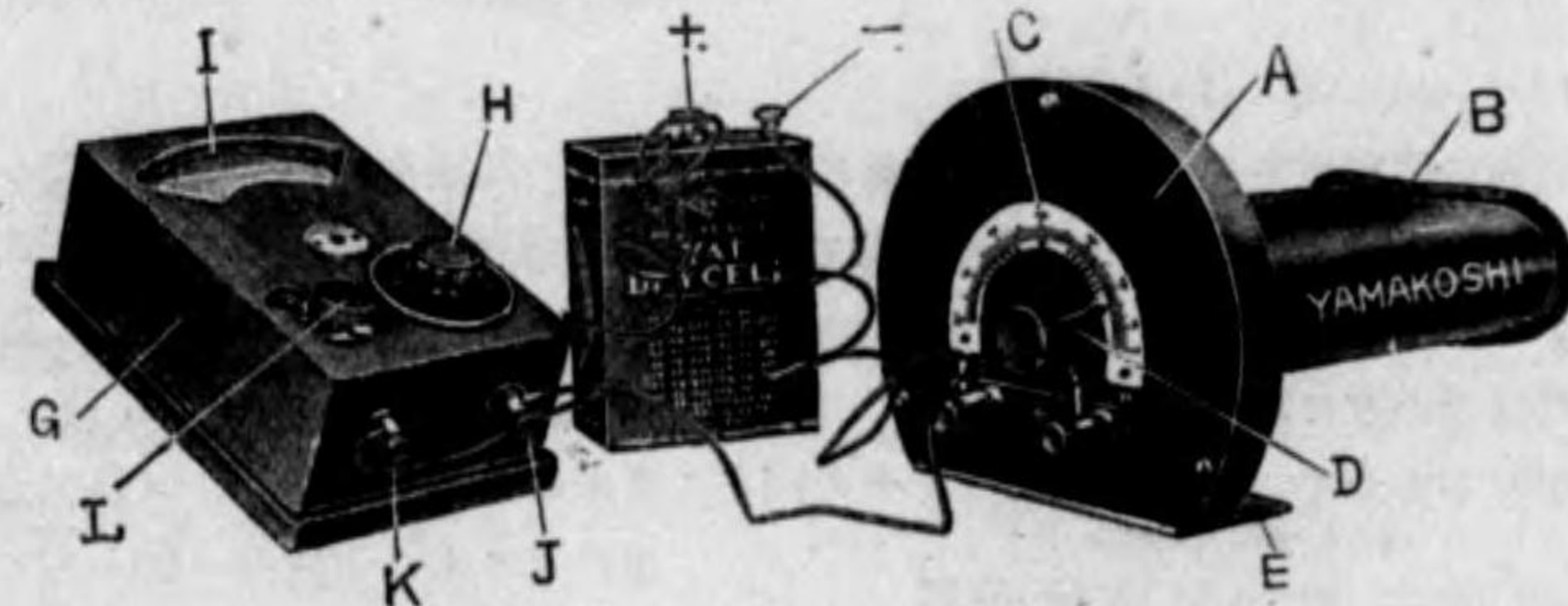
本検査の目的は、視覺に訴へる光線がその光度を 何の程度に變化すればその相違を發見し得るか

といふことの検査で、鋳物工、鍛冶工等總て目にて加熱度を識別して製造する職業に従事するものには極めて大事な検査である。

用具 光度辨別検査器 (第五圖)

之は全體が暗箱(A)になつてゐて、暗箱内に電球が装置され外部よりその位置を自由に移動し得るやうに出来てゐる。暗箱の外部は二個の窓があつて、電燈の光はその窓に映じてゐる。今電燈が二個の窓の間にあるときには窓に映ずる光は兩者に同等の光度を現はして、心理學的にも之が同一光度であるといふことが講れるのである。處が電燈の位置を變へて一方に近く他方に遠くすれ

第五圖 光度辨別検査器



- | | |
|-------------|-----------------------|
| A 暗箱 | H 抵抗調節器 |
| B 観察窓 | I メーター |
| C 電燈 | J 電池接線ターミナル(電池より) |
| D 指針(電燈移動時) | K ターミナル(暗箱(A)より) |
| E 暗箱を又クランプ板 | L 切替スイッチ(メーターとテストの両用) |
| G 抵抗器付メーター | |

ば窓に映ずる光度は近い方に明るく、遠い方に暗くなることは明かである。この電燈の位置を表はす目盛と被検者の位置を一定に支持する臺とがあり、他の光に障害されないやう更に暗箱に包まれてゐるのがこの器械の主要部である。

乾電池 一個(電燈點火に用ふ)

抵抗器 一個(電流の調整に用ふ)

黒布 (日光線除けに用ふ)

検査方法 被検者を器械の前に座らせ、顔面の位置を定むる暗箱(B)に眼をつけ、光明の映つてゐる窓を注視させる。裏面の指針(D)を目盛盤(C)の0度の處におく。黒布を(寫眞撮影の際に於けるが如く)被検者の頭部に被せる。

説明語「二つの窓が見えるでせう。兩方の光度が一樣ですが、これが段々變つて一方が他方よりも明くなつたと思つた時に合圖をして下さい。用意」

「用意」で背後の電燈移動栓の位置を移動させると、電燈の位置が右に左に望む角度をとつて動かすことが出来る。

検者は最初目盛盤の零の處より漸次電燈を移動させて被検者の明暗度の相違を見て識別し得た點を檢べるのである。

採點方法 最初には時計の針の廻轉する方向に、次には之と反對に第三回目は第二回目と同じ方向に、第四回目は第一回目と同じ方向に廻轉して調べる。而して四回の實驗の平均をとつて識別能力の指數とする。

注意 圖中(L)を手にして meter に接続させ、メーター(I)の度盛(2)の位置に指針が指示するまで抵抗調節器(H)を廻して調節する、而して更らに(L)を Test に切替接続せしめて検査を始める、これは光度を何時も一定せしめるため電流の調節をなすので本器使用上の要點である。

精神機能

8. 注意力検査

注意力を集中すれば何の程度に心を集めることが出来るか。そしてこの注意力はどの位持續するものかを検査するのを目的とする。

用具 注意力検査具 之は陰影のある木形を積み重ねたやうな圖形であつて、被検者をして凝視させて検査をする。

運動速度検査器 (第六圖) ストップウォッチ

第六圖 運動速度検査器



- | |
|-----------|
| A. 打叩器 |
| B. 數字戻し控栓 |

検査方法 被検者をしてこの圖形を凝視させると、假りに最初は積重ねた木片が上部から見てゐるやうに考へられるとすれば、次の瞬間には下部から眺めるやうに見える。この理を應用するもので注意力の強いものは割合にこの變化が起らない。説明語は次の如くに與へる。

「この圖形を見てみると並べた木片の方向が變つて來るやうになります。なるべく變らないやうにしてみても變るから、變る度にこの鍵(運動速度検査器のAを指す)を押しなさい。最初はこの十字(圖形の右下方)の所を見

てみなさい。用意……」かくして十字圖の上を指示して「始め」で、木片の圖形上を指示し同時に時計を進める。

採點方法 検査時間を三分間として、この間に注意の動搖した數によつて注意力を檢べるのである。

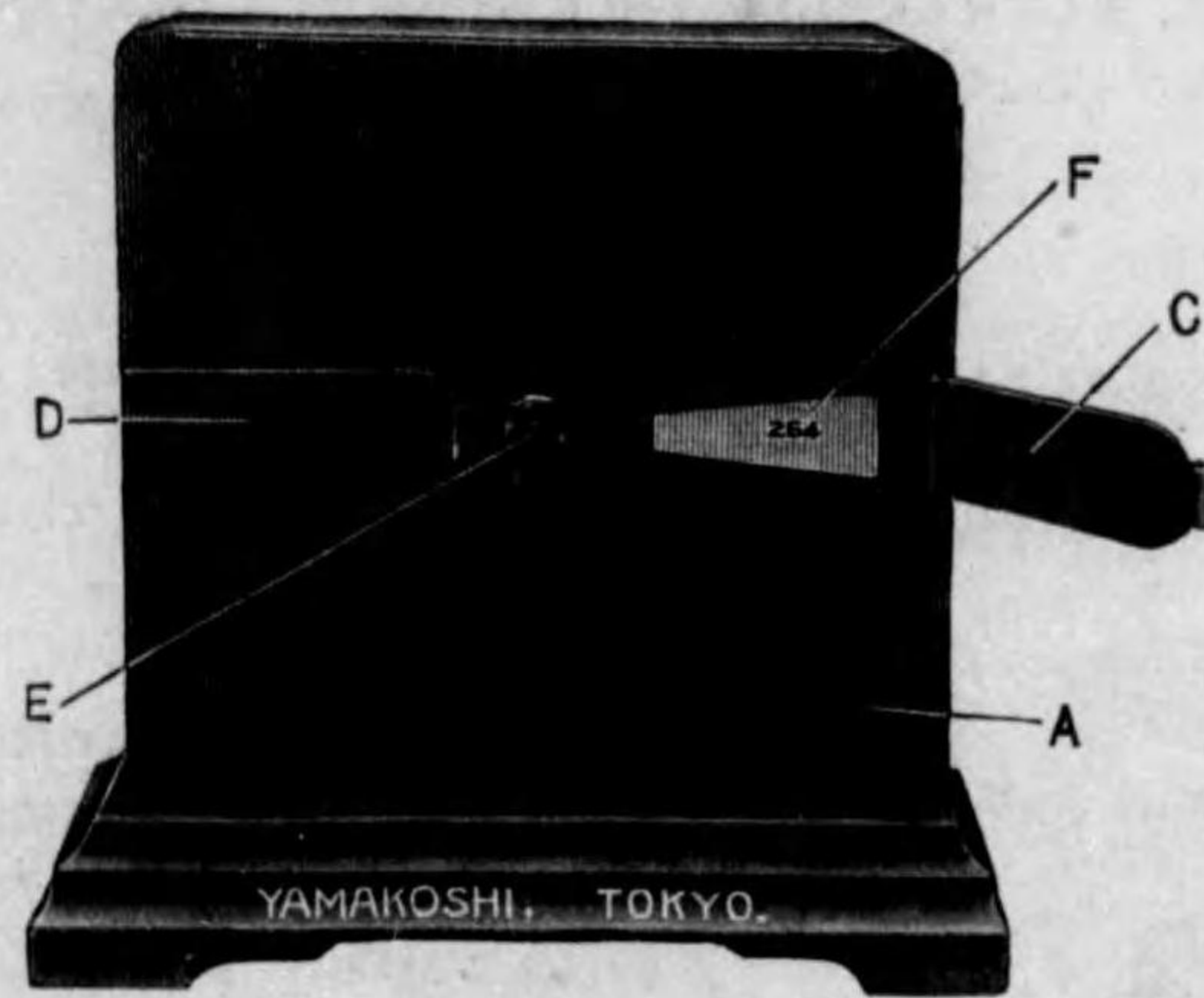
(本検査は檢者の熟達するにあらざれば良き成績得難きが故に、此のもの以外に落下式露出器を以て注意力の測定を最適なりとす、目下本器に付て採點中に付追て其の成績と結果を發表する。)

9. 記憶力検査

本器の主要部分は刺戟盤(F)と之を廻轉する齒車と、それに連結する露出栓(B)、及び衝立(A)より成る。露出栓を押す時は撥條の力により齒車が廻つて刺戟盤を廻轉し、次の刺戟語を現はす仕掛になつてゐる。

被検者は器械の前面より、開いてある衝立の窓から正しい姿勢で之を覗くのである。

第七圖 記憶検査器



A 衝立
B 露出栓(本器裏面の下方にある)
C 蓋
D 定置(特種検査用)
E 刺戟盤押へ
F 刺戟盤

し、メトロノームの音を聞きつゝ衝立の窓を明けて、二秒に一回宛新たな刺戟語が露出するやう露出栓を押し、放しするのである。

此際被検者は位置正しく、器械の前面に向つて座を占め、現れる文字を聲を立てないで讀ましむ。十組の刺戟語を露出し終ると、記憶してゐるのを順序正しく答へさせ、検者はそれを逐一記入するのである。この検査は十回反覆する。

説明語は次の如くに言ふ。

「之は記憶を検査する器械であります、あわてないでこの窓を見てみて下さい。この窓の扉が開くと三文字宛の数字を組み合はしたのが順々に出て來ます。之れを聲を立てないで讀みなすよ、記憶して置くのです。それから文字がなくなつて窓を閉めたならば、何々があつたか覚えて居るのをなるべく順序正しく答へて下さい。途中で忘れてゐるのは飛ばしても構ひません。分りましたか。用意……」

注意。被検者の答が正しかつた場合でも同じ實驗をくり返して答へさせるのである。

採點方法 十回検査して、その十回の中正答数の最高をその人の記憶力として採點する。

〔例〕、或る人の検査を行ひ次の如き成績を得たとする、

回数	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X
正答数	0	1	2	1	3	3	3	4	5	4

此の際この人の記憶力を「5」とするのである。

(十回の検査中正答数の多かつた分を採點数とする)

10. 選擇力検査

之は選擇及び辨別能力を検査するものである。

用具 記憶検査器(第七圖)

メトロノーム(拍節器)

刺戟用紙

ストップウォッチ

記憶検査整理用紙

記憶刺戟の種類は澤山あるが假りに標準のあるものを示せば、三文字を一組としたもの十組を一連りとなし第一組より順に露出するのである。

検査方法 検者は記入用紙と鉛筆とを用意し、本器の裏面の中央にある撥條の鍵を捲き止りまで捲きしめ、被検者の精神の充分落付いた頃を見圖つて説明語を與へ、メトロノームが一秒毎に音をたてるやう60の目盛の處に重垂を懸梅

用具 カード分配具 ストップウォッチ

説明 カード分配具は、手掌大のカード一葉につき簡単な圖形を九個印刷し、その九個の内の圖形は三種の異なる形より一定の標準の下に組合されて居り、その三種中どれか一種類は他の二種類のものより數に於て多く、それを瞬間に發見し、最も數の多い形を各々集めしめるのである。而して普通カードの總數は25枚とする。

検査方法 検者はカードの裏に順序の番號があるから、之を最初番號の順序に従つて重ね合せ、被検者を机を中に對座せしめて靜かに準備の出来るのを待たせ、順序に重ね合せたカードを表向にし圖の見えないやうに白カードを上にして持たせる。更に一葉に一圖形を大きくしたカードを被検者の左より右に○□(□)の順に各間隔を5cm位にとり、被検者の側の机の端より20cm位遠ざけて列べる。

説明語は次の如くに與へる。(此場合裏面26と記入せるカードを持ち)

「このカードにはどれにも机の上にあるやうな三つの形が九つ組み合せてあります。處が數の多い少ないがありますから、それを早く見分けて、假に○がその一枚の中で一番多ければ机の上の丸の形の前に置き、□であれば四角の前に重ね、出来るだけ早く、間違はないやうに、分けてしまうのです。分りましたかと云ふて之を分けさせて見ます。初めて丸の印の處へ置けば此意味を諒解したものと用意的號令をかけます。

〔用意〕の號令をかけて約二秒の後「始めッ……」の號令をかけて同時にストップウォッチを押す。而して全部分類し終つた時に、即刻時計の進みを止めるのである。

注意。被検者が二枚重ねて、下の一枚を氣附かないでおくことのないやうにすること。

採點方法 採點法は次の式に當嵌めて算出する。

$$D = \frac{N-W}{N} \times 100$$

$$E = \frac{D}{t} \times 100$$

此式を用ひて確度と能率の比例を求める方法の他に正確度と速度とに分けて取扱へば職業決定の際に便宜である場合もある。

茲に D=識別正確度

N=刺戟カード數(25枚ならば25)

W=誤配數

t=所要時間(秒)

E=識別能率

11. 構成力検査

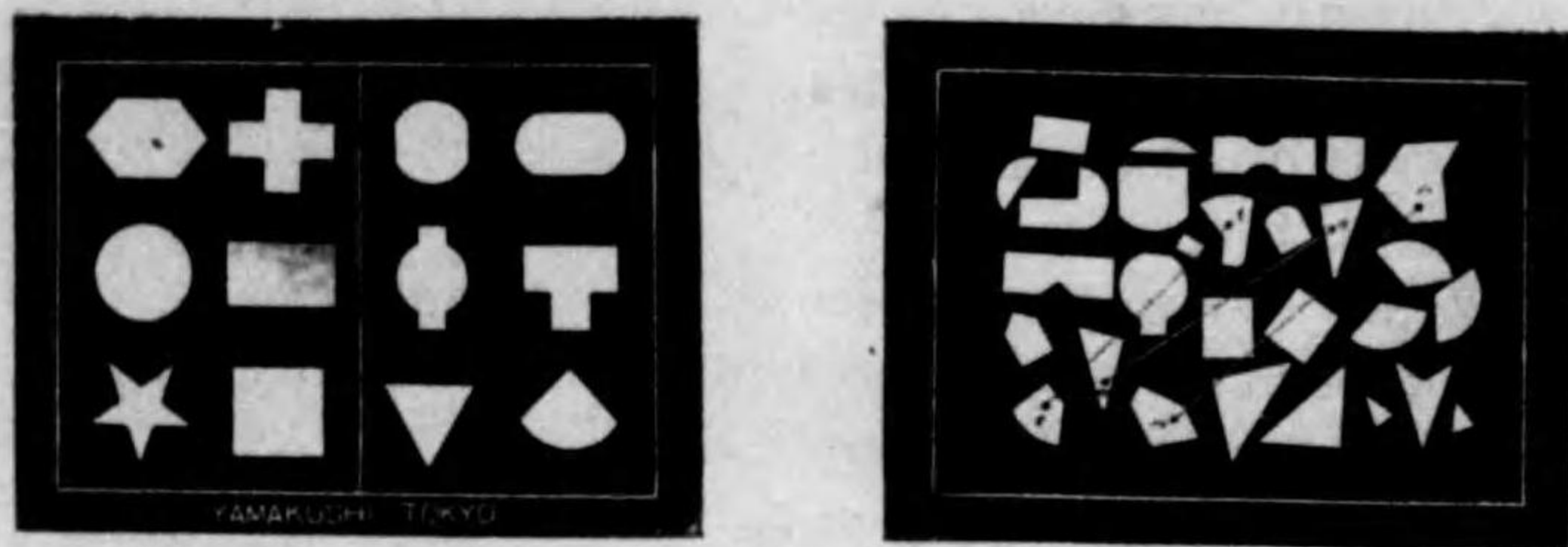
構成とは觀察と想像と工夫との能力を綜合した言葉であつて、この検査は之等の綜合の能力を検査することを目的とするものである。

用具 構成力検査器 (一名嵌木盤)(第八圖) ストップウォッチ

本器の主要部は形態の異なる六個の形を刳抜いた板二枚、之に細かく切つてはあるが、それを組み合せるその刳穴に全部嵌めてしまへるやうに出来てゐる小片28個とから成り立つてゐる。

検査方法 この検査盤を覆ふてある蓋の裏に嵌め込むべき方の小片を圖の如くおき、嵌木盤の正面を被検者の方に向け、小片は盤の右側になるやうに並べ、腰をかけて(左手で軽く兩の縁を押へ)右手だけを用ひて出来るだけ早く嵌め込ませるのである。

第八圖 構成力検査器



前の中に枠の方を置く

小片の方を罫の上に置く

説明語—「これは嵌木盤です。右側にある小片を工夫して組み合せると全部この盤の穴にはまつて、足らなくもなし、餘りもしないやう都合よく這入ります。右手だけを使って出来るだけ早く嵌めて下さい。用意。」

發令と共に時計を進め、全部嵌め終るまでの時間を測定する。

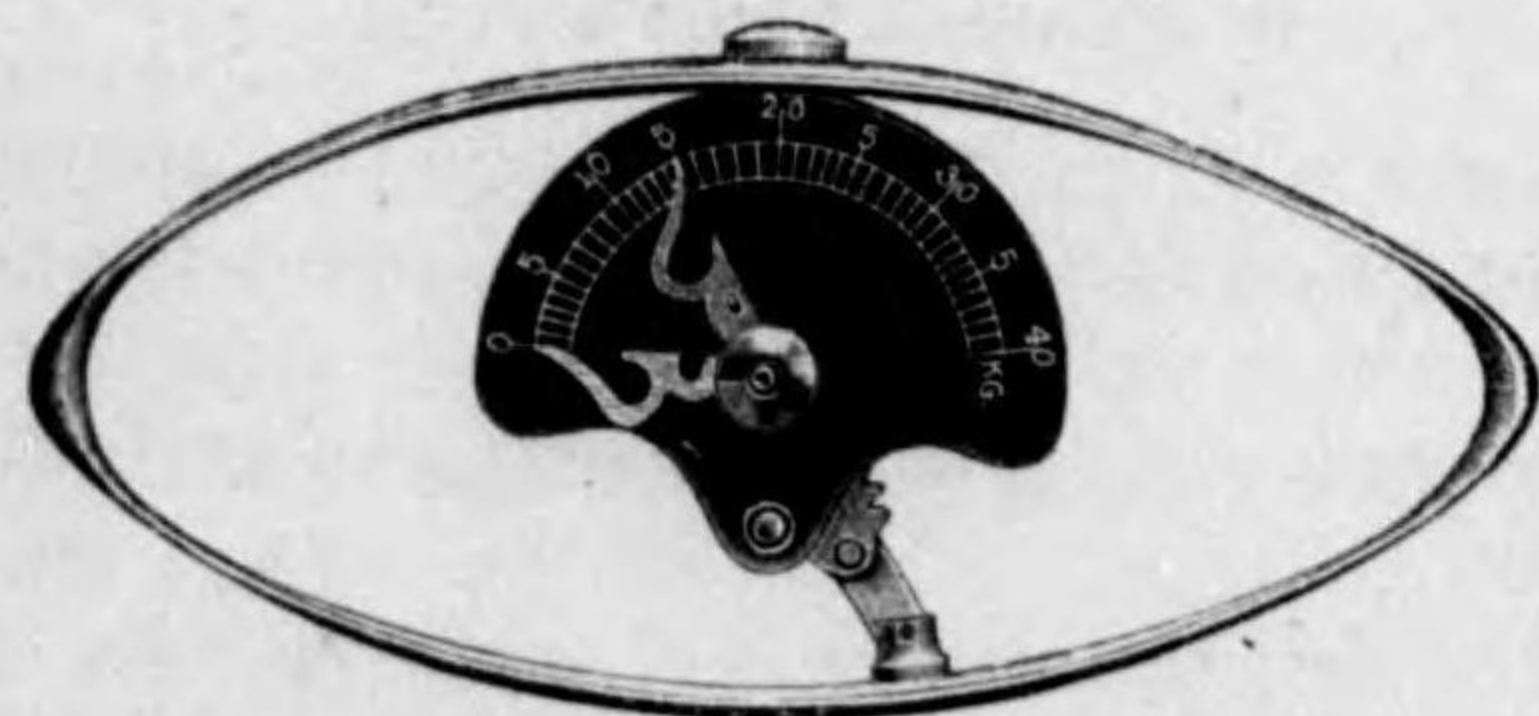
採點方法 全部を完全に入れ終るまでの時間で採點する。

運動機能

12. 握力検査

握力検査は生來兒童が所有し居る力量を検べる爲めにも用ふる。又疲労検査と共に身力指數として認める場合もある。要するに力量を検査するのが目的である。

第九圖 コリン氏握力計 (少年用)



用具 コリン氏握力計

検査方法 被検者を直立せしめ、左右兩足の間に片足大のものが這入る程の間隔を以て足を開かしめ、手は眞直に下に垂れしめ、力量を検査する方の手を腰部に接觸しないやうにし徐々に力を入れさせて一緊張の力のみを検査するのである。

用具は握り方で現はれる数が

變るからこの點を注意し、即ち手掌の中に(目盛のある方を手掌に面せしめ)入れて器の一方の端を母指と示指の間に、他方の端を星のある方を指の第二關節に當て、握らせるやうにする。

(本器の目盛はキログラムを示す。)尙本器は少年用であるから成人が使用すると破損の憂がある。

採點方法 左右二回づゝ検査して高い方の點を得點とする。

13. 運動速度検査

運動速度の遲速は疲労と直接關係はあるが、こゝに運動速度の検査は疲労の測定をするのではな

い。身體局部筋肉運動の速度を検査し、一般手先仕事に従事しやうとする人の能力を検べるのである。

第十圖 運動速度検査器



用具 運動速度検査器(タッピング)

之は圖の如く打叩鍵(A)があつて、それを打つ度に數字が一つ宛加へられて、一定時間中に打叩した回数を直ちに讀み得るものである。(B)は一回毎に零に戻す捻栓である

ストップウオッチ

検査方法 運動速度検査器を前にして被検者を座らせ、右手の指頭を軽く打叩鍵の上に置き、右腕の臂を机の上につけさせて検査をする。そして臂が机から離れないやうに注意を與へておく。又指をあまり高く上げ過ぎると運動が緩慢になり、下げ過ぎると數が明かに出ないから、検査者は適當に要領を示しておくことが

必要である。説明語は次の如くにする。

「貴方の指で出来るだけ早くこの鍵を押して、私が「止め」と言ふまで一氣に打つて下さい、用意」

初めの號令と共に検査者はストップウオッチを進め一分の後「止め」の號令をかけるのである。

採點方法 被検者の一分間に打叩した數で採點する、打叩數は器械に表はれる數字である。

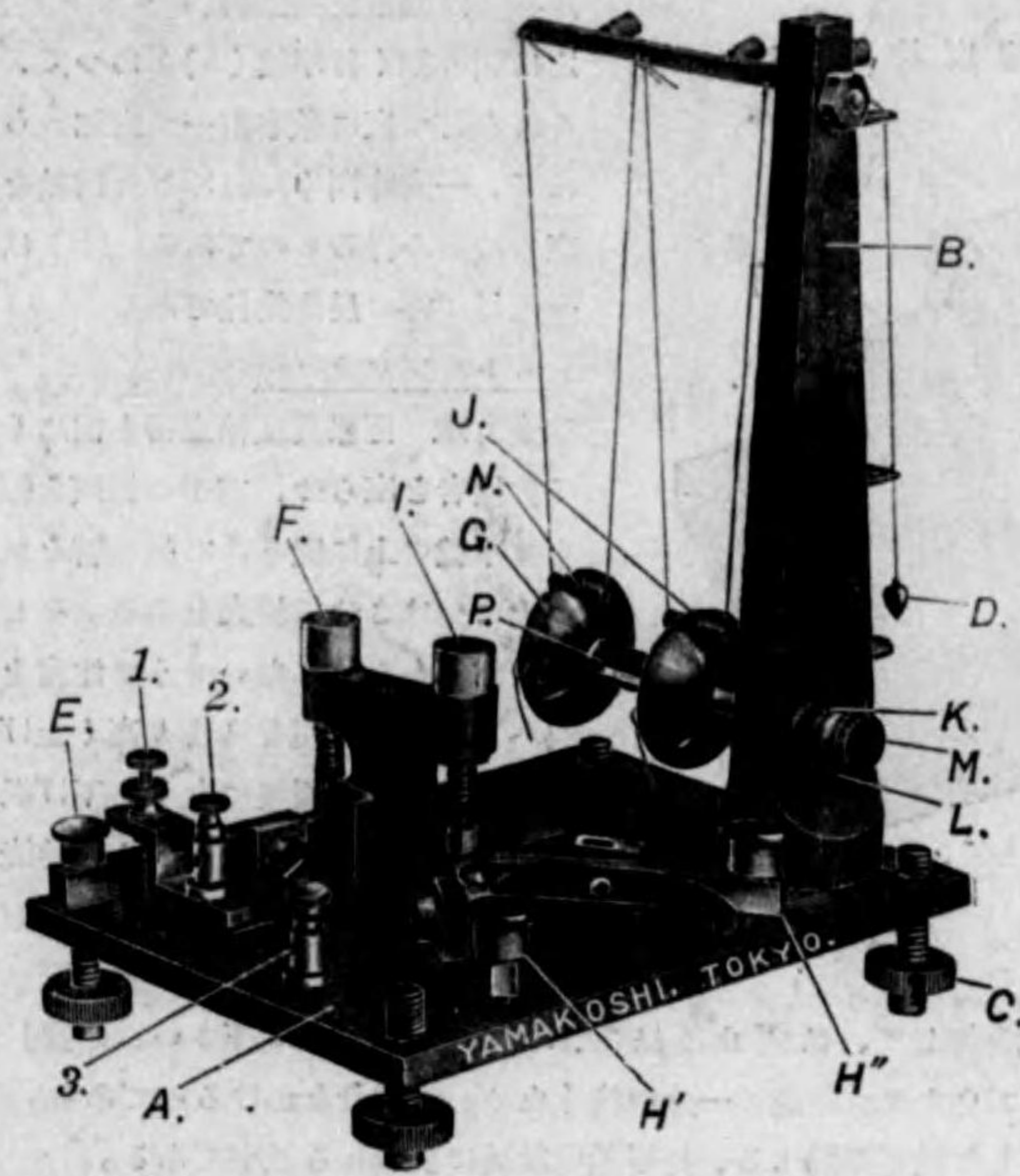
14. 反應検査 (反應時間測定)

刺戟に対する反應運動は人々によつて遲速がある、今刺戟を音によつて聴覺に與へ之に對する反應に要したる時間の測定をなす。これで人々の感覺の鋭敏さと、それに應ずる意志的運動の反應度とが分かる譯である。この反應時間の短かいと言ふことは機敏を要する職業、例へば自動車、電車、汽車及び其の他の機械の運轉作業に従事するもの、其の他一般に機敏な動作を必要とする職業には極めて大切である。

用具 反應時間測定器(第十一圖)この器械の主要部分は振子二個(G及J)、その支持幹(B)、及び支持臺(A)、調長棒(M)、反應鍵(H'及H'')刺戟鍵(E)、垂直球(D)及び調面足(C)にして、振子は吊り下げてある絲の長さに長短があり、長い振子Gは刺戟鍵Eに連る支持臺Fに挟むことが出来、短い方の振子Jは反應鍵二個に連る支持臺Iに挟み得るやうになつてゐる。今鍵を押す時には支持臺が持ち上つて針に吊下つてゐた振子は自分の重力の爲めに動き出すのである。そして長い振子の一振幅は80/100秒、短い方の振子は78/100秒であるやうに絲の長さが定められてゐる。そこで兩者の差が0.02秒であつて、長い振子が最初に發足し、短いのが後から發足する時には、後者は毎回0.02秒だけ長い振子に追ひ追るのである。そこで(兩振子の合致までの振動數)×0.02秒×1000=反應時間

これが反應に要したる時間である。若し又長い振子が一振幅以上も早く發足して居つた場合には

第十一圖 反應時間測定器



- | | | |
|---------|----------|----------------|
| A. 支持臺 | H' 反應鍵 | N. 指針貼付部 |
| B. 支持軸 | H'' 反應鍵 | P. 振子促進器 |
| C. 調整足 | I. 反應振子 | 1. (特種検査用) 調整器 |
| D. 垂直球 | J. 反應振子 | 2. (同)ターミナル |
| E. 刺戟鍵 | K. 反應調整孔 | 3. (同)ターミナル |
| F. 刺戟振子 | L. 刺戟調整孔 | [1,2,3は光の反應] |
| G. 刺戟振子 | M. 調整棒 | [調整反應に用ふ] |

い。音を聞けばすぐ押すのですよ。目をお閉ちなさい。用意ッ……」

「用意」と號令をかけてから約二秒後に刺戟鍵を強く押すと自然音が立つ。同時に長い方の振子が發足する。被検者が鍵を押すと短い方も發足するから、検者は長い振子が短い振子に追着かれるまでの振動数を数へるのである。

振動数の数へ方は短い振子に白い線が縦に記されてゐるその白線と、長い振子の指針との兩者の一致するまでの(長い振子の)振動数を数へるのである。

採點方法 採點法は前述の式から時間を算出するのである。普通五回位の練習をさせてから後十回位の實驗の平均を採つて反應時間とする。

注意 毎回の時間の相違の甚だしい時はその原因は、検者が「用意」の號令を發してから音をたてる迄の時間が不揃であるか、被検者が非常に周章る性質か、心の統一のとれない場合であるから、それを注意しなければならない。處が検者が常に號令から一定の間をおいて刺戟を出す時時間の内的感覺記憶で「もう鳴る時分だ」と豫測が出来て、音を聞かないうちに鍵を押すやうにな

短振子が動き出さない前に長振子が振動した振動数に「40」を乗じて之を兩振子が合致するまでの振動数に加へて計算しなければならない。(一振幅とは振子の一往復のことで、一振動とは一振幅の $\frac{1}{2}$ である)
検査方法 検者は長い振子を支持する刺戟鍵(E)を持ち、反應鍵(H)は被検者に與へるやうにする、而して検者は振り動いてゐる振子を横から見て正確に兩振子の合致を見出し易い位置をとり、先づ二個の振子を各支持臺に球より出してゐる針金を挟ましめ説明語を與へる。

説明語は次の如くに與へる。「貴方の右の示指を軽くこの反應鍵にお置きなさい。こゝでこんな音(刺戟鍵を強く打つて音を立て、聞かせる)を立てますから、これを聞くとすぐ貴方の鍵を押すのですよ。聞かない内に押すと不可いのですから、よく注意して氣を落ち付けて聞いてみなさい。

る。故に時には少しく間を置いて見ることも必要である。

多人數検査の場合 被検者が多く、又急を要する場合下記の採點方法を用ふるも便利である。検査を五回反覆する而してその採點法は各検査の振動数を加へそれに四を乗すると「シグマ」が出る

例は $(9+8+6+8+7) \times 4 = 152$ となる

(採點方法の要點は振子の振動数から起算するのであるから只(シグマに關係なく)長い振子の振動数で採點するも便利である)

15. 作業速度検査

本検査の目的は被検者が一定時間間注意を集中して、一仕事をなす速さを測定するもので、指頭感の鋭鈍、運動の敏緩、注意持続の良否等の複雑な状態を検査せんとするものである。

用具 作業速度検査器

ストップウォッチ

本器は三十度の傾斜面を有する金屬板(C)に150の小孔があつて、更にその上に挿し入れる程の大きさの小棒(F)がある、それが構の軸に似てゐる所から一名マツチボード(Match-board)と呼ばれてゐる。

検査方法 子供を検査する場合には小兒用の机に検査器を傾斜を正面ならしめて置き、その盤と被検者との間に棒を入れてある箱(F)をおいて置き被検者は立つたまゝ検査をさせる。

説明語—この盤に澤山の穴が開いてゐますね。

今この穴にこの棒を右手だけで挿して戴くのですが、左から右に、一番上の方から一つも抜かさないやうに、右の端に行つたら又左の端に戻るやうに、出来るだけ早く挿して下さい。判りましたか。「用意」發令と共に時計を進めて二分間の後に止めさせる。

採點方法 二分間續けて作業をなさしめ、棒の数を數へて採點する。

16. 學習力検査

之は被検者が今日まで經驗してゐる觀念及び記憶的習慣に添はない運動を實驗的に學習せしむることによつて被検者の學習能力を判定せんとする方法である。

用具 學習力検査器 (第十三圖)

之は一定の圖形(第十三圖 E 及び第十四圖)を鏡(B)に映つた形を見て、その圖形を鉛筆にて辿る。圖形は直接被検者には見へないやうに目遮板(A)で遮つてある。

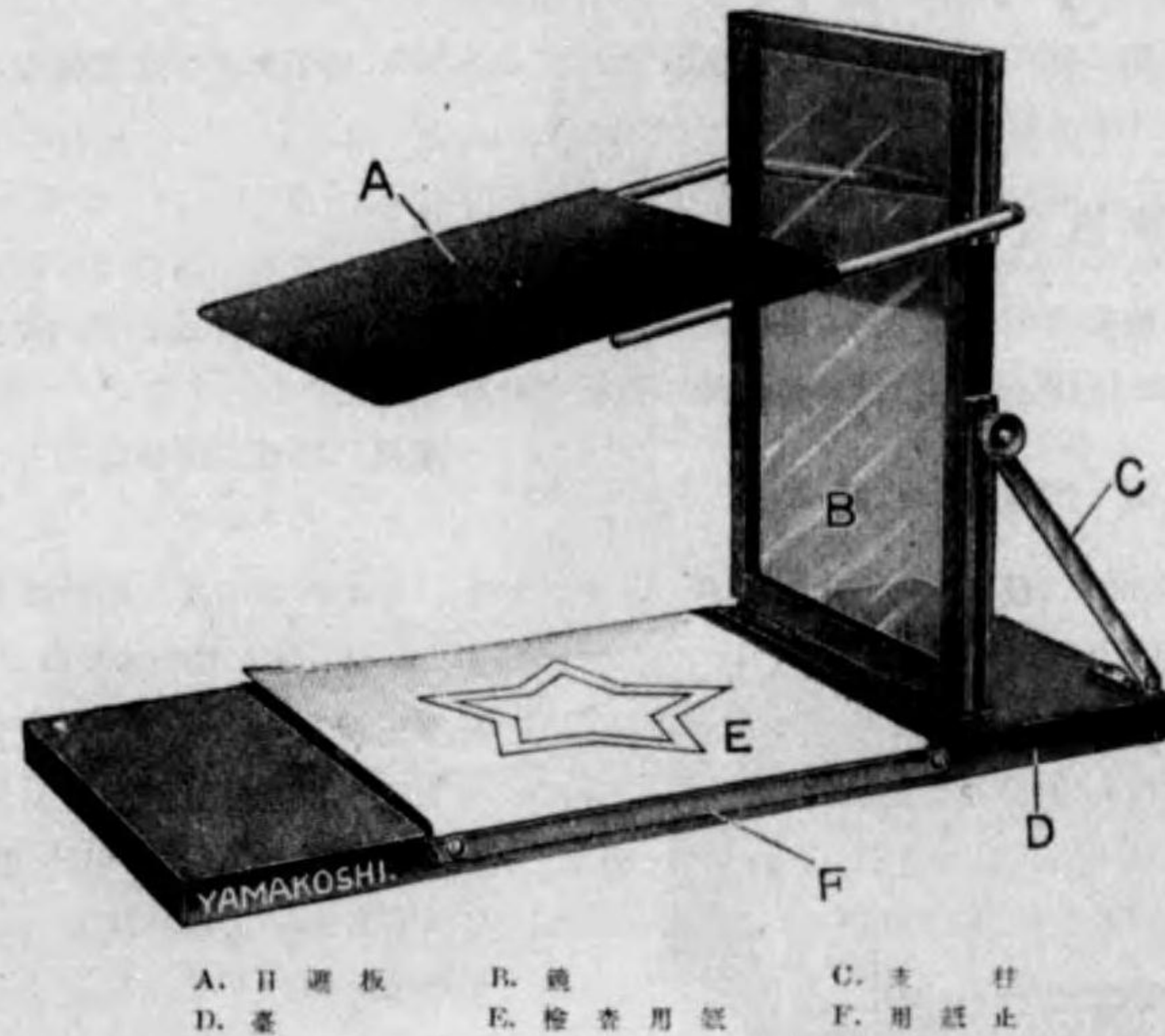
圖形を印刷せる用紙 一枚

鉛筆 一本 (全長四寸以上)

ストップウォッチ

検査方法 例へば星形圖形を印刷せる用紙を動かさないやうに (F) にて押へ付け、被検者に鉛筆を持たせ、その尖端を星形の二重線内の矢印の上に置きしめる。

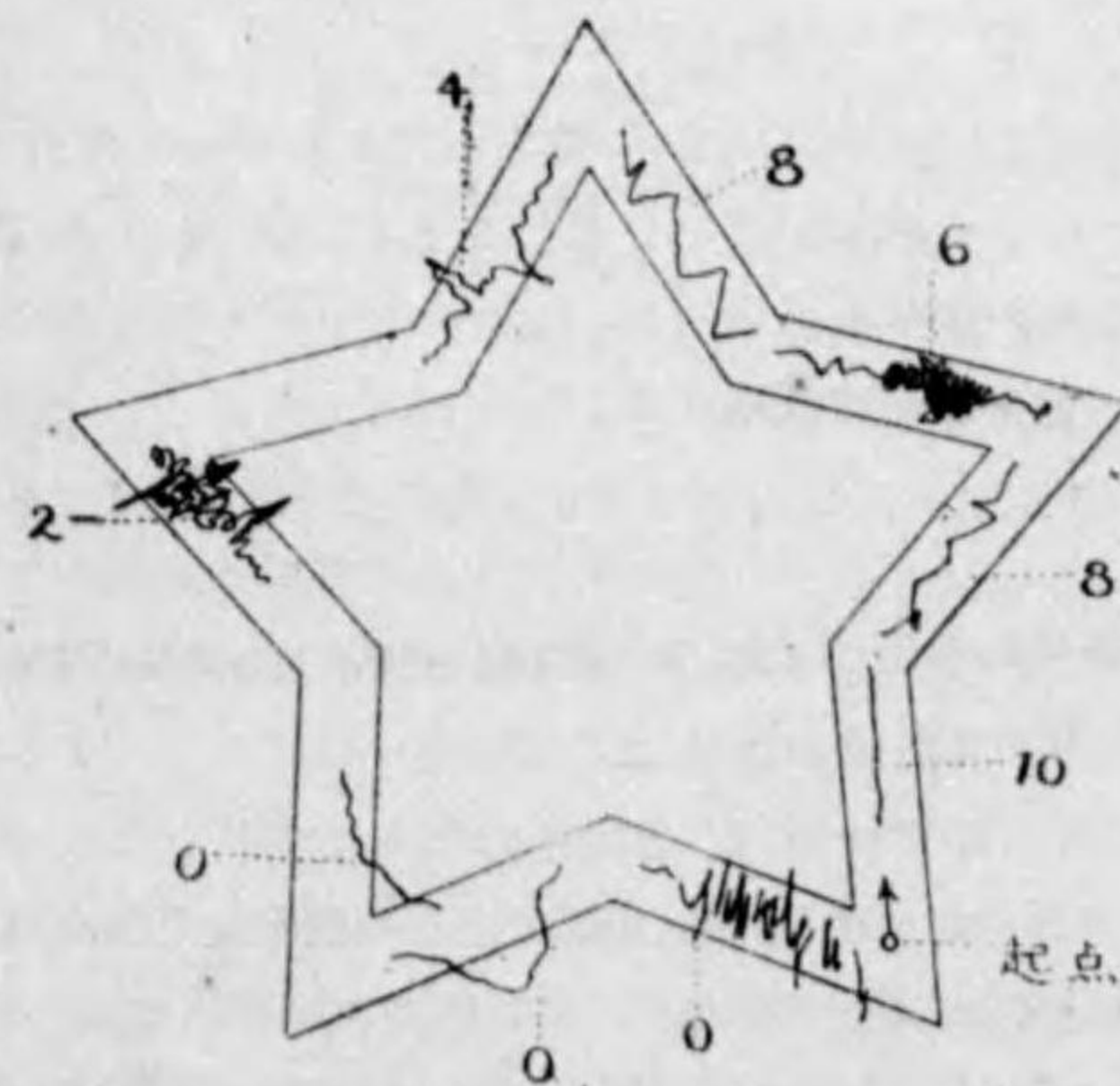
第十三圖 學習力検査器



A. 目視板 B. 鏡 C. 支柱
D. 臺 E. 検査用紙 F. 用紙止

説明語—「鏡に星形が寫つてゐるでせう。内側と外側との二線の間をなるべく外へ出ないやうに、なるべく早く、矢の方向に鉛筆で辿つて一周して御覽なさい、切れ切れにならないやうにするのですよ。用意」

第十四圖 圖形の一例



(星形の内外二線間に示せる種々な曲線は採點の標準例)

に、なるべく早く、矢の方向に鉛筆で辿つて一周して御覽なさい、切れ切れにならないやうにするのですよ。用意」

「初め」といふ號令と共に秒時計を進め一周するまでの時間を測る。

採點方法

全部書き終るまでの時間と書いた線の性質とを判断して學習能力を判定する。(第十四圖参照)

例へば(假に)第十四圖の如き場合とせば起點より(星形の曲り目毎に採點して) 10.8.6.8.4.2 の合計數を以て點數をきめる。

(全部書き終つた時間が短かくても出来ばへが不良であるものは手先仕事には不適とし、比較的長い時間を要しても出来ばへが良好であれば概して、手先仕事に適合する質とする。)

整理と査定

(一)

以上検査した結果は之を整理することが必要である。使用した器械が如何に精巧で、それを使用する術者が如何に長じてゐても、得た結果を適當に整理しないならば、その検査は確實性を失つてしまふ。詮り検査は機械の精巧よりも努力の方が餘い。

整理の方法は如何にすればよいかといふに、検査の結果を最も見易い圖表に作製して各人別に表示しておくことである。I 圖から XIII 圖までの19個の圖表は高等小學卒業生に施した多くの検査の結果である。(こゝには紙數の都合で省略する。)

(二)

いま兒童が或る職業、例へば表具師を望んで來たとする。その時に最後に附けてある職業分析表を照合して、(こゝには省く)先づ智能指數がどの位あるかを調べ、90—100 あればよい。(智能指數は智能検査用紙による)次に目測 Q3. 光度辨別 Q2. 運動速度 Q2. 作業速度 Q3. 視觸覺辨別能力 Q2. 色盲なし、視力+ 2.位の成績が得られれば適業としてその方面に進ませてよい譯である。然し乍ら今述べただけの性能を持つてゐるからこの兒童は表具師となすべしといふ逆な考へ方は検査、指導者は持つては不可ない、この點は特に注意されたいものである。(詳細は東京下谷御徒町山越工作所發行の職業撰擇法を参照、器械も亦同所で製作販賣して居る。)

採 點 表 の 一 例

尋常科六年生性能検査採點表

性 別	男			女		
	Q ₁	Q ₂	Q ₃	Q ₁	Q ₂	Q ₃
四 分 中 數 標 字						
記 憶 力	5.3 ^組	7.4 ^組	8.3 ^組	4.9 ^組	7.1 ^組	9.3 ^組
構 成 力	5'56"	4'17"	3'22"	6'21"	5'00"	3'58"
注 意 力	33.7 ^回	20.8 ^回	10.4 ^回	26.5 ^回	16.8 ^回	7.5 ^回
選 擇 力	91.5	106.0	133.3	91.5	101.5	125.0
學 習 力	5'53"	3'07"	2'16"	9'03"	6'12"	3'10"
	(時 間)					
(點 數)	50.0	66.2	78.8	47.2	59.0	70.3
視 觸 覺 辨 別	2'54" ⁸	2'35'0	1'18" ⁵	2'45" ⁴	2'26"⁸	2'11" ⁵
運 動 速 度	262.5	286.7	330.0	265.7	278.2	293.3
作 業 速 度	48.9 ^本	54.3 ^本	58.9 ^本	50.1 ^本	53.8 ^本	57.3 ^本
反 應 時 間	224.0 ^δ	189.6 ^δ	169.6 ^δ	233.0 ^δ	202.0 ^δ	182.0 ^δ
空 間 辨 別	0.363 ^{mm}	0.256 ^{mm}	0.163 ^{mm}	0.313 ^{mm}	0.233 ^{mm}	0.160 ^{mm}
光 度 辨 別	24° ⁵	21°³	18° ⁵	22° ¹	19°⁹	16° ⁹
聽 力 (右)	13° ²	10°⁵	7° ³	17° ³	12°⁰	9° ⁸
握 力	12.8 ^{KG}	14.0 ^{KG}	17.5 ^{KG}	9.8 ^{KG}	11.8 ^{KG}	14.3 ^{KG}
	(右)					
(左)	11.8 ^{KG}	14.2 ^{KG}	16.4 ^{KG}	9.8 ^{KG}	11.3 ^{KG}	13.3 ^{KG}

色盲表及視力表は各表に添附しある「説明書」に其の採點の記載あり

備 考 I Qは劣等と優秀の中數を示したるものにして即ちQ₁は劣等の中數Q₂は全體の中數Q₃は優秀の中數點數とす

II δ (シグマ) は秒の千分の一なり

III ° は度の符號なり 例へば(24°⁵)は24.5度のことなり。

IV KG は (キログラム) なり

兒童の
生徒の
個性尊重及び職業指導

前編

第一章 職業と個性

職業の眞義

眞田幸憲

職業とは、人が社會に生活し、相互に奉仕し奉仕せらるゝ關係から生じたもので、單に之を經濟上の活動とのみ考へたり、自己生活の資料を得る方便だと考ふることは狭いのみならず、誤を生ずることとなる。

社會生活に於ては、成年たるものは、奉仕をなさんが爲に、自己の力と時とを費し、其能に應じて或は土地を耕し、或は機械を動かし或は病人を治療し、或は家事を治むる等のことをして、之に對する報償を受ける。而して其報償なるものは、直接間接に種々の形式に於て提供せられて居るが、金品の如き、自己の生活資料たるべき方便物を得ることは、最も痛切に感ぜらるゝので、職業は、恰も自己生活の資料を得るためにのみ行ふものであるかの如く考へらるゝこととなつたのである。しかし其他に名譽の如き、かなり直接な報償もある。又間接にして漠然たるため、動もすれば看過せらるゝが、共存上極めて重大なるものもある。それは自己の生存は他によつて保障せられ、幸福を享有することを得るの方便は他によつて與へられて居ることである。商工業者は、自己の職業を以て、社會に奉仕し、其代りに農夫によつて食物の資料を供給せらるる。農村は又都市によつて生産物を金に代へ、又其日常必要な品物の供給を仰いで居ると云ふ風に、相互に其生活が保障せられて居るのである。一定の職業に従事するものは、自ら子弟の教育全部をなすことは出来ぬので、之は教師に頼まねばならぬ。病氣に罹れば醫師の助を藉る。教師や醫師は自ら衣食住の材料を生産することをせぬが、他の供給によつて生活する。教育とか保健とか云ふものは、人生の幸福として之を得んことを何人も望んで居るが、多くの人は他から與へられて居る。此の如く人は共存の生活を營む爲に、自己のなさざる、又なすことを得ざる事については、他から奉仕を享けて居る。元來人は自ら奉仕せずして、

他から奉仕を受くる理由はないのであるから、此際他から受くる奉仕は、畢竟自己の奉仕に對して他の與ふる報償である。

此の如く見ると、職業といふものは、單に自己の生活資料を得るの方便たるもののみではなく、社會奉仕の一途である。換言せば利己的のものではなくて社會的のものである。

職業は何ものかを生産して、社會に寄與せねばならぬ。そこで生産と労働、職業と労働との關係を明かにせねばならぬ。元來プロダクション即ち生産といふ作用は、原始時代に於ては、自然界に有する材料を採つて、之れを日常生活に利用したのに始つたのである。即ち魚を漁し、獸を狩り、果實を摘み、木を伐りなどして、人類は其生活を支持したのであるが、其資料は、全く天恵で、自己努力の結果ではない。自己の労働なるものは、之を採取する點のあるのみである。後農業なる作用を工夫し穀類野菜などを栽培することとなつたが、其生産する物に、労働の加ははることは前より大なるに至り、更に加工品を製産する段階に進んでは、一層労働に俟たざるべからざることとなり、近世に於ては、自然の素材に、多様多大な努力を加へ、時代と共に、擴大増加して來た人類の慾望を充足することを各各種の必需品を生産することとなつたのである。原始以來、人は労働にもよつて、人生の必需品を生産したことは、明瞭な事實で、労働の價値あること、之を尊重すべきことについては、一點の疑もないのである、こゝに労働といつたのは、所謂筋肉を主とする労働である。

労働の價値を尊重するに至つた結果は、動もすれば、労働のみが、生産的のもので、之のみによつて、人生の要求が充足せらるゝものだとする考へが起つて來る。之は果して正當か、どうかは、深く考へねばならぬことだ。前にも述べた原始時代には、衣食住の資料もみな、或は其素材のみが、殆んど人生の要求を充足するもので、此際は労働のみによつて、其缺乏を満足することを得た。其後時代は進んでも、衣食住の資料は、依然人生にとつて、重要なものであるので、自然之を得る上に、原動力たる労働は、人生の要求を充足する重要手段として今日に繼續して來た事實は、何人も之を認めねばならぬ。しかし、時代の進歩と共に、人の慾望は著しく増加し其求むるものは衣食住の素材や、金品のみではない。吾々の求めんとして居る幸福

中には、筋肉労働のみによつては、到底生産することの出來ぬものが澤山加はつて來たことも亦認めねばならぬ。

人生に有用有益とすることは、有形の物だとした昔の傾向から、生産といふことは、有形のものを産出すること、經濟上の財貨を目標とするものだとするやうな思想は生じて來た。しかし、前に述べた様に人生の要求が變つて來ると、經濟の目標は人間の幸福にあり、人生に有用有効なものは、有形の金品のみでは無きこととなり。從て労働のみが生産的のものではないこととなる。換言せば生産の意義は前よりも廣義のものとなるのである。學者軍人・詩人・畫家・探險家・教師・主婦・母親等、それら、人生に有用有効な結果を生産する奉仕をなして居るのであるから、彼等は皆生産をして居るのである。其生産の價値といふ點に於て、農夫・職工・鑛夫に劣つて居るのではなく、等しく其長所を以て、生産といふことに寄與して居る。故に生産といふことは、労働者の専有するものと解することは、當を得たものではない。資本家といふものも、其資本を運用して、有用な奉仕をなす點に於て、生産に干與して居るのである。しかし、それは、他の生産者が精神なり筋肉なりを勞して、何物かを生産して居るが如く、資本の運用といふものに、其人の努力の加はつて居ることを條件とせねばならぬ。所謂金のあるに任せ、遊んで暮して居るといふ様なものは、何等生産に干與して居るものではない。

社會共存をなすものは、何人も何等かの職業に従事して、自らを支ふることは勿論、之によつて他に奉仕することを以て、各々の義務とせねばならぬ。從來職業は、單に自己の方便だとのみ考へられた結果生活に餘裕あるものは、自己の爲に勞するの弊を馴致した。又職業に従事するものは自然職業を利己的のものと見、世間も亦之を怪しまざるに至つた觀がある。例へば所謂好景氣時代に於て、國民の必需品なる織物や、砂糖なども製産會社等が、數割乃至十數割の利益を收めて居たが、一面には、物價は高騰し、生活難を叫んで居るものも亦尠くなかつた。當時世人は之を怪しみせぬやうであつたし、國法に於ても利益の收得に關して制限もないやうである。畢竟、之は職業を以て、利己的のものととして居る社會の弊の現れて居るものだ

と私は考へる。若し、職業は社會奉仕の爲に行はるゝものだとする念強き社會であつたら、國民生活の安定といふことに就ては、營利會社も考へねばならぬし、社會自身も亦國民生活上の必需品を供給するものに對して、獨り巨額の利を收めて居ることを、不問に附する譯には行かぬ。輿論となり、法となり、自省となり、物價の調査、消費節約等の方法が充分に行はれねばならなかつた筈である。政府自身にも、斯る場合に相當の策あることは勿論必要だが、それよりも、國民の頭腦に、職業の意義が銘記せられて居ぬと、當局の訓令も、法律も効を奏するものではない。遺憾ながら、我國の頭腦は、今日でも、職業を以て利己的のものとして居る方が強い。又他の例をとる。我國にも無職といふものが相當にあり、敢て誇とはせぬが、耻辱とも考へて居ぬやうに見える。私が前に解釋した職業の意味から云へば、無職とは、社會に何ものをも自ら奉仕せぬ、他人の奉仕を受けて生活して居るものに外ならぬ。之は獨立の人間としては、正に耻づべきことでなければならぬ。或る子が所謂立身出世でもすると、其親が子の面目上、從來の職業を廢したり、子がやめさせたりする習慣もあるが、之は人各其能に應じて社會に貢献して居る獨立の人間が、自ら好んで其獨立を失ひ、社會奉仕をやめんとする愚なやり方である。その他擧げれば、職業に對する從來の考への誤つて居るため、種々の弊害や困難が社會に存して居ると思ふが、吾等は職業の意義を明にすると共に、狭くは職業の進歩發達、廣くは人間生活の意義を妨げて居る此等の弊風を一掃せねばならぬ。

子供には職業はなく、大人に寄食して居る。しかし、彼等は將來生産的活動をなすべき潛勢力を養つて居るのであれば、成るべく其時期を永めて其力を充分に養ふことを得るの機會を興ふることは、父母たるものゝ責任であり、社會一般の留意せねばならぬことである。世には失業者と云ふものもある。彼等は自ら求むるも、興へられぬものである。自ら奉仕せんとする者に其機會を提供することを得ざるは社會の罪である。之を救済するの途を講ずることは、社會自身の義務でなければならぬ。世には、白痴・瘋癲・不具・癱疾等にして社會に寄食せねばならぬものもあるが、社會は其不幸なる境遇に同情し、之を救済することと共に、其或者に對しては、一般の健全なものが、社會のためになして居る奉仕を妨げざる點迄は、之を教育し、監

督し、保護することを要する。斯の如く失職者、寄食者等が社會に生存して居る。而して之に關する問題は、直接には教育の干與することでないものもあるが、其何れのものも、職業の根本義から、之を考へねばならぬ。而して斯る根本義を社會に會得せしむることは實に教育の任務とする所である。

次に從來職業といふと、或一定の専門分化せられた點にのみ留意して、廣い人生を忘るゝ傾があることである。特に職業教育などに、かゝる考へがあると、偏狭な人間を養成することとなるので、大に戒めねばならぬことと思ふので一言する。

米國のデュウエーは云つて居る。職業を以て、目前に財貨を生産するものゝみに限定したり、又一人一業といふ風に、職業は個人に分配せられて居るとする觀念は誤つて居る。かく限定的、排他的に、職業を個人に分配することは不可能であり、又一職分のみを目標として人を教育するといふことは、之ほど不合理なことではない。第一に人には種々の職分があつて、其何れに對しても賢明有効なるを要するし、第二には如何なる職業も、他の利益と孤立する様では、其孤立の程度に應じて、其意義を失ひ、營々として驅使されて居るに過ぎぬこととなる。こゝに人あり、彼は藝術家である、藝術家のみだとすれば、其人は人間としては、其發展不充分なもので、一種の怪物たるに過ぎぬ。彼は其人生の或時期に於ては、家族の一員たり、交友を有し自ら生活を支ふるか、又は他より支へられねばならぬ。そこに實務的行爲がある。彼は政治社會の一員でもあり、其他種々ある。普通に其人の職業といふと彼の共通に有して居る職分を云はずに、他人と異にして居るものゝみを云ふこととなつて居るが、職業教育を考ふる場合、言葉に拘泥して、其のみを思ひ、共通のものゝ存することを忘れてはならぬ。次に彼の職業は、彼の多種多様な職業的活動の中で、専門化された部分を力説したのであるが、人間の能率といふ意味で、彼の藝術的能率は、他の職分と關聯して決定せらるゝし、其人の藝術が技巧以上のものたるは、彼は經驗を有し、生活せねばならぬ、彼は自己の技術中に藝術活動の題材を見出すことの出来るものではなく、他人と關係交渉する中に、喜んだり、悲んだりする表現が題材となる。彼の興味とするものに留意し同情することから生ずるのである。其他の職業にあつても同様であつて、其専門見地に

熱中して、他を顧みぬこととなる傾向なるが、之は技術の堪能や方法を重要視することを意味するものである。教育は斯る傾向に逆つて、科學者は單なる研究家でなく、教師は單に學校の先生でなく、僧侶は單に僧衣を纏ふ人ではないやうに教育せねばならぬと。

以上述べたデュウエーの中には、實に味ふべきことがあると思ふ。世には藝術家を標榜すれば、頭髮の刈方迄異つたり、人間離れた様な生活振をしたり、社會の規律などには、超然として自ら得たりとするものもあつたり、學者らしからんとせば研究室以外の事は、凡て之を俗事とし、手をだに觸るゝを屑とせぬ風あるも、世人は別に不思議ともして居ぬ傾がある。而して之を日夜營々として、利をのみ之れ思ふ商人と比すれば、所謂専門化された活動のみを重要視するの態度に於ては、異なる所を見ぬのである。

元來人生には、其専門分化された部分よりも、共通の職分は、其活動範圍廣かるべき筈である。従て人と人と接觸する場合其共通の職分を以てすれば、相互に交渉點が多くなり、社會連帶、社會共同の基礎が、容易に、此處に建設せらるる。しかるに、専門分化された活動のみが、人生の全部を占める様な人々の社會では、動もすれば、排他的、偏狹的傾向を生ずる。

種々な人々を網羅した會合などを見るに、忽にして、學者は學者、教員は教員、商人は商人といふ風に、小集團が出来る。そこに、各種の人を網羅し、共同の目的の爲に、一團として働いて居るといふ俤を見ることが出来ぬ。それは、共通の職分を以て接觸交渉しないで、飽迄も専門分化した立場を固執せんとして居るから起る現象である。否狭い専門化した人生活動のみしかないからである。一小會合の擴大は、隣保や、市町村の俤ともなり、國の姿ともなつて現れる。一市町村に、勤勉な農夫商人、熱心な教師、雄辯な政治家等はあるかもしれぬが、其市町村の公益を念とし、民衆の福利を思ふ公民は尠いと云ふ結果となる。

勿論社會の進歩發達は、人各其能に應じて、其専門分化した活動を充分に發揮することに俟たねばならぬこともあるが、そ

の特種の活動は、常に共通の職分と關聯したものであることを要し、特に共存社會の共通のことに就ては、之を解決することは、共通の職分であり、それが共通の職業となることを了解せねばならぬ。

吾國の職業専門教育に於ては、早くから、この専門分化した教育を施さんとするの嫌がある。之を避けねばならぬことと思ふ。實業補習教育に於ては、尙一層のことで、早くから、一藝一能に通達することにのみ苦心するやうな教育を施しては、器械の様に使用せらるゝものに適するかもしれぬが、眞の人生を營むものには適せぬこととなる。人には人間として共通の職分がある。之は何人も人間として普通に之を盡すの能率を有せねばならぬ。所謂職業として専門分化したものは自己の長所を表現する所以のものであるが、普通の職分と關聯せしめて意義あるものだといふことを、深く念頭に置いて奉仕せねばならぬ。それが職業の眞義であると思ふ。

人類の仕事

小出 満 二

人間は地球上の生物である。昔から「萬物の靈長」と獨りよがりのことを云つて來たが、學術の研究が進むに連れ、生物としての人類が格段に他と違ふ點は餘り多くはない、進化の理法に照らして唯我獨尊を唱へられなくなつた。

抑も人類が他の生物と異なる點は何處にあるか。之に關しては多くの學者が種々の説を出して居るが、要するに程度の差に過ぎず、本質的に之が違ふと明確には云へぬらしい。「木石にあらず」など云つて感情で分けやうとしたのは勿論、智力が優れて居ると云ふのも甚だ怪しく、馬や犬や鳥に能く人語を解するのみでなく、其の伶俐さは或る種の人に優ることが少くない。徳性を人類で獨占しやうと考へることもあるが、現に「禽獸にも劣る」ものは珍しくないのである。米の大儒デューエーは近著「哲學の改造」の卷頭に「過去の經驗を保存するといふことで、人類は他の劣等動物と區別せらる」と説いたが、矢張り本質的のものではないと云ければならぬ。それで、心理學や生物學の教へる所では到底區別せられぬ、寧ろ人類學などに據りて漸く稍や明瞭になし得と考へられて居る。即ち人畜の別は、火用を知ると否とにある、器具を造ると否とにある、此の二點にあつて外にはないと云ふのである。

今日までに嘗て知られた有ゆる人類、現に分つて居る總ての種族、如何に文化の程度の低いものでも、人類といふのは何れも火用を解したものである。他方に以外の動物では最も人に近いものでも、火を見て怖るゝのみで之を利用する獸畜はない。一々事例に照らして之を證明する必要は茲にあるまいが、此の點に關して諸學者の所説は一致して居る。

ある似人猿が枝切で果實の皮を剥くといふのは、殆ど唯一とも思はるゝ極めて稀な事例で、其の他の禽獸には手足口翅等自然に備はる器官の外、所謂道具を利用することが出来ぬ。殊に自然そのまゝの枝切では甘んぜないで、其の形質を變改して器具を造るといふに至りて、人類獨得と云ふのである。之が説明を茲に試むることも要るまいが、斯くては、靈長であると人類も深く顧る所が無ければならぬと思ふ。

而し、兎も角も人類が他に優りて今日の文明を誇り得るに至つた基は、四足を以て歩むといふのでなく、體軀を移動せしむるには二足で足り、双手を自由になし得たといふ、直立の姿態に進化したことに歸するのである。成程この「手」あればこそ、之で始めて他の禽獸を制し得るに過ぎぬ。若し人類に「手」が缺けて居たら、體力に於て驅ける速さに於て將た飛ぶ長さに於て、到底他に多く優ることは出来ぬのである。たゞ一の「手」にありとは如何にも情ないやうだが、この「手」は實に偉大なもので、過去の一萬年、少くとも五千年の歴史に見らるゝやうに、更に幾千年の將來に多大な希望をつなぐのである。

地球表面上の一劃にありて、あらゆる物資を自然界から恵まれ、思は遠く千萬里の昇天に馳することが出来ても、身は土地を離れて一步をも踏み出すことは出来ぬ。自然に對して如何に「手」を動かしたかといふのが、人類發展の根原である。この手によりて爲し得たことが即ち人類の仕事の悉皆であらねばならぬ。云ふまでもなく、斯く論じて精神界のことを無視するのではない。また人間の靈的の偉大なる方面を輕んずるのでは決してない。

人類の生活といふことを考察するに、太初から孤立單獨でなく、必ず團體をなし部落をなし所謂共存の社會生活をなして來たのである。故に「個人」といふ言葉は、經濟上に倫理上に教育上に使用さるゝ時に、生物學上の意味とは違ひ、その字義通りに解することが出来ぬのである。即ち、眞に他と分離した個性といふやうなことは、生物學上に於ては意味ある言ひ方であらうが、「社會に於ける一人」といふ場合には、必ず他と斷つことの出来ぬ縁で結ばれた個人に過ぎぬ。之を「社會人」と呼ぶのは良からうが夫れ以外に社會科學上の個人は有り得ないと思ふ。

以上の考察に種々の異議はあるであらうが、暫く此の見地に立ちて人類發展の跡を分析しやうならば、凡そ三、四種の條件を擧ぐる事が出来やう。即ち

第一「居住」で、水草を追うて移るといふ時代でも、少くとも幾日かは一定の場所に住し、テントなどで本據を定める、それで不安なき生存を保ち得るのである。

第二「交通」で、單獨に孤立せず、生きて居れば必ず活動する天性に基き、有無を融通し相互に了解して行くのである。

第三所謂「經濟生活」と呼ばれるもので、饑えては食ひ渴しては飲むといふに始まり、現代に及びて極めて複雑した慾望充足のためのことである。更に

第四として宗教的及び精神的の生活領域を擧げたい。

此の四者の分け方や命名の適否に就きては暫く措き、斯く分けて見て其の一つづつを細に調査すると、頗る面白い研究の題目を列擧することが出来る。而して其の一つ宛と互の關係とを照合して、人類社會生活上の意義を思ふのは蓋し無益ではない。茲に此等に就きて詳述する邊はないから他日に期したいが、其の研究題目の一端を例擧して見たい。之を郷土研究と關聯して補習教育に運用するは亦妙であらうと思ふ。

第一の居住は洞穴に住み樹上に構へるといふ類、水中に杭を打ち列ねて其の上に住み、又はテント(その形状や張り方にも色々特徴がある)に起臥するといふ類から、丸太の堀立小屋を経て石造コンクリートの數層樓に至る、興味盡くるなき題目は甚だ多いのであるが、之を分ちて少くとも次の四を擧げ得られやう。

(一)居住の地位 水邊川岸を普通とするが、特に山麓丘陵を選ぶこともある。邨の字は阜丘にして濕潤ならず、而かも生産豊かな場所を意味し、人類居住の原始の地位を示して居るといふ。其の地形と山川風土の關係を研究するは、各村に於ての總ての仕事の手始でなければならぬ。

(二)居宅配置 部落が出来て村が形成される、その宅地の大きさ、形状相互の關係は如何。其の配置と道路との工合で、やがて部落なり村邑なりの形が出来る。一道路に沿ひて譯もなく唯長い村もある。寺院や社を中心として周圍を取かこむだのもある。本家を最上として漸次低く麓に列ぶのもある。

(三)住宅 建築の材料や様式など、同一地方には略ぼ同じ型があるので、便宜に隨ひ傳統によりて定る。我邦でも近時漸く民家の研究が行はるゝやうになつたのは嬉しい。無暗に改良など云つて舊來の様式を無視するのは頗る危い。能く研究して十分に其の意義を探り、而して後に時勢の變遷に伴ふ改善を施さねばならぬ。

(四)地名 村邑の名稱、大字小字の稱號は何れも無意味に出来たのではない。明治時代に町村制を改正した時、多く郡長などの手に任せたさうだが、妙な命名をしたのも少くなかつた。昔時村邑名は二字を用ふと強いて定めたことがあつたが、後世の識者は恐く夫れ以上に残念がることであらう。地名は歴史を語る許りでない、その經濟を説き社會を示すものである。

第二の交通に關しても題目は多い。陸は最初のもので車の功績は多大であるが、船の發明以來は水によることが一層盛んである。歐洲の歴史では、地中海が古代文明の舞臺であつた。次で印度洋となり大西洋となり、今日では太平洋が世界の舞臺となつた。太平洋を自由にするものが、聽て世界の覇者となるだらうとは多くに考へられる、間違のない所であらう。峻峻な山脈や荒寥の沙漠が交通の障害であつたことは著しい。而して今や空中飛航の時代が來やうとして居る。飛行機によれば高山峻峰も何でもないから、遠からずして僻偏な山家といふことは意味を失ふであらう。

道路に就きても、誰通るとなく踏み分け踏み固めたのであるが、今は石を敷きコンクリートを固める。人車の別をなし、並樹を植ゑるなど至れり盡せるものがある。徒に眞直なるを欲して距離を短くするも路傍の趣味を缺きては却つて長きを覺えるなど、人は情あり感ある生きた靈物たるを忘れぬことが肝要である。その他、橋梁や隧道やに問題は多く、電軌や鐵道に限なき研究の餘地がある。

更に電信や電話に及びては云ふまでもなく、交通と一口にするものゝ人類文化の全般に關係して居ることが知れやう。

第三の經濟生活は更に趣味深く多岐に亘つて居る。原始の人類は自然物を僅に採集して居たのであらう。次で山野に狩し河海に漁するに至つたが、其の間は長い歲月のことであつたらう。農耕の術を發明し家畜を馴養することを悟り、今日の農業園藝の域に進んだのは決して容易ではない。更に工業を營むやうになつたが、水力火力から電力を自由に利用することとなり、商業起りて四海と貿易し、今や居ながらにして萬國の物産を利用し得らるゝのである。産業盛んにして生活は向上したが、人類の社會生活は果して等しく豊富に平和に安樂になり得たか。

最後の精神的生活の領域は亦大に研究されねばならぬ。畢竟するに各人の自覺がアルファでありオメガである。私は幾度か「教育は個人的に行らねばならぬ」と云つた。この個人は社會人といふことになるが、自覺とは各自が人生觀を確立することであり、人生觀を確立するとは各自が一の哲學を有することである。哲學とは決して少數學者の専有でなく、老少賢愚共に夫々に有つべきものである。哲人ジェームスは「諸君の悉くが哲學を有つて居る」(『フラグマティズム』)と説いた。獨のパウルゼン教授も「どの國民どの人も皆哲學を有つ」(『哲學入門』)と教へて居る。

個性

矢田篤

昨日、横濱港碇泊中の郵船高岡丸に到り、從兄に導かれて船内を隈なく見物する機會を得た。化物屋敷のやうな荷物庫、機械づくめの汽鐘室、殺風景な無線電信室などを経て最後に海圖室に入った。從兄は傍らに据えつけられた三個の時計を指して「これが船の生命だ」と云つた。何故に三個を要するかと尋ねしに對し從兄は次のやうに説明した。「こんな精巧な時計はまだ日本では出来ない。スwissの或る有名な會社の最も優良な時計である。然し如何に精巧な時計でも一日に付き何秒か、何分の一秒かの誤がある。或は進み、或は遅れる。而して數秒間の誤謬も船にとつては致命傷である。依つて三個の時計を備へて其の平均を求め、之によつて最も正確な時間を計るのである」と云つた。私は此を聞いて非常に尊い教訓を得たやうな氣がした。かくまでに人工の精を盡し、かくまで正確を期して造つた時計でも、全然相等しい進み方はしない。私共は日常全然相等しいものはザラにあるやうに思つて居るが、それは觀察の到らない爲めである。世界には全然相等しいものは一つもない。全然相等しいものは觀念の構成したもの——數學上の數及び形——以外には何もないのである。人工の精を盡し技を極めて全然相等しいものを造らんとする精密工藝の製品にして尙かくの如くである。其の他のものが各々異つて居るのはむしろ當然であらう。而して、事物の差異は人工物よりも自然物に於て更に甚しく、自然物も個體の組織が複雑になればなる程甚しい。堆く積る秋の落葉を拾ひ集めて一枚一枚を精細に檢すれば、一として全然等しいものはない。而して人間のやうな複雑の最高度に達した形態に於ては、各個體の差異は——精神的にも身體的にも——愈よ甚しくなるのである。此の各人特殊なる精神的特質を稱し

て個性と云ふのである。

二

個性と云ふことは非常に古くから注意がせられて居た。古代ギリシアに於ては、有名なる醫師ヒッポクラテスが之に着眼し人間の性質は、身體を構成する四種の液體の多少によつて定まるものとした。即ち、彼の説いた處によれば、人間の體內には血液、粘液、胆汁、黒色胆汁の四種の液體がある。最も健全なる人間に於ては、これ等の液體が適度に混和して居るのであるが、其の内何れか、特に多く混じたる時は、身心の異常を生ずるのである。即ち血液が多すぎれば多血質、粘液が多すぎれば粘液質、胆汁が多すぎれば胆汁質、黒色胆汁が多すぎれば憂鬱質になるものである。其の後、紀元二世紀頃ローマの醫師ガレヌスはヒッポクラテスの説を補ひ、科學的方法によりて四種の體液と氣質との關係を證明した。勿論ガレヌスの證明の方法は獨斷的のものであつて今日の科學の上からは首肯することが出来ないものであるが、其の名稱のみは今も尙ほ心理學や教育學に用ひられて居るのである。

ガレヌス以後、個性に關する研究は殆ど顧みられなかつた。特に十八世紀の啓蒙期に於ては、人性の平等的方面のみが高潮せられ、個人的差異や民族の特性は全然看過せられた。此の結果、人間は本來全然等しきものと考へられ、賢愚善惡の差異があるのは、生後の教育の差異によるものと信ぜられて居た。大哲カントの「人は唯、教育によりてのみ人たることを得る。人は人が教育によつて造つたものに外ならぬ」といふ語は、最もよく當時の理想主義的傾向をあらはして居るものである。自由主義教育の開祖と稱せらるゝルソーの如きすら、其の不朽の教育書エミールの序文を結ぶに、「一般に人間の生ずる處に於ては其の人間より余の欲するまゝの人間を造り出すことが出来る」といふ句を以てして居るのである。

然るに啓蒙期の夢はフランス革命の砲火によつて破られ、十八世紀末より十九世紀にかけてさすがの合理主義の勢力も其の跡を絶ちてロマンチズムが之に代り、思想界は全然反對の方向に進むやうになつた。即ち啓蒙期の人々が人間の平等的方面

のみに對して注意して居たのに對して十八世紀末及び十九世紀に於ては個人及び民族の特質が最も重要な着眼點となつた。詩人ゲーテはウィルヘルム・マイステルの一節に「如何なる力も他の力を創造することは出来ぬ。各個體は自己を完成する力を有して居る。人は之を知らずして徒らに教育し陶冶せんとして居るのである」と云ひ、シヨウベンハウエルは「説教や教訓によりて人格の缺陷を補ひ、又は之を改めんとするは、恰も外部よりの作用によつて鉛を黄金に變じ、樫の木に杏の實を結ばせうとするやうなものである」と云つて、個體尊重を高調したのである。斯くの如き思想界の個體尊重に對して、更に一方より自然科学が大なる聲援を與へた。即ち當時勃興したる醫學及び生物學の研究の進むにつれて遺傳の確乎たる法則が発見せられロマンチケルと相和して個性の重要な意義を闡明するに至つたのである。

併しながら、個性の尊重が愈々實際の社會生活上に適用せられたのは十九世紀末或は二十世紀の初め以來のことであつて、其の先驅をなしたるはモイマン、ラスク、ミュンスタール等實驗教育學者である。此の頃より醫學界に於ては遺傳や個人的特質に就ての考察は診斷治療上の最も重要な要件となり、裁判に於ても先づ個人の特質を考察して後裁斷せねばならぬやうになつた。又、實業界に於ては大産業組織が益々發展するに従ひ、適才を撰擇して能率の増進を計らねばならぬやうになり人間工學、産業心理學、メンタル・テスト等が急激な發展を見るに至つたのである。かくて個性尊重の觀念はあらゆる方面に波及し、個性を考慮せずしては如何なる人事上社會上の出來事も考へることが出来ないやうになつた。實に個性の尊重は二十世紀に於ける最大の收穫にして人文史上特筆大書すべきものである。

三

何故に世界には同一なものがないか、何故に凡ての個體は各々特有の性質をもつて居るか、之に關する説明としては、先きにあげたヒッポクラテスの説が最も古いものである。勿論現今は此の説は行はれないで一般に之を遺傳の力と環境の影響とに歸して居る様である。然らば何故に遺傳の力と環境の影響は斯くの如き多種多様な個性を造るか、之を究明せんとするに當

つて先づ自我の本質に就て考察せねばならないのである。

常識では、「自我」は身體と精神とよりなる個體であると考へて居るがこの考は少し熟考すれば直に破れてくる。今、私の身體の一部、例へば一本の腕が切斷せられたとするにその際自我の一部が缺損したと考ふるであらうか吾は腕が切斷せられても脚がなくなつても「自我」は嚴然と存在して居ると考へるのである。従つて「自我」は肉體ではない。然らば精神現象であらうか。精神現象は刻々消滅生起する過程であつて實體ではない。斯くの如きものを自我の本體とすることは吾々の經驗が許さない。昨日の自我と今日の自我、A事件に對する自我とB事件に對する自我とは同一でなければならぬ。又之を同一でないと見ることが、人間生活に最も必要にして生命の原動力とも云ふべき「責任」と云ふ倫理的要求が許さない。

「自我」は肉體でもなければ精神現象でもない。然らば何處に之を求むべきであらうか。靜かに考ふるに精神現象の消滅生起肉體の不斷の改變の奥底には、之を一貫する統一がある。昨日の私と今日の私、散歩するときの私と家庭に於ける私との間には整然たる統一がある。此の統一こそ自我其物であらねばならぬ。

「自我」は各々一定の傾向を有し、此の傾向によつて凡ての現象——精神並に物質——を統一する。個體とは此の自我によつて統一せられた現象の一團に外ならないのである。自我に各々一定の傾向があるから、之によつて統一せられた現象の一團即ち個體には、各々著しい特徴がある。容貌の美醜も精神の善惡も之によつて起るのである。最も完全なる統一をなしたるときは最も優秀な個體となり、最も不完全なる統一をなしたるときは最も劣悪な個體となる。而して自我の統一の一部が破れた者は狂人にして之が全然破れたときは死に到るのである。

個性とは自我統一力の傾向を云ふのである。而してその統一力は精神的にも身體的にも現はるゝのであるが、一般に個性と云ふときには精神的方面のみを名くるのである。換言すれば個性とは自我の統一の様式である。

自我は次第に發展する。嬰兒の自我はまだ混沌として自他の境さへも分らないのである。然るに之が漸次發展するに従つて

自我は確立し、且つ擴大する。單に自己の精神及び身體のみならず、家族も自我の一部となり、遂に朋友社會國家人類までも自我の一部として統一される。かるが故に偉人は人類の不幸を以て自己の不幸以上に苦痛を感じ、國家存亡の秋に於ては小さな自我を棄て、大なる自我の繁榮を希ふのである。

自我は純粹主觀である。凡ての客觀的要素を最後まで捨象して得たるもの即ち純主觀である。従つて之を客觀的に考察するときは、もはや眞の自我其のまゝの形ではない。従つて自我の性質を云々せんとするときの自我は自我其のものより遠く隔つたものである。けれども、如上述べた二種の性質「自我には各々一定の性質があること」及び「自我は次第に發展することは考察上必然的な假定である。此の假定を設けねば自我に就ての考察は一步も進むことの出来ないものである。即ち最後の假定である。數學上の「 ϵ 」或は「 δ 」點は位置のみを有し長さも厚さも幅も有しないものである」と云ふ假定と同様に、これのみは假定せねば止まれぬ假定である。許さなければならぬ假定である。

四

前述の如く、個性とは自我が發展する傾向である。而して自我の發展は各々特殊な傾向を有し、他より眞似することも出来ず改造することも出来ない。只其の統一に對して適當なる材料を供給し、其の統一を容易ならしむることのみが人間にとつて可能である。即ち各自の自我が自由に完全なる一統をなすやう輔導助成することのみが吾々に出来ることである。個性尊重の主張はこゝにある。否、あらゆる新しき教育主張の根本的原理は實に此にあるのである。例へば、アメリカで盛に行はれて居るプロジェクト・メソッド——兒童自らをして最も價值ある實際生活の一單位を目的としたる計劃を立てしめ、兒童自身の全力を傾注して之を解決實行せしめる教授法——の如き、又、二年前にヘレン・パークハースト女史がマサチウセツツ州ダルトン市の中等學校で初めて行ひ、英人ベル・レニー女史がロンドンの郊外ストレッツタム高等女學校に於て實行し忽ち英國の教育界を風靡した所のダルトン・プラン——學校の課業を全然生徒の自學自習に委ね、學級の教室を設けず、學科目の數だけの研究室を

設けて居る——の如き、或は千葉師範の自由主義や明石の動的育成小学校の全人教育等、何れも自我の自由なる完成、個性に相應したる自我の統一を圖らむとする主義に外ならぬのである。

併し個性の尊重や自我の自由發展の主張を履きちがへて、個人教育が新教育主義の上乗なるものと考へてはならない。全然同一なる刺戟に對しても自我は各々特殊な統一をなすのである。例へば、同一な土壤、同一な肥料を與へても蜜柑は蜜柑、金柑は金柑、ネーブルはネーブル特有の性質を有し、それ／＼特有な果實を結ぶのである。我々が一片の花を見るときを考へて見よ。之によつて感ずる處は各々異なるではないか。或は吉野を聯想するものあり、或は月夕潮を回想するものもあらう。或は我が庭にあらばと感ずるもの、或は「之を描かば」と思ふもの等千差萬別各々自我の傾向に從つて統一するではないか。斯くの如く、同一なる對象に關しても自我は各々特殊な統一を行ふのである。從つて徒らに個性に相應した刺戟のみを與へんとするは却つて無駄の骨折りである。否、却つて失敗である。非教育的である。何となれば、第一に自我發展の傾向或は個性は人間同志にさう十分に判明するものではない。唯、自我統一の後の状態を見て始めて個性が分るのである。即ち個性を知ると云ふは、個性其物、自我の傾向其物を知るにあらずして、自我の統一したる種々の状態より歸納して之を察知し得るのみである。自我はあくまでも純主觀であり、從つて無意識であるから、決して之を直接に窺ふことは出来ないものである。これを以て個性に相應した刺戟のみを與へることは不可能である。第二、個性に相應した刺戟のみを與ふことは自我發展を助成する所以でない。自我の發展には量的發展よりも質的發展の方が重要である。即ち量的に大なる統一をなさしむるよりも、質的に雑多な材料より最も適當なる材料を撰び、之れを其の傾向に從つて統一する力を養はねばならないのである。然るに、慧眼の士があつて一兒童の自我統一の傾向を發見し、それに應ずる材料のみを與へんとしても——斯ることは勿論不可能であるが——自我の統一力其物の質を陶冶することは出来ないのである。

五

然らば、現在實際に行はれて居る教育は一般に個性尊重の思潮に適合して居るであらうか。私は遺憾ながら「否」と答へざるを得ない。寧ろ之を妨げて居るではなからうか。教師が教授すると云ふ態度で教室に臨む以上は生徒の自我の發展を望むことは出来ない。それは教育ではなくして強制である。生徒は自己の内部より發したる目的に向つて學習するのではなくして、外部より強制せられたる目的に從つて勉強するのである。換言すれば勉強そのもの、目的は意識せず、試験、點數、褒賞等を目的としての勉強である。斯くの如き勉強によつて得たる知識技能は兒童の自我の統一中に入ることは出来ない。自我の血となり肉となることは出来ないのである。

個性尊重の教育は、第一に兒童自身の自己目的の活動を要求する。即ち學習の目的が兒童自身の内部より發したるものでなければならぬ。第二には、其の活動が兒童の全力を傾注するものでなければならぬ。強制的な活動に對しては兒童はその全力を傾注することが出来ないものである。第三には學習の自由を許さねばならぬ。單に授業中に於ける姿勢態度のみならず、學習の方法や概念の構成に至るまで、全然兒童の自由に委ねねばならない。

斯くの如き教育に於ては、教師は教授すると云ふ態度をすて、兒童の發達を輔導すると云ふ態度をとらなければならぬ。即ち教へて教師の言説行動に倣はしむるにあらずして、兒童の自我の發達を輔導し、兒童をして新しきものを創造せしめねばならない。例へば唱歌の教授に於て教師の歌ふ通りを寸分たがはず反覆する生徒は、個性尊重の教育から見れば、喪むるに足らないものである。教師の示す模範を聞いて之を自己のものとし、唱歌のあらはさんとする精神を全然自己のものと化し、全力——知情意及び身體の——を注いで之を歌ふ生徒は、その仕方が教師の模範とは非常な差異があつても、最も優れた生徒である。人間は決して蓄音器ではなす。

職業に就いて

原 房 孝

一

私は職業に關して述べよと命ぜられた。それでこれから少し述べようと思ふ。固より私は職業に就いて専門的に研究して居るものではない。随つてこれを科學的に論ずることはとても出来ない。たゞ幼少なものに對する道德教育上、是非必要であると考へる事項の主要だけを記さうとするのである。さて職業に關して述べべきことも考へて見ると中々多い。それを悉く今こゝで論ずる暇は遺憾ながらないので、教授細目中の「職業と人生」及び「職業の選擇」だけに就いて記すだけに止めようと思ふ。

二

第一に考ふべきは、職業とは如何なるものかと言ふことであらう。八百屋も職業であり、大工も職業であり、左官も鍛冶屋も屋根屋も皆職業である。昔は士農工商と言つて、この世に於て人の従事する方面を大體四つに分けて考へたやうであるが、細かに數へあげて見るとこの外にもまだ澤山あつたらうと思はれる。但しかやうにこの世に於て人の従事する方面を一々數へ上げて行つたならば、恐らく際限がなからうと思ふ。いくら完全に數へたつもりでも、どうも數へ洩れがないと言ふことは保證出来ない。また新しい職業が次から次へと起つて来て、到底完全な列擧は覺束ないことになつてしまふであらう。だから職業の種類を順々に數へあげて、これ／＼が職業であると明確に言ひ切ることは、こゝではやめて、これを抽象的に言ひ表はすことにする。一つ／＼を數へ擧げる方は具體的で解りやすいが、完全を期し難い。抽象的に述べる方は一切を包括し得るが

一寸理解しにくい缺點がある。それで生徒にまづ或る程度の列擧をして、然る後にこれを一括して抽象的に教へるのがよからうと考へる。私は職業とは人の活動の仕方・方法であると考へて居る。この活動の仕方・方法によりて職業の種類が分れて來るものと言つてよからうと思ふ。

右の通り職業とは人の活動の仕方・方法であると大體定めておいて、次に職業と人生に就いて述べようと思ふ。これに就いて極く大切であるのは人生の意義である。人生とは何を指して言ふのであるか。この解釋の仕様によつては、結論に於て大變な差が生じて來るのであるから、最初これをきめてかゝらねばならぬ。普通「人生」と言ふと「世の中」のことであると考へたり、「人の一生」と答へたりするものが多いやうである。世の中、人の一生、何れも全然間違ひはない。併しかやうに言つたのみでは、たゞ言ひ換へをしただけのこと、やつぱりよくわからぬのである。それでこゝでは十分人生の意義を理解せしめるやうに努めねばならぬと思ふ。

人生とは私は次のやうに解釋すべきものではあるまいかと思ふ。即ち我等と言ふ生きた人、この生きた人は皆必ず生命をもつて居る。生命がなくて生きて居ると言ふことは決して言はれない。「生きる」と言ふことは生命をもつて居る、と言ふことを意味して居るのである。さてこの我等の生命は、少しもやすむことなく、常に動き働き活動し發達・進歩して居る。このことは各人が我れと我が生命を反省して考へて見るとき、必ず「然り」と肯定せざるを得ないところの明確なる事實である。そしてこの不斷の活動をして居る生命が展開してゆく道程(道行き)、これを人生と私は考へて居るのである。これを約言すれば人生とは生命展開の道程であると言ふことになるのである。我等の生命は活動することをその本質として居る。故に人生は活動することがその本來の面目である。否、活動が人生であり、活動のない人生と言ふものは、これを考へることが出来ないのである。この世に生を稟けた人としては、よくこの道理を理解せねばならぬ。また幼少なものに對して色々の方面からよく／＼この點を理解せしめなければならぬ。これを十分に會得したものは、決して懈怠にその日を送ることを欲しない。何のなすと

ころもなく日を送つてゆくことに大きな苦痛を感じ、到底これに堪へられなくなつて來べき筈である。生命の自覺の不十分な時代には何事でも自分の手足を働かせずに、召使や他人を使つてゆくことを貴い事のやうに考へた事もあつたやうであり、ただ今日でもその遺風がないでもない様であるが、これは甚だしい間違である。人生の本質を理解せざるものゝ、許すべからざる謬見である。人生の意義は大體以上のやうに考へるのが正しい考へ方であると思つて居る。私は何もせずに徒衣・徒食する人々を見ては羨やましいと感ずるよりも、むしろ氣の毒と思はれてならない。「醉生夢死の徒」と言はれるのは、かやうな徒衣・徒食の人で、これこそ本當に生れ甲斐のない人と言はねばならないのである。

次に注意すべきことは、この人生は決して孤立的のものでもなく、また單に一時的のものでもないと言ふことである。孤立的でないと言ふのは、自分獨りぼつちでないと言ふことに同じい。即ち人々と共に、換言すれば社會的に生きてゆくことを意味するのである。人生と言ふ以上、必ず社會的であることを忘れてはならない。故に活動を生命の本質である考へて居る。私はここに於てその活動は社會的なされねばならぬと言ふことを附記せざるを得ない。自分勝手に無茶苦茶な活動をすると言ふことは、どうしても許すことが出来ないものである。一時的のものでないと言ふことは、その時々の出來心で生きて居るわけにゆかないことを意味する。換言すれば過去をふくみ、未來を考へたところの現在に生きて居ることを意味する。約言すれば歴史のものであると言ふことになるのである。

以上人生に就いて述べたところを一括すると、人生とは我等の生命展開の道程である。而してそれは社會的のものであり、歴史のものであると言ふことになるのである。

人生と職業との意義が上來述べるところの如きものと考へるとき、當然の結論として次のことが言ひ得ると思ふ。即ち苟もこの世に生を稟けて居る人である以上はそれが如何なる身分のものであつても、如何なる境遇にあるものであつても、必ずや一定の活動の種類即ち職業に従事せざるべからず。もしこれなきときはそれは人としての本當の生き方をして居るものではない

と。而してまた曰く、その活動は飽くまでも社會的になさるべきであり、同時に歴史を無視して行はるべきものでない。

次に私は職業の貴賤と言ふことに就いて一言したいと思ふ。よく世間ではあの職業は賤しい、あの職業は貴いと言ふことを言ふが、果してさやうなことが言はれ得るのであらうか。職業それ自身に本來貴賤の區別が存するものであらうか。私は全くさやうに考へないのである。職業には本來貴賤の別があるのではない。人が社會的に考へて見て、然る後自己の最も適するところの職業に従ふと言ふこと、そのことに何等貴賤の區別が存し得る筈がない。然るにこれに貴賤の別があるが如くに、事實に於て思はるゝのは何によつてあるか。私の考へるところによると、それはその職業に従事するものゝ心掛如何によると思ふのである。自己の職業を自分自らがつまらないものと思ふところにかやうな誤解を生ずる原因があると考へる。「人自ら侮つて然る後人これを侮る」と言ふ言葉を十分に味つて見るがよい。自分が自分を侮るときに、他の人がこれを賤しむのである。自分の職業を自分が賤しいと考へることが、人々をしてその職業を賤しいと思はしむる因となつて居ることに注意せねばならぬ。これに關しては諸種の例を擧げて十分に幼者に會得せしむることが肝要であらう。

三

職業の選擇に關して特に注意すべき事項は五つあると私は考へて居るのである。第一、職業は自己の性質・才能に最もよく適したものでなければならぬ。第二、職業の選擇に當つては、自己の健康状態を顧慮せねばならぬ。第三、自己の家庭の事情を考へねばならぬ。第四、社會の要求を無視してはならぬ。第五、職業指導の方法を考究せねばならぬ。以上五項の中第一より第四までは選擇者自身の側に屬するものであり、第五は主として指導者側に屬するものである。以下極めて簡単にこれ等に關して説明しよう。

我等人格者は一個獨立の人として、決して他の人と取りかへることの出來ない尊い使命を各自もつて居るものである。色々の缺點もあらうけれども、どうしてもその人でなければ出來ないと言ふ仕事を各自が一つづゝもつて居るものと考へざるを得な

い。「何其の人はあつてもなくてもよい」と言ふことは、それが他人である場合はとにかくとしても、自分に向つて言はれた言葉とすると、到底堪へられないことである。自分も他人も同じである。そこで各自がその獨特の使命を果すやうな職業を選ぶことが第一に大切となるのである。職業世襲と言ふこともあつたし、まだ今日でも往々あることであるが、各自の性質、能力に應じて、それに最も適した活動の仕方をするには、生命の自覺に徹したものゝ、どうしても否定し得ないことであり、随つて世襲と言ふことは厳密に考へるとき、常に必ずしも正しい活動の仕方ではあり得ない。自分に適當した職業は能率の上から言つても、興味の上から言つても申分のないものである。かやうにして最適のものを撰んで一生を愉快に送ることは、單に自分だけの利益ではない。廣く社會の爲になる。否、本當に言へば人類文化の進歩に貢献することになるのである。もし人の眞似をするとか、強制されるとかして眞に不適當なものを選んだときは全くこれと反對の結果に陥る。自分には興味がない、興味がなから能率が上らない、能率が上らないから収入も多くない。収入が少なれば家計は不如意になる。かやうなことでは社會の爲、國家の爲、人類の爲になり得るとは到底考へられないのである。特に注意すべきは不適當な職業を選ぶことが、怪我や死亡をさへ持ち來らすと言ふ恐ろしい結果になることである。

健康が職業に大關係を有することは申すまでもない。故に平生から健康に十分留意しなければならぬが、體質によつてどうしても適してゐない職業と言ふものもあるものであるから、たゞ人眞似とか、収入の多少とかによつてのみ自分の職業を決定するものはよろしくない。

家の事情によつてもまた選擇上考慮を要する。固より選擇に當つて最も注意すべきは前記の性質・才能・健康等であるが、これ等に於て何れに就いてもよいと言ふやうな場合には、この家庭の事情と言ふことが選擇の標準となると見てよろしからうと思ふ。さきに人生は歴史的であると申したことゝ考へ合せて見るがよからう。

以上擧げたことに於て何等差支かない、即ち二つの職業を何れに決定するかと言ふことに於て前記三個の條件は、何れにあ

つてもよい——實はさやうなこのはまづあり得ないと思ふが——と言ふことであるならば、社會の要求と言ふことによりて決定するがよい。但しこの爲には十分見透しのきく眼識が必要であることを忘れてはならぬ。輕々にきめることは出來ないのであるから、先輩長者の教を乞ふことに吝であつてはならぬことを十分了解せしむることが肝要であらうと思ふ。

最後に職業指導の方法であるが、これに關しては我が國に於てまだ十分組織的に研究されて居らない。甚だ遺憾な次第である。それだまづ「補習教育」などが率先してその科學的研究を始めるのに、最も適した便利な位置を與へられて居ると考へるのである。今後十分な努力を斯の爲に向けらるゝことを切望して止まない次第である。職業指導に於て最も組織的に行はれて居るのは、イギリスとアメリカとである。アメリカの最近の状態は私が雑誌「教育研究」に拙譯を載せておいた。アメリカでは主としてジュニオール・ハイスクールとセニオール・ハイスクールとでこれをやつてゐるやうである。またこの兩國の状態の概要は篠原氏の「教育辭典」の「職業案内」の項を参照されたい。一通りはわからうと思ふ。近頃盛んになつたメンタル・テストは實は入學試験などに利用せらるべきものではなくして、實にこの職業指導の方面にその最も適當なる分野をもつて居るのではあるまいかと考へてゐる。附記して以て参考とする。

職業觀念

桐淵勸藏

世襲より解放された日本人

士農工商と云ふ階級制度と、家族制度から生れた職業世襲の習慣は我國古來の政策としては便利なものであつたが、一世代毎に進歩する人類に對して不變の法則とするに餘りに不合理であつた。明治の革新前外國の思想がぼつ／＼はいつたことは事實であるが、此の刺戟と云ふよりは寧ろ內的の覺醒によつて維新の大業が遂げられ、同時に四民は兩刀を捨て土下坐を止めて自由の天地に活動すべく解放されたのである。士族が商人となり農民より學者となり政治家となり、桶屋の丁稚から百萬長者も出た。職業選擇の自由は教へられ、親は自分の職業を子に強ひないで其向ふ所を援助し、ひたすら將來の立身出世を願ふた教育は盛になり出世の早道は學校教育にありと云ふことになり、遂に今日の如く「相當の學校であれば何所でもよい」と云ふ様な、全く職業選擇と云ふ原則から離れた傾向をも生ずるに至つた。社會は個人の實力を認める力がないから學歷本位の習慣を生じて今日の入學難をも生んだ。

職業世襲から解放された國民は果して社會を理解し、何を標準とし何物を根底として其職業を選みつゝあるか、解放されたるものゝ、青少年は第一獨立と云ふ事に對しての觀念が、甚貧弱で常に親にたより他人に依頼して居る。經濟的の補助を受けつゝ其空想文は強いが遂に獨立自營するの強固の意志がない。一面に於ては親は子に將來頼らんとするから子供の行くべき方向につき干渉もし束縛することも起る。家族制度の美は職業世襲と相俟つて其美しさを現はすが、今日解放されたる思想の

下には矛盾を生じ、親子共に悩むの現状を生ずるのである、

指導は科學的なれ

今日學校及社會で青少年に教へて居る職業觀は何であるか、「諸君は力次第努力次第で何にでもなれる、大臣にも、百萬長者にも……」これが今日の青少年を空想家、若くは夢想家たらしめる大原因である。自分は小學校の時、豊太閤が草履取から太閤になつたことを教へられた。そして彼は始めから天下を取るなんと云ふことは考へては居らなかつた。「乃公でも武士になれるか？」とは彼れが松下嘉兵衛に云ふた問であつた。足輕となり士分に進み、組の頭となり、一方の大將となつて彼れは一步一步進んだのだ。そして現在の仕事を最も良く爲し遂げたのだと教へられた。これは恐らく現在でも小學校で教へられて居ることであらう、而し事實は一步一步と云ふ要點から離れ、若しくは此要點を抜いて居るのではあるまいか、「年少にして大志を抱き云々……」と云ふ教へ方は多くの場合に空想を植え付けるに過ぎない。修身教授と云ふ特別の時間を置き、一方個人道徳で人間を重箱に詰める様にしようとすると同時に、他方には將來の空想に耽る様なことを教へ込むことによつて果して生きた社會に第一步を踏み出すの用意を爲さしめ得るであらうか。

最近次の様な話を耳にした、中等の工業學校を出て實社會に、職工としてはいり五年間職工、次の二年見習組長、次の三年組長、次の二年見習職長、次の五年が職長、次に技手になり、技師となり、工場長となり、遂に重役に進むの推定平均年數を取つて右の如く數字的に自分の行くべき段階を教へることを思ひ着いたと云ふ話である。例へば滿十八年で學校を卒へると其年が五十歳に達した時、重役になる其間の各階段を年數で切つて示してやるのである、これは其數字を得るに困難はあるが、單に諸君は初めは職工であつても、遂には重役にもなれるのだ」と空漠と教へるより價值が數等上である。

適性考査に依つて職業を指導することも、其方向についてヒントを與へるには有効である。而し其れ文なしたのでは殆ど價値はない。自分の進むべき職業について社會的・經濟的の知識を授けること、即ち自分は此職業中如何なる地位を採るもので

あるか、そして社会と自分の職業と何んな関係があるかを平易に呑み込ませ、そして自分が地位を進めるとすれば如何なる経路を通り、大體どんな年限で行けるものかを實際的合理的に教へるのが即ち職業指導を合理的科學的にするの道ではあるまいか。

一體實社会は人體に於けると同様、各種機關の分業によつて成り立つて居るので、手の中の親指は始終親指でなければならぬ様に、一の仕事に適した人、そして其仕事に興味を持つ人は終始之をやり通すと云ふ考が必要である、一つの仕事は文字通りに單純なものではない、「一生職工で暮す」と云ふと非常に意氣地無し様に感ぜられる様にもあるが、一つ「焼入れ工」と云ふ職業を持った人があつたとすれば此仕事を最も良く爲すことは非常に興味あり價値あることで、此仕事の良否は製品の良否に關係すること多く、其仕事に熟達した結果は報酬の増加として名譽の表賞として表はれ、其人の地位の向上——若し其人が好きならば——の原因となるのである。

一人一業と職業観

これはフランスの片田舎に於ける郵便配達人の職業観の話である。彼は六十幾つかの老人で既に三十餘年間郵便配達を同一地方でやつて居る、偶々其地方を訪ねた日本人が此郵便配達に向つて「君は何故其年迄郵便配達をして居るのか、年を取つたらもつと樂な仕事をしたらよいではないか」と尋ねた。すると彼は「これは乃公に最も適した職業で自分は好んで若い時之を選んだのだ、自分は一生此の仕事で終るのだ」更に日本人は問ふた。「それでは其仕事に面白味があるのか」彼「そうとも長い間これをやつて居ると彼の村此村の人達皆知合になる、手紙を持つて行くとお茶も出してくれる、手紙について打聞けた話も出る、此は到底他の仕事では味ひ得ない。自分はこれが何よりの樂しみだ」日本人更に「それでは君の俸も郵便配達にするかね」彼「それは乃公の知つたことではない。俸は俸で自分の職業を見出すのだ」。

右の對話はフランスの田舎の人達の職業観の代表ではあるまいか、パリの華美な生活や人口の増さないことからフランスの

衰亡論をさへ唱えられて居乍ら先年の大戦争にも大なる力を見せ、戦後の回復も相當に進んで居るのは、佛人が吾々の想像するよりは堅氣な職業観を持つて居る爲めではあるまいか。我國にも職人堅氣の内に技術に對する趣味とプライドは多く含んで居た。而し年を追ふて此氣風は減少しつゝある。農村青年を駈つて都會に集中せしむるのは經濟現象であることは疑はないが而し前述の空想に原因することも著しい事實である。

一人一業を唱へ適材適所を叫ぶことは、基礎問題として必要であるが、職業に對する正當なる理解を興ふることは更に重要である。教育者も否らざる者も擧つて青年をして空想に走らない様に導くことに力めねばならぬと思ふ。青年の職業に關する迷ひは勿論社會狀態の反映である。社會の秩序が出来れば青年の向ふ所もより明瞭になる。而し乍ら青少年は第二の國民である。之を善導すべき現在の成人は第二の國民たる青少年の職業選擇を誤らしめない様にする責がある。

家族制度より個人主義へ

歐米の思想は凡て個人主義から割出されて居る。それが家族本位であり、個人道徳を主とする我國へ輸入されるのであるから、矛盾が起り親も子も煩悶が起る。現在の産業組織も家庭本位を脱して社會的になつて居る。個人の自由と云ふことゝ社會の秩序を守ると云ふことが恐らく日本人が理解に苦しむ主要點ではあるまいか。それが自由の履き違えの基をなして居るとも云へよう。個人の行動で社會に直接關係ないことには自由が許されるが、社會的生活に關しては其訓練は中々八釜しいのが歐米のやり方である。社會的の訓練は先づ家庭に於る食卓から始まる。不行儀をした小供は退場を命ぜられて飯を食べねばならぬ。禁止された不行儀をすると約束通りの制裁を受けると云ふ風である。斯の如き訓練が基を爲して公衆の席で誠に靜肅であり、公衆の乗物の中でも誠に靜かで秩序立つた行動をする様になる。生れつきではない訓練である。獨立精神を養ふにも幼兒からの訓練に日本人の考ふべき澤山の問題がある。彼等の遣り方に較べると日本のやり方は干渉主義であり依頼心を起させる様な仕向け方である。獨立心が乏しいから職業選擇についても眞劍でなく、空想的である。

我國現代の青少年は其思想に於て大分個人主義的に傾きつゝある。一方に於て家族制度から來た依頼心をたつぷり持つて居り、職業上の獨立と云ふ觀念に乏しい。勿論之を青少年にのみ責むることは出来ない。責は全國民にある。外來の思想と經濟組織は個人主義に傾いて居るのに因襲の依頼心があるので、此所に矛盾を作り煩悶を生んで居るのではあるまいか。吾人は家族制度の美點を失ひたくはない。而し乍ら外來の思潮と經濟生活の窮迫とは其美點を保存することを困難ならしめて居る。吾人は個人主義的教育の根本に觸れねばならぬのではあるまいか。そして青少年の眞の獨立心を築き上げて行かねばならぬと思ふのである。

職業教育の本旨に就きて

— 勤勞教育の人格的基礎 —

伊 東 延 吉

産業革命以來工場に於ける諸工業は急速の發達を遂げた。分業制度は工業のあらゆる部分に應用せられて、彌々機械的精巧と大量生産とを可能ならしめた。此の變革は近世の大工業を完成したのであるが、其の當然の又悲しむべき結果として創造の喜と藝術の味ひとを凡ての生産品及生産業から奪ひ去つたのである。手工業はたとひ其の生産量と規模の大と、精密さに於ては決して近代工場工業の敵ではないけれども、其の内には創造の樂があり、藝術的香味を持つて居る。若しくは持ち得る可能性が十分にある。大規模の機械と分業とは、此の根本的なる要素を奪ひ去つて、勞働の愉快を化して苦痛とし、創造の喜に代ふるに倦怠と疲勞とを以てした。近世の工場は斯の如くにして發達し大規模の組織と生産の機械的精巧と多量とを誇るに到つた。

二

近世の學校の發達は顯著と謂はなければならぬ。然し其の發達の内容は果して妥當であり、何等の過誤なかりしものと謂ひ得るであらうか。固より今日迄の學校の發達は我國の文化をすゝめ、國運を振張するに偉大なる效果ありしことは明白にこれを認めなければならぬ。然しながら固より何等修正の必要なき、正しき道を辿りしものと見ることは出来ない。近來の教育制度に關する社會の聲を聞けば自ら明瞭なることであらう。學校は工場と同一經路を採つて發達したのではないか。其の大規模

なることに於て、其の組織の整然たると同時に機械的なことに於て、其の内容が動もすれば創造と生命とを失つて、無意味なる劃一化の傾向あることに於て、其の卒業生が其の量と質とに於て社會の實際の要求に適應せざることに於てまことに近代の工場と其の生産品とに似通ひたる點はなからうか。然しながら學校も亦社會の所産である。従て近代の社會全體の傾向を負ふて發達し來つたのは已むを得ざることにしなければならぬ。要は今後の改善進歩の道如何にある。

三

教育の機械化、劃一化、抽象化に對する改善の聲の近來極めて顯著なるもの、ある事は謂ふまでもない。教育の生命を鼓吹し、兒童生徒の自由なる活動の内に其の活氣ある發育を見出さんとする諸主義諸方案は盛んに唱導せられて居る。受動をさけて自發自主の内より健全なる人間としての發達を求めんとするのは、普遍的なる傾向である獨米其他の國に於ても夙に其の有名なる主張と實施とがある。斯の如きは上述したる近代の教育の弊所より見て寔に當然のことである。

四

然しながら兒童生徒の自發的活動の裡に特に其の作業的勤勞の裡に其の智能を磨かんとする以上は、其の着眼せざるべからざる重大なる要點は、實習の方法其のものにあらずして、實に其の自發し來る活動の根基たる人性其のものである。人格其のものである。此の點に於て多くの新しき主義は必しも何等の危懼を藏せずと見ることは出来ない。先づ其の人性人格を檢討せずして、單に其の現れ來りたる活動の正邪を知ることとは出来ない。其の自發的活動の善惡を判別せずして、唯其の自發的なものなるが故にこれを尊重し、これによりて教育を施さんとするは斷じて其の妥當なる所以を解することを得ないのである。機械化を矯めて自發的ならしめ抽象を棄て、實習に就かんとするは、固より正しとするも生命即人格を研究し、自發的實習の原動力の本質を知り、根柢と表現と相俟つて進むことは、更により大切なることでなければならぬ。

五

人格は活動の基である、活動の正否は人格の正否の現れに過ぎない。凡ての欲求をそのままに是認するならば、人格の存在はこれを否認しなければならぬ。何となれば人格は欲求の正しき價值に従ひたる統一體であるからである。而して一方に於ては實行は人格の構成要素である。實行によりて人格は保證せられる、實行なき人格は抽象的觀念に過ぎない。實行によりて人格は其の偉大と、確實と、純正とを増すのである。これを教育の立場より見れば、實修に即して人格を執らへ、實修によつて其の内容の統一をより完全にし、其の價值を高からしむる。即茲に勤勞主義、實習主義の教育方法の深き主義と價值とが存在するものと見なければならぬ。勤勞を奨め作業を尊重するは、決して單に從來の書物教授の教育方法を、一層有效ならしむる手段を教ふるに止まるものではない。

六

私は以上の前提を経て、初めて公民教育、職業教育の本旨を説く順序に到達した。公民教育と職業教育とは實業補習教育の二大要目である。近世社會の狀況、一般國民の實狀より見て、補習教育が極めて重要な意味を有することは、更めて申すまでもない。斯の教育は工場と密接なる關係を持つて居る。又會社商店と深い關係がある。此の教育を受くる者は社會の弊所の最も深い影響の下に生活して居る。今や延ては純朴なる農民も、動もすれば同一傾向を逐はんとして居る。此の意味より見ても斯の教育は從來社會の次點として學校教育の欠陥としたる所より、第一にこれを救ひ出さねばならぬ。抽象を排し、機械化と劃一化の弊害裡より引出し來らねばならぬ。

七

獨逸米國等に於ては近來所謂勤勞主義作業主義の教育大いに唱道せられ、獨逸の如きは新憲法の法條の内に其の規定を見るに到つて、國家の確固たる教育方針たるに到つた。我國に於ても近時これらの國の影響を受けて、勤勞的教育方法、實習を重

視する方案の漸次世の注目を惹きつゝあるのは固より慶すべき傾向である。然しながら若し此の種の方法にして、其の最も肝要なる人格的根據を失ひ、單なる作業實習本位の方法たるに止まるならば、獨り近世の教育の弊を救ふに足らざるのみならず、抽象を救はんとして、反つて理想を失ひたる淺薄なる實利主義の陋に陥り、劃一を排して反つて本末輕重の差別なき雜然たる混亂に墮するの虞なしとは謂はれない。

八

公民教育は、人格を基礎としたる實行と勤勞との内に行はなければならぬ。國家や自治體の組織を知り、又其の活動の如何なるものなるかを抽象的に系統を立て、學習することは固より必要である。即公民科の教科書を學習するの必要あるは勿論である。然しながらこれを以て公民教育の全部なりと見るならば、大なる誤謬と謂はなければならぬ。斯の如きはより低く輕き一面を見て、より重要なる、より意義深き他の一面を逸せんとするものである。公民教育は勤勞と實行との内に見出さるゝ人格の教育でなければならぬ。

九

公民教育は人格の公的方面の練成である。現下の社會生活に於ける一個の人格としては、公的方面は欠くべからざる一面である。此の意味に於て公民教育は國民の人格の重要な一面の鍛練である。公的實修は斯くして國民の人格養成上、重要な地位を占める。公的實修とは具體的なる或る市町村の一公民として、當然爲すべき所を實習することを指す、即これを廣義に解すれば、自己日常の職業生活に關する研究と精進、家庭の一員としての圓滿なる生活及該市町村民として爲すべき必要ある諸種の公的事項即自治、産業、風紀其他公益に關する事柄の考究と實行とである。これを狭く見れば、此の最後の公的方面に屬する事項のみを指すのである。これを更に一步進めて言へば公的實生活の内に、公民教育を見出すのである。公民としての奉仕それ自身を人格の修養と見又人格の表現と見るのである。

一〇

近時の實生活に於ては、斯かる公の方面は、人々の頭腦より漸く其の影を薄め、私的方面は益々其の勢を増しつゝある。更に一方時勢の進運は或は普通選舉制度、或は陪審制度等、國民の政治生活の方面に於て各種の重要な新制度の實施を見つゝある。さればこの生活の公の方面に着眼し、其の實修の裡より健全なる人格を育成することは肝要なる時務と謂ふべきである。然しながら、若しも此の重要な教育にして唯公民の義務として必要なり、國民の義務として必要なりと謂ふに止まるならば、其の學習は何等の深き味ひなき、乾燥無味のものとなり了るであらう。然れども、これを自己人格の表現として、自己の人格と直接の連りを感じるならば、其の實行は即人格の實現となり、創造の樂の豊富なるものあるに到るであらう。茲に初めて公民教育、公的實修は其の内部に確固たる生命を獲得するのである。

一一

職業教育に到つては、職業の人格的意義に着眼して、兩者をして密接なる連絡を保たしめ、其の實習の裡より、完全なる人格教育上の實效を擧げ來るの必要は、一層緊切なるものがある。職業教育は單なる書物の上の、又實習場の、教育ではない。又將來の衣食の爲に學習するに止まるものでもない。人格の重要な要素たる職業に關する學習である。又既に職業に就くに到れば、其の職業生活は即自己の人格生活の重要な一面であり、職業は即人格の現れである。人格より生ずる創造である。職業を勵むは即人格の修養である。即職業生活それ自身の内に職業教育即人格教育を見出すべきである。職業の人に苦痛を感じしむるは既に職業が人格と分離して了つた證左である。即職業が人格より生じ來る創造性と、藝術的の味ひとを失ひたるが爲めである。

一二

私は繰返して、職業生活は即人格生活そのものなることを述べたい。職業は即人格の表現なるが故に、創造的なることを其

の本質とするのである。藝術的の味ひあることを自然とするのである。寔に近世の産業の欠點社會生活の欠陥は、職業が其の本旨に反して人格より乖離し去りたる所に存するのである。教育は國家百年の長計である。職業教育をして其の眞の意義を發揮せしむることは、單に現下教育施設の改善進歩の爲めのみではない。

一三

私は以上極めて大體より公民教育、職業教育の本旨を説いた積りである。人格と日常の實生活、特に其の公的方面と職業方面との乖離は、近代の最も悲しむべき欠點である。教育事業の方面に於ても亦此の弊の浸潤することは、頗る深く又廣いものがある。教育の抽象化、機械化、劃一化は皆其の病根を此の一點に歸すべきである。教育の實際化と謂ひ、又劃一の打破と謂ふこの現下の急務とする處も、あらゆるものが一度其の本然の故郷たる人格の懷に歸り、面目を一新して意義深き創造の新衣を帯び來るときに、初めて其の正しく深き實行上の根據を見出し得るのではあるまいか。

職業教育の中心問題

矢野貫城

一

近時教育の實際化の問題が大に考へられる様になり、生活に即する教育といふことが重んぜられる様になつて來る傾向があるのは大に喜ぶべき現象である。乍然從來教育の發達が西洋に於ても東洋に於ても職業を教へるといふことを主眼とせず、知識を研き思想を練る方面に重きを置いて來たものであつて、職業の方面は徒弟制度に依つて、又は自然の經驗に依つて得られるもので、特殊の職業の外は學校教育に重きを置く必要がないとの觀念が永い間人心を支配して來たのであるから、今日職業教育のことを考へるに際しても知らず識らず此の觀念の影響を受けて居るのを見るのである。又職業教育の必要を痛切に感じ職業教育に力を致して居る人々の間に於ても大に其の取扱ひ方に就て考へなければならぬことを見るのである。即ち人間を造ること、職業に關する知識技能を養ふこと、を二元的に見る嫌いがあることである。

近時學校教育を卒へて社會に出で、職業に就く人々の多くの感ずる所は學校と社會の異なることであり、理想と現實と一致し難い結果遂に現實は現實、理想は理想といふ考へとなることである。即ち彼等の多くの考へる所によれば現實は到底理想に合致させることは出來ず、其の現實に活動する職業生活は衣食の料を得る爲であつて、自己の生活は別の世界を持つて其所に眞の生活をすればよいといふ風に考へる様になるのである。即ち職業の内でも宗教家、教育家、藝術家、社會事業家等極めて限定せられた或る種の職業は職業生活が即ち道德生活となり眞我の生活であるけれども、其の他の一般の生活は眞我の生活であり得ないと考へる。勿論我等は自己の本務として居る職業の外に特別の趣味の生活することを不可とするのではないけれ

ども、本務とする職業を單なる衣食の料を得る道と心得、其が人生に對して持つ意義を十分考へず其の職をなすことは一般社會の進歩の上から見ても其の人の眞の發達から見ても面白くないことであるが、斯かる傾向は現在の經濟生活が然らしめたものであつて、分業と交易を本體とする社會に在つては餘りに人が機械的に取扱はれることとなり、人は何物の手段ともすべきものでなく、常に人は獨立して其の完成を期すべきものであるとの觀念を明かに持ち得ざる迄に實生活の或る社會相が人生を壓迫するに至る恐れがある。

二

今日の傾向が右の通りであるから職業教育をなす者が自然と二つの方向を持つ様になつた。即ち一方には現實は現實であるから其の現實に最も適應する様に教育しやうと考へ、全く無批判に現在存するがまゝの社會に入つて最も手際よく實際問題を解決せしめる様な教育をなし之を實際的教育と考へる者があり、他方には實際の職業の知識や技能は實際に就て自然に知るから教育としては人間を造る爲に必要な方面の學科目として語學・數學・歴史・倫理・論理哲學等の學科目に重きを置き、職業に關する學科目は已むを得ない範圍に止めて教へればよいと考へる者がある。前者の様には單なる實際教育といふことに重きを置く時は人類は單に生産の機械となり終るのであつて、事柄を手際よくやつてのける才能は發達し又生産能率方面に於ては益々進歩するであらうけれども人としての生活に深味がなくなり、社會は誠にぎごちない住心地のよくない所となるであらう。故に人格教育に重きを置いて單なる職業の技術や専門知識の方面ばかりでなく、人の人たる方面に頭を向けて哲理を考へ道念を養はしめることは極めて必要である。單なるパンを得る爲の勉強に没頭するならば、我等の精神生活は職業に捕へられてしまつて十分伸びることが出来ない。故に職業教育の立場から人格教育が大に高調せられることは誠に喜ばしい現象である。然し職業教育に於ける人格教育は職業の専門方面、又は技術方面のことに十分なる重味を持たせず職業と離れて思想的に、概念的に之をなすのでは其の効力を十分發揮することが出来ない。此の點が將來職業教育上重要な點となるであらう。我々は

現實の社會に生活して居る限り單なる概念や思想に依つてのみ生活することは出来ない。人はパンのみに依つて生きることは出来ないけれども、パンの問題を正視せずして眞の人生を送ることは出来ない。人は職業に捕はれ職業の中に封じ込まれて人生を意義あらしめることは出来ないけれども、職業を正視する事なくして眞の人たることは出来ない。人格や道念が職業と關係なくして現はれることも勿論多いけれども、職業生活が絶へず内なる人格を外に現はすものである。故に職業教育に於て最も重きを置いて努力しなければならぬことは職業は職業、人格修養は人格修養と二元的に考へることを避けて職業を通し、職業に依つて人格が養はれて行く様にしなければならぬ。オイケン教授が人は仕事の方面が發達すればする程精神的な生活は貧弱になるものであるといふ様なことをのべて居るけれども、職業の正視といふことを十分心懸けるならば其の職業に堪能になればなるほど其の精神生活も高尚になり人格も研かれて来るはずである。中世伊太利の或る修道院に一人の皿洗ひが居た、其の人は非常に信仰心の厚い人であつたから皿一枚洗ふのにも必ず神への奉仕であるとの敬虔な心持で之をなした。毎日々同じことを繰返して居る間に皿を破損する様なことは極めて尠くなり、其の上敬虔な心持が其の人の容を化して神々しいものとしたので、其の人は聖者と尊ばれるやうになり、其の修道院の主人よりも反て其の皿洗ひに接して修養しやうと云ふ人が増したといふ話があるが、自己の仕事の正視といふことが其の人の人格を高める力のあることがよく表はれて居る。簡単な皿洗ひの仕事ですら之を正しくすることに慣れ、正當の任務を考へて之に従事するならば大いに人格を高くするものであるから、其の他のあらゆる職業に於て必ず同様のことが考へられる筈である。

三

近世歐洲文明の基調をなして居る自己解放、自己完成の運動は文藝復興の中心思想をなして居るものであつて、あらゆる方面に自己への覺醒を促がして止まない。然しながら人は孤立して生活して居るものでなく、社會に活き社會と共に生存するものであるから、眞の自己完成は自己の社會に對する關係を正しく知ることによって始めて得られる。自己と自己以外の者との

關係を正しく知ることなしには自己に徹底することは出来ない。社會の束縛、自己以外のあらゆるもの、束縛から解放せられた自己は種々な問題にぶつかり、種々な問題を解決して進んだ、宗教に、哲學に、文藝に、美術に、自然科学に教育に夫々新しい道を見出した。然しながら最後に社會を正視し社會との關係に於ける個人の自覺に歸ることに依つて眞の自己完成の道を發見しつゝある。

他の方面に於て十八世紀から十九世紀へかけて發達したロマンチズムの思想に養はれた理想への情熱は、知らず／＼現實をはなれて概念の世界を打ち立てしめる傾向を有する。是が爲に低い所に彷徨して居た自己は高く／＼上げられた。然しながら一方に修養の方面が概念に依つて導びかれる傾向をも造つたから、矢張り最後に社會生活に即した理想に到達するまでは眞の落付き所を見出すを得ない。社會を正視しつゝ我に徹底するならば各自の職業問題が重要な問題として眞剣に考へられなければならない。是即ち現今大に職業教育が重視せられるやうになつた主要なる理由であり、斯く考へることに依つて職業教育が眞意義を發見し、職業が尊いものとなり、職業教育と人格教育との統一を見るのである。

四

人格の完成は其の生活の整理でなければならない。而して生活が整理せられる爲には内的生活の調和、自己と自然界との關係の調和、自己と社會との關係の調和の三つの方面の調和がなければならない。従つて教育は是等の調和を教へ、是等の調和を工夫せしめる様に訓練することを必要とする。精神科學及之に類似する諸教科が第一の方面の任務を持ち、自然科學及之に類似する諸教科が第二の方面の任務を持つのに對して社會科學及職業方面の各種の教科が第三の方面の任務を持つものである。此の意味から考へて見ると人は單に精神科學のみに依つて完成するものでなく、自然科學を加へても十分と云ふことが出来ず、社會科學を學んでも尙満足といふことは出来ない。更に職業方面の教育を受けることに依つて眞の人格陶冶をなすことが出来るのである。従つて職業教育は單なる生活資料を得る手段としての教育でなく、更に人格陶冶を是に依つてなすと云ふ

重大な意義があることを思はなければならない。故に職業の教育をなすに際しては第一に社會に對して生きる爲に必要な資料を與へ、其の手段を供することは人間生活上重大な意義を持つて居るものであつて、もしも教育が所謂文化の進歩を促すことの結果各種の慾望を増すばかりで、其の慾望を満足させるのに必要な物資を供する方面を與へなかつたならば、社會は落ち付かない潤いのないせち辛いものといふことを知らしめ、社會生活に對する生産事業の意義を理解せしめなければならぬ。第二には自己の従事する職業に對する人生觀を確立せしめなければならぬ。今日或る種の職業に従事する人々のみが之を天職と感ずることが出来るけれども、多くの生産事業に従事する人々は之を單に自己のパンを得る道と考へて其の重要な意義を悟らない。従つて輕々しく職を換へ、収入本位で職を求め、又は轉職する様なことがあり勝である。然し如何なる種類の職業でも其が正直に、巧みに、忠實に、親切になされると否とは人間の社會生活に非常な影響を與へるものである。人類の眞の幸福は各種の職業従事者の心得から生れるものである。我々が單に日用品を賣買する商人が全く自己本位でなく、正直に、親切に、勤勉になされる場合のみを想像して見ても、如何に我々の生活が明かくなるかと考へられるから、他の職業がすべて正しくなされるならば如何に愉快な社會が出来るかは考へて見る迄もないことである。第三には各職業の陥りやすい弊に於て之を十分注意する必要がある。而して其の職業の弊害は各種の職業に従つて異なるべきものであるけれども、大體に於て職業の方面の能率を早く擧げやうとして物の見方が近眼的となる恐れがある。例へば工業教育の場合を見るに工業の技術にのみ重きを置く恐れがあるけれども工業製品の社會的の價値を知り、社會の好みを知らしめる爲には一般の社會の状態を知らしめ一般の趣味の研究が必要である。其の爲には藝術方面、歴史方面、公民的方面にも心を用ふることは大切であり、又斯くすることに依つて見界を廣め人格をのべしめる。又一方に偏する弊を除く爲には社交的の方面も考へる機會があれば誠によい結果を生むと思ふ。商業に就て見るも斯かる用意は同様必要であつて、特に利害の計算にのみ鋭くなる恐れがあることは商業に於て最も著しく近眼的となることも、商業に於て大に其の危険があるから趣味を養ひ社交的方面の訓練をする機會を得しめるといふこ

とは工業以上に注意すべきである。

五

以上極めて概略ではあるが職業教育のこの一般に就て述べたのであるが、最後に女子の職業教育に就て付け加へて置く。女子の職業教育中裁縫とか手藝とかの如く之を以て立つて行く方面の教育に付ては、上に述べた一般の事柄が當て嵌まると思ふから特に述べる必要がないが、一般女子の教養として職業に對する理解を興へる方面が等閑に附せられて居るのは大に注意しなければならぬ。女子の教養は女子として特に必要な事柄を授けるばかりでは十分でなく、男子の活動に對する理解を興へなければならぬ。女子の獨立して生活する者又は獨立の勤めを持つ者は別として、一家の主婦たる立場に立つ者に在つては夫の職業に就て十分な理解を持つことが必要である。女子は單に消極的に一家を治めて子女の教育に注意するばかりで足りりとしてはならない。夫が外にあつて或る職業に依つて社會に奉仕するならば、主婦たるものは夫の社會奉仕を一層意義あるものとする所に自己の奉仕も存する。之が爲には女子が職業の理解を有することを得る程度の、又理解するのに最も都合のよい方法に依る職業に關する教育を施す必要がある。必ずしも深いを要しない、必ずしも技術にさまで堪能なるを要しない。然し一般に或る種の職業に關することは知らねばならない。是が爲には女子教育に於ては人間の實生活の方面、職業生活の方面をよく教へることが必要であり、又斯くすることに依つて女子が社會の進展に寄與し、貢獻することが益々大きくなるであらう。

六

以上を綜合するに職業教育は其の最初に於ては直接職業に必要と思はれる事項のみを教へることを以て其の任務としたのであるけれども、既に他の方面で人格、思想の練れた人に職業上の専門事項を授ける場合を除けば斯かる教育は人を偏よらしめ眼界を狭くし、職業に捕はれて人生を見る様になり、従つて職業それ自身もよく出来ぬこととなつたので、其の弊を改める爲

に大に人格教育が高調せられる様になり、職業教育は一段の進歩を見たのである。職業教育は其の職業に偏することから起る弊害に對するアンチドットとして思想教育、人格教育、趣味教育を加味することによつ大いに高尚になり、基礎が堅くなり職業其自身に就てもよく之をなす様な人物を造る様になつた。然しながら眞の職業教育の完成の爲には更に第三段の進歩を見ねばならなかつた、即ち人格教育は職業教育に對して別個の立場を有するものとして、二元的に見ることは現實生活にある者に取つて何等の隙を興へない教育ではない。二元的に見た教育は其の結果として生活を二元的とせしめる危険を多く持つて居る、故に一元的に見て廣い方面の種々の教育を授けることは、職業其自身にも必要であり進んで職業的方面の教育、訓練が人格を造る助をなし、實際に職業に従事しては共に忠實なることに依つて人物が出来て行く様に努めなければならぬとの思想に到達した。茲に至つて將來職業教育の開拓すべき方面は洋々として廣いと共に次第に深味を加へるに至つた。即ち職業教育は平面的より立體的に進んだのである。されば將來職業教育の基調を茲に置き其の程度の高く分化したものであつても低くして一般のものであつても、斯教育に従事する者は此の點に十分意を用ひ、高き理想と、周到なる注意と熱心なる研究心を以て是に當らなければならぬ。

職業指導の起源及び其の發達

水野常吉

一 温古知新

新しい事業を制定せんとするには、後世に至り種々なる缺陷が表現する事は毎日吾人の眼前に提示せられる教育制度の諸問題に徴し明瞭なる事實であるから、我が國情に適應せる制度たらしめんが爲には出来る丈研究もし調査も試みねばならぬ次第である。されば幾分學究的に傾くが、我が國にも盛んに勃興せんとして居る此の職業指導運動の起源及び各地に各様に發達し居る状態を論述する事は、吾人の義務と感じ暫くの間此の題目に就いて述ぶる事とする。

元來此の職業指導といふ考は必ずしも最近新發見の問題ではない。各國各番に何等かの形にて存在して居たものである。我が國に於ても勿論不完全ではあつたが何等かの形式にて實行されて居たものである。されど各國を通じて最近盛に唱導せらるゝ様になつた組織的大運動の起源を劃する年は何時かといふに、之は今より十五年前一九〇八年である。然も其の四月二十三日である。即ち此の日に於いて米國ボストン市に此の組織的機關が制定せられ、漸次世界的に此の運動振興の機運を高めたのである。然らば此の組織的職業指導は米國が發明したものかといふに、種々研究して見ると直接の起源と思はるゝものは英國に在る。勿論ボストン市の試みとは形式に於いて差はあるが、根本思想に大に似通ふものがあるから米のパーソンズ氏は英國に於いて一九〇二年に成文となりて發布せられた、十七歳以下の少年少女に對する職業選擇に關する教育令を必要とした事情に暗示を得たものではないかと思はれる。一九〇一年にパーソンズ氏は職業相談を開始して居るから、直接其の法令によらずとす

るも英國にかゝる法令が通過したといふ事、及び實際に於て行はれる所の事柄が氏の考を一層力強きものたらしめたものには相違あるまいと思はれる。又英國が獨創的にかゝる考を發見したものかといふに獨逸の學者の意見や、又ハレの如き工業地に於ける實際等が参考となつたものかと思はれる。然し獨逸に於いて各地に職業局を制定するに至つたのは一九一二年以後の事である。

A GENERAL DESCRIPTION OF ALL TRADES DIGESTED IN ALPHABETICAL ORDER BY WHICH

Parents Guardians, and Trustees, may, with greater Ease and Certainty, make choice of Trades agreeable to the Capacity, Education, Inclination, Strength, and Fortune of the Youth Under their Care.

扱て此の指導運動の専門家と目される、ブルワー氏の調査によるとプラトリーのリハビリ對話中の「人間たる以上は適當なる職業を取らしむる様賢き指導が必要である」とある文が職業指導に關する最も古きものとして居る。されど其の後何等に關する施設或は方策は適用されず又此の問題に關し多く述べた學者も無かつた。進んで一六七〇年にパスカル氏は再び聲を大にして「人間には聰明なる職業選擇が必要である」といふ事を述べて居る一七四七年には英國に於いて職業指導に關する緒言的の記述が出版された。之は米國の學者が高調して説明して居らないが、此の職業指導の根本精神は小著述の序言に表はれて居ると思はるゝものである。其の表題は上載の如き即ち兩親、保護者、管理者が其の指導の下に青年の能力、教育、傾向、體力、運命に適合せる職業を選択せしめんが爲に各種職業をABC順に一般的記載を試みたものである。之を八章に分ち職業の分類、其の必要、要求する教育技能の程度、見習奉公中の手當の平均額、労働時間、給料、準備に要する資

職業指導の起源及び其の發達

本、其の職業と協同する團體の事情等を説きせんと試みたものである。現在の我が國にも必要な性質の著述である。余が出版せる「青少年の個性に應じたる職業指導」は幾分此の方面の参考にもと説きしたのであるが、近くより一層擴大せる範圍のものを出して現代の要求に應じたいと思つて居る。兎に角此の英國の出版物は職業指導の重要を認識して實用に供さんと試みたる第一のものである。然し著者の名前が明記されてないのは遺憾である。

一七九五年にヘンリー・マッケンズキー氏は *Man of Feeling* 中に記述して曰く、

「實に青年の教育は何れの點より見るも不合理ならざるはなし、未だ曾て徹底的研究を極めずして智力増進に學年を浪費し天才、能力、及び蓋然なる國家の地位を考慮せずして學校の傳統的にして亂雜なる方針に追隨せり」

と、あゝ百八十二年前にマッケンズキーの喝破せる嘆聲は、今日の我が國教育制度にも一道の暗示を與ふるものではあるまいか。組織整然たるが如きも其の根本問題は徹遠主義の下に運行されつゝあるでは無からうか、我田引水の説と目ざるゝかは知らねども、吾人の高調しつゝある職業指導の問題の如きは政府當局を始めとして實業家、教育學者、實際家總動員を以て討究せざる可からざる教育上の根本問題たると同時に喫緊の實際問題たるを失はないものと確信して居るのである。

實にマッケンズキー氏の憂ふる學年の浪費、天才、能力、國家の地位より立案する教育的施設は此の職業指導を根底としたる教育制度にして、始めて目的を貫徹し得らるゝものである。

一八八一年にリサング・エス・リチャーズは職業指導の必要を鼓吹せる著述を出版した、其の緒言の中に述べて曰く

「吾人の完成せんと欲する主張は總ての僥倖と混沌の間に職業を選定する弊を矯めて各人をして大成功を贏ち得しむるに最も適當なる職業を發見せしめんとする或る組織を構成せしめ、或は建設せしめんとするものである」

と、然し此の書は其の必要を鼓吹したのみで他に積極的の方案は説いて居らない。只骨相學を愛好し主として如何なる職業を避くべきかを説き、各市に老練なる職業指導者を得んと努力した、されど氏は各種職業研究に對する準備は些少であつた。

二 純正なる職業指導の濫觴

吾人の見る所を以てすれば、職業指導の濫觴と目すべきものは英國にもあり獨逸にも認められるが、純正なる職業指導の濫觴と稱すべき人は米のフランク・パースンズ氏を推舉せねばならない。何を以て斯く斷定するかと言ふに、氏の建設せるボストン職業指導局は現代に至る迄其の效益を此の運動のために與へ居るからである。氏は曖昧なる科學的根據なきものを職業指導組織に編入せず、出来る丈組織的科學を職業研究に採用した。刻苦精勵各人の性質と能力との研究に従事した。更に又此事業に關する記述を試み、又此運動に従事する者に収益を確立する機會を作つたのである。氏の著 *"Choosing a Vocation"* は職業指導中恐らくは不朽のものであらう。然し今は絶版になつて居るから我が國の讀者は之を手にする事が出来ない事は残念である。口惡るの批評家も其の價值を認容し、よしんば反對しても唯其の方法に對してのみである。勿論其の結論は稍堅實を缺く所あり、又氏と相談せし人々に對する談話が餘りに指定的である點は非難的となつて居る。

前述の如く一九〇一年にマイア・ブルームフィールド氏の設立せる、ボストン市民政廳内に於いてパースンズ教授は職業相談を開始した。一九〇三年にはフリッツ・デヴィス氏が補助者として參加した。かくてデヴィス氏は大に其の實際的方面に共鳴しバ氏指導の下に稼業者學院なるものを設立した。此の事業は移民青年男女の職業指導をなすに當り、バ氏の理想を實現する大成功を來したので直ちに竿頭一步を進め職業指導局創設に着手した。是れ實に一九〇八年々頭の活動であつた。斯くて同年四月二十三日にボストン職業指導局は其の設立を完成し、各種の作業に對する管理者として實質的の理事者を有する各分課を設けた。此の時に當りクサンシ・エー・シヨウ夫人は此の事業の爲に多額の事業資金を齎出した。五月一日にパースンズ氏は第一回の報告書を作製して同局に提出した。時恰も夏季に行はるゝ前期高等夜學校を將さに卒業せんとせる生徒を招致してパースンズ氏と會談せしめ、有益なる相談の續行せられた時である。斯くの如くバ氏は其の年の秋期迄職業指導局の業務を民政廳内に於て執務し、又時間の一部を割きて他の學校に於ても同種の業務に寄與し居り、同年末此の事業の健全なる發展を

祈りつゝ氏は逝去したのである。

一九〇九年の初に諸方案の改造を完成し、之を職業指導局にて遂行し、ブルームフィールド氏局長として其の事務の監理を爲す事となつた。益々獨立の居となりボストン市中の諸學校内に指導事業の設立を要望したのである。此等の事業開始せられてより職業指導に對する運動は全米國に普及し、英國及び獨逸の當事者に多大の刺戟を與へたのである。故にボストンを以て職業指導の出生地であるといふも決して過當の言ではないのである。

三、ボストン職業指導局過去の活動

ボストン職業指導局は多くの重要な事業を遂行した。今其の活動中主要なる事項を記述して見れば次の如きものである。

- 一、ボストン諸學校内に職業指導の事業を建設し其の教員教習のため講習科を設立した事。
- 二、一九一一年―一九一二年及び一九一三年ハーヴァード大學並に一九一四年及び一九一五年カリホルニア大學に夏季講習科を設けたる事。
- インディアナ大學、コロラド州、リレー市在州立師範學校に學科課程として職業指導科を編入した事。
- 又一九一三年―一九一四年にボストン大學、並に一九一六年―一九一七年の初コロンビア大學テイチャーズカレッジに一學年に亘る職業指導科を創定した事。
- 三、一九一〇年ボストン商業會議所と協力して第一回内國職業指導會議を開催した事。
- 四、一九一一年當局より「青年の職業指導」といふ本を出版した事。
- 五、貿易、商業及び各種職業に關する小冊子及び書籍を出版した事。
- 六、歐洲及びポートルコに於ける職業指導の調査研究及び一九一四年に「學校と人生の出發」なる著書を出版した事。
- 七、一九一一年にボストン職業紹介所支配人組合を設立した事。

八、一九一五年に「青年と學校及び職業」「職業指導論文集」出版。

九、一九一六年に「營業案内」「製靴工業」の出版。

一〇、通信、會議、會談等に關して次項の如き活動をなせる事。

四、ボストン職業指導局現在の事業

現在に於けるボストン職業指導局は個人に職業相談を與ふる事に従事する事を主とせずして、更に専心研究調査公報の出版學校及び教則に對する企畫の編成に没頭して居る。而して他の方面には指導に對する觀念の生育と發達とを促進せしめつゝあるのである。

教員、雇主、學校管理者を援助すべき職業局の義務に就ては左の如き記述がある。

職業局の主要業務は生存競争の動機が兒童を覺醒したる時に之を抱持し細心不斷の勤勞を以て援助し、之を善導し、強健にし、而して之を保護する様組織するにある。特に學校より職業に移動する危機を通過する場合に於て然りとする。

左記のものはボストン職業指導局が此の事業のため貢獻して居る現在企畫の部分的目錄である。

- 一、職業指導計企及び其の諸政策に關する通信。
- 二、實際指導を要求する人々との通信。
- 三、學校當局者、雇主、労働組合、一般労働者、立法者との協商。
- 四、ボストン大學、コロンビア大學のテイチャーズカレッジに於ける職業指導の講座擔任。
- 五、組合、學校、俱樂部其他に於いて職業指導局長、課長等の講演。
- 六、諸職業に對して出版の指導調査。
- 七、公開せる圖書館内に於いて職業指導並に職業教育材料の蒐集及び維持。

- 八、専門學校又は大學生の職業指導研究を奨励指導援助をなす事。
- 九、ボストン・ヒラデルヒア、桑港、及び紐育に於ける職業紹介所支配人組合の設立、及び指導に就いての援助。
- 一〇、職業指導の協議會及び集會開催の計畫に對する援助。
- 一一、紐育の小學校に對し幼年者に職業援助を與ふる企畫の編成等である。

我が國にかゝる組織的機關の制定さるゝ時機は果して何年頃であらうか、ボストンには今より十五年前に組織せられ、今は其の効果は全國に擴がり歐洲大陸にも其の範を垂れて居る。一年後れば一年の損がある。「義を見て爲さざるは勇なきなり」とか「善と知りて行はざるは眞に未だ識らざるなり」吾人は一面亦吾が實業界に多數の王陽明の出現を祈つて止まざるものである。

少年職業指導と紹介

大野 綠 一 郎

一 職業指導の必要

歐洲大戰後各國は失業問題に付き非常に頭を痛めて居るが我が國に於いても同様である。而うして其の失業の原因は經濟的不振に歸すると云つても、或點に於いては人が自己の個性に應じて適當なる職業に就かなかつたと云ふ事も大なる原因の一つで有ると思ふ。例へば大正十二年一ヶ年間に於いて我國職業紹介所が取扱つた求職者六十七萬八千人の中十萬七千人が廿歳以下の少年で有つたので有る。が彼等の多くは學校卒業後自己の個性を顧みず漫然と産業界に入り來つたもので其の職に安住する事が出來ない。此の如き現象は我が失業問題上看過する事の出來ない事實で有る。かゝる意味に於いて少年が學校卒業後産業界に入る場合、彼等に適當なる訓練を與へ彼等をして永久的な職業に就かしめ、斯くして其の生活を樂しましめる事は最も必要な事であつて、之は教育上、産業上、重要な價値を有するもので有る。斯くの如き少年職業指導問題は既に各國に於いても重要視されて居り、是れに依つて一國の産業組織を改善し労働階級を向上せしめ得ると迄云はれて居る。我が國に於いては古くより徒弟制度が有り此の如き必要は尠なかつたが、經濟組織の變遷に伴ひ少年が職業の選擇訓練を受くる機會を得られず、生活の爲に目前の高賃銀に誘惑され、自己の個性をも顧慮せず只漠然と就職するに至り、之が爲に失業の機會が多くなつた事も争はれぬ事實で有る。之は失業問題解決の根本と云ふべき事であるから何うしても少年の就業に際し彼等を指導する必要が生じて來る。而して又學校教育の美しい結果を得る爲には此の問題は等閑に附すべからざるものと思ふ。惟ふに少年職業

指導に際し直接助言を與へ、指導するものは父兄、先輩、教師である。然るに産業界が極度に分業化した今日、其の適當なる職業を廣き範圍に涉つて探索せねばならぬ必要上、合理的方法と統一的组织とを有する機關に依頼せねばならない。それで今日に於いては少年職業指導は學校と職業紹介所との協力に依らなければ所期の効果は得られない。一九一九年華府に於いて開催せられた國際勞働會議第一總會に於いて失業に關する條約案を議決した。之に依ると各締盟國は中央官廳管理の下にある公の無料職業紹介所の制度を設けなければならぬ。而うして此の條約は大正十一年十一月に批准公布せられたが、是より先き條約の趣旨を體して我國に於いては大正十年職業紹介法を制定實施されたので有るが、現在職業紹介所の數は百七十七個所で、此の問題に就いては頗る重要な事と認め現在全力を擧げて活動して居るのであります。

かゝる見地よりして本年七月八日社會局第二部長、並に文部省普通學務長より地方長官に、少年職業紹介に關する通牒が發せられ「學校と紹介所とが相互聯絡を保ち提携協力し、以つて適當なる職業の選擇指導をせしむる事となつたのである。是れは實に我國の教育上、産業上重大なる意義を有する試みである。

今や兒童の卒業期も近づいて居る。來る三月卒業す可き全國の學校卒業兒童數百四十萬人と見積り、其の内二割五分産業界に入るものとしても三十五萬人ある。教育家は自己の教へ兒の一生の幸福の爲め、職業紹介所は國家の産業的使命より此の三十五萬人の爲め職業指導を行ふ可きではあるまいか。

澎湃として押し寄する失業の大怒濤に揉まれ、やがては人間苦の最悪なるものを經驗せざるを得ない彼等の爲め、彼等を永久的職業に指導し、以つて其の生存を樂しましめる事は教育者として、社會事業に携る者として、のみならず一般社會の一員として將又産業界の福祉の爲め努力致す可きであると思ふ。

二 職業指導の目的

少年の職業指導の必要に就いては以上述べた所であるが、然らば少年職業指導と云ふものはどういふものであるか、次に其

の概略を述べて見たいと思ふ。先づ少年勞働者の特質に就いて検討する必要がある。今其の特質について列記すれば、少年勞働者は(一)賃銀が低廉、(二)勞働條件が劣悪、(三)職業轉換が頻繁、(四)失業の機會多く、(五)職業に因る疾病負傷多く、(六)職業に就き一般的訓練を受くる機會を失する傾向が多いことである。是等の弊害の中(一)(二)(五)の弊害を匡救するには勞働保護の任に當る他の官廳に委す可きであるが、(三)職業轉換の頻繁なること、(四)失業の機會多きこと、(六)職業的一般的訓練を受くる機會を失すること多きこと、此の三つの弊害を除去するには、如何なる方法を採るべきか？ 是れは少年が最初就職する際に、其の少年の個性に應じ適當なる職業に就かせることが第一で、就職前後に適當な職業教育とか、職業訓練を施すとかの方法に俟たねばならぬと思ふのである。即ち職業指導の最善なる方法は、少年の個性を識別し、これに適應したる職業を與へることに歸着するので、職業指導といふことは此の目的を達する爲めに就職前と就職後に於て行ふ學校内及就職中に於ける各種の活動である。其れで此の活動について分けて見ますと、次の如く分類さるゝと思ふ。

(一)就學中の職業指導 (二)就職の際に於ける職業指導 (三)就職後に於ける職業指導

三 職業指導

(一)就學中の職業指導

就學中の職業指導に就て主なるものを擧げると、(一)産業に關する智識を注入する事、(二)實業課目を課する事、(三)工場見學等であるが、此の點は各國に於ても重要視されてゐる點でありまして、兒童は受持教師と相談の上最も適當な實業課目を選定して研究せしめられて居る。例へば米國紐育市の小學校に於ては實業課目として、男子部には大工、電気、電信、パン製造、機械、鉛管、活版、指物細工、看板書、用器畫、自在畫、速記術、簿記、印刷、花卉の栽培、温室の栽培、養鶏等の實業課目があり、生徒は各自撰擇して實習することになつて居り、又補習學校では職業教育或は公民教育を施して居る。例へば紐育州では米國史、市民の權利義務、經濟史、經濟學、雇傭法規、其の他の少年の職業上の智識を増進せしむる學課目を教授し

て居ります。其の他彼等を指導する爲めにパンフレットを發行して居るところもあります。例へば米國「ロチエスター」及び「アルバーニー」に於ては少年諮問委員會が設立され、學校と努力して職業教育宣傳の爲め地方的職業に關するパンフレットを發行して居ります。我が國に於いても大阪市に於ては少年職業に關して有益なるパンフレットを發行してゐます、又米國に於ては時としては紹介所の職員が學校に行つて卒業兒童と一週に一度時間を定めて學校で面會し、職業選擇に關する相談を受けて居る所もある。又或る所では學校に職業指導係があり、職業紹介所と聯絡して種々な職業に關する報告を得て、求職兒童の職業選擇や職業紹介もやつて居る所もあります。然し此の場合紹介した時は其の顛末を紹介所に報告することになつて居る。又或る所では學校職員や、紹介所員や、其の他人達が職業指導に就いて互に協力して努力して居る所がある。

(二)就職の際に於ける職業指導

就職の際に於ける職業指導は極めて重要であり且つ至難である。此れは兒童の方より見ると職業選擇の問題である。尙此れに引き續いて職業紹介と云ふ事が必要になる。此の職業選擇と云ふ事は兒童個性を發見し、適當なる職業に紹介する事であるが、此の場合は「メンタルテスト」身體検査教師の見込職業を參考として適當な職業を決定するのである。此點に就いては特に學校職員と職業紹介との協力が最も必要である。惟ふに少年の職業選擇並に紹介の場合に學校と職業紹介所とは其の實行上、各自利害得失を有する。即ち學校は第一少年の勤怠操行、學課の優劣、健康状態、家庭の状況、メンタルテスト、教師の見込職業等の記録を有して居る。然し職業紹介所の方には如此記録は無い。即ち職業選擇に際し學校側が非常に有利な地位に立つて居る。

然し職業紹介所の方に於ける優越な點は、産業上の智識や、勞働需給の状況とか勞働の性質について、廣く確實な智識を有して居る事であり、又我が國現在の職業紹介組織の如く、就職口を探す場合職業紹介所に申込みば如何なる山間僻地に居ても全國津々浦々に亘つて紹介される様に全國的聯絡統一がついて居ります事であり、其れ故少年の職業紹介は容易に

合理的統一的に行はれ得るのであります。此の點は紹介所の優越な點で學校側の及ばぬ點であります。要するに少年職業選擇は學校側で、職業紹介は職業紹介所で合理的に實行し得らるゝから、兩者が相協力せば得失相補ひ、初めて職業指導の完全を期し得ると思ふ。

同より職業選擇と紹介とは不可分離の關係にあるものですから、少年職業指導上、學校と職業紹介所とは密接に相提携する事が本質的に必要なものである。此の意味に於て前述の少年職業紹介に關する通牒は極めて有意義のものであります。外國に於ても兩者は協力して居ります。英國に於ては職業紹介所に少年部が設置されており、少年職業諮問委員の助力に依り此の事業を實行して居る。此の委員の任命は勞働省と文部省との合議の下に、地方學務局に委ねられて居ります。米國に於ては又(一)學校組織の一部として職業局なる機關があり、此の事業を行ふて居るところと、(二)學校と職業紹介所とが協力して兩方で協議の上實行して居るところと、(三)職業紹介所が學校當事者の助力を得てやつて居るところとの三種がある。

(三)就職後に於ける職業指導

少年は就職後と雖も一定の年齢に達する迄指導し保護する必要があります。即ち(一)彼等が轉職したり失職したりする場合には相談相手となり、(二)雇傭主に就き就職状況を調査したり、(三)又は彼等を補習學校に入學せしめたりする必要があります。此の事は彼等を職業に安定せしむる爲に必要な事であり、少年が就職する場合、其の職業が果して適當なるや否や、實際就職して見ぬと判らぬ。又雇傭主にも善良なものも悪いものもあるから、此點も注意する必要があります。それで英國では地方少年職業委員會(教育家、社會事業家、勞働代表より成立)や其の下にある保護員(aftercare Committee)が彼等を保護監督して居る。米國では職業紹介所に兒童を出頭せしめて種々就職状況を聴取する。又ピッツバーグ等では職業紹介委員があり、職業轉換の際は助力を與へて居る。又英國では學生に依頼したり、篤志家に依頼して少年の就職状況を調査してゐるところもある。

次に注意すべきは就職少年に對して補習教育を施すことである。米國の或州にては少年が就職した場合必ず補習學校に出席することを強制して居る。そして少年が出席せぬ場合其少年は處罰され、又雇傭主も處罰される、又少年が補習學校に出席しないといふことが學校から通知があつた場合には其雇傭主は少年を解雇する義務がある。此の義務に反した場合も處罰されるのである。又或州では學校又は職業局又は職業紹介所は少年が就職する場合雇傭免狀を發行して居る所もある。雇傭主は少年が就業する間是の免狀を保管する義務がある。若し補習學校に出席を怠つた場合には此の免狀は取消される。如斯米國に於ては學校職業紹介所は單獨に又は他の援助の下に兒童の就職を取扱つて居る。英國に於ては種々卒業後の職業指導が試みられて居る。一九一八年の教育條令に依ると「少年は凡て其地方教育當局の指令する期間補習學校に通學し毎年三百二十時間の授業を受くべし」と規定してある。何等理由なくして此の規定に反するものは五志以下の罰金に處せられ、再犯以上は一ポンド以下の罰金に處せられることになつて居る。地方の少年職業諮問委員會は小學校と協力して少年の就職後の輔導に従事して居る。最近勞働大臣は「失業少年教育所」について發表してゐる。之れは少年が學校を卒業して何等確實な職業に就いて居らない結果、怠惰に陥入る處がある故之れを防止するを目的とする、殊に大戰後不況の爲め兒童が徒弟となつたものや、熟練勞働に入つたものは極めて少く、彼等に提供さるる殆んど總ての職業は、「行き詰り」職業であり、従つて少年は永久的就職の機會が多く獲得出来ないものである。其れ故此の教育所では此の弊を除き去し彼等の失業期間を有益に消費せしめる爲め教師及び諮問委員と接觸せしめ、やがては産業界に何等かの就職口を得させようとするのである。勞働大臣の發表に依ると「イングラント」及ウェールズに八十三箇所、スコットランドに四十三箇所あり、本年四月廿四日まで過去一週間の平均出席者は五千七百七十二人の、其の中三千五百三十五人は少年で、二千二百三十七人は少女である。又本年三月末日まで過去一ヶ年間の出席者は五萬八千九百〇六人である。次に其の教授科目を見るに少年は體操、算術、作文、木工、金工、製圖で、少女は此の木工、金細工の代りに家政科目が課せられる。その他衛生、育兒等も課せられる。又是等の少年少女には課外教授として、地方史や

一般課目を課し、又産業界に入るもの爲め「タイプライター」簿記を課して居る。

四 少年職業指導の機關

以上大體少年職業指導の徑路に就いて述べたのであるが、尙各國に於ても職業指導の必要上種々なる施設を試みて居るのである。惟ふに指導の地位に居るものは(一)學校、(二)職業紹介所、(三)職業相談所、(四)少年職業委員會等がある。學校並に職業紹介所の活動に就いては既に述べた通りであるが、職業相談所、少年職業委員會に就いては次に簡単に述べる。英國に於ては現在四百の職業紹介所と千二百の支部とがある。其の四百の紹介所の其の主なる支部には少年部が在り、其處には法律の規定に依る少年職業諮問委員會 (Juvenile Advisory Committee) が設けられ、此の委員は上述の職業指導を實行して居る。是等の機關は小學校職員と職業紹介所員、社會事業家、其の他兒童の福祉に興味を有する人達より成り立つて居り無報酬で勤務して居る。我が國に於いても今回の通牒の趣旨に基き少年職業紹介に關する委員會なるものを設ける事になつて居る。

五 學校の新使命

以上は極めて簡単に職業指導に就いて述べたのであるが、諸外國では此の少年職業指導につき等しく其の社會的重要さを認識して居るのである。而して其の方法としては多々あれども今日に於ては學校と職業紹介所とが相提携して行ふ事が本質的に必要とされてある、否學校の方から見ると斯る事業は學校の「社會的使命」となつて來たのである。佛國の F. Paissor は學校と職業訓練とに付き次の様なことを言つてゐる。

「學校は學校の爲めに作られたのではない。人生の爲に作られたのである。其れは未來の社會に人間を準備するものである。然るに彼等が僅か十三歳に達し人生の戰場に何等の武裝をせずして乗出した際、彼等可弱き教兒を直ちに其の儘放任する事は慘酷なる徒勞 (Accumockery) である、又實に馬鹿——し浪費 (The most foolish waste) である。更に學校兒童を斯くの如

く放任して置き尙少年徒弟に對して何等の施す所なきは何たる狂氣に類した事ではあるまいか？ 此の事實から直ちに想起せざるを得ない觀念は學校の社會的機能は更に尙擴大しなければならぬ事と學校が兒童に對し爲さねばならぬ幾多の新しい奉仕の存在する事である。此中第一のものは教室から工場に移動する彼等を監督する事であると學校より社會へ彼等少年が産業界に入る場合適當な指導を與へ、永久的職業に就かしむる事は學校の社會的使命ではあるまいか？

失業問題の根本解決案として今回の少年職業紹介に關する學校と職業紹介所との協力は、我が國の將來の産業界の爲め偉大なる貢献を爲し得るものであることを固く信じて疑はぬのである。(完)

少年職業指導の規準

谷 口 政 秀

近代の社會をみるに凡ゆる點に進歩と改良とを施されてゐる。思想の變化と諸科學の發達とは單なる理論のみの文化を齎らしたのではなくして、宗教に、藝術に、道德に、その他ありと凡ゆる方面に影響を與へたのであつた。その餘波……ほんの餘波が遅ればせ乍ら職業紹介の方面にも波及したのであつた。

今日の職業と各個人との状態を見るに、小學校を卒業をしてからの兒童は粗野に何等の準備なく、決心なく置かれてゐるといふよりは捨て去りにされてゐる。

その荒野の中で行はれる職業紹介は、時代の進歩と逆行して權力と傳統の力と物質的社會的優越の力とに徒に蹂躪されて、何等の背景なきものは蛇を捕らず蜂も亦得られず、ある可き能力を充分發揮することも出來ずで一生涯を不生産的に終るの止むなきに到るのである。天與の才能を得て用ひざるは天を穢がすものであり、社會を毒するの結果を得る。

これは何等係類なきものゝ今日の有様である、然るに地位あり、名譽あり、財産あり、學識あるの徒に於ては如何といふに、これも専門的教育を受けた時は前述の兒童と同様野に捨てられたまゝになつてゐる。そこに職業上の監督もなければ指導もない。これを或る學者は野獸の状態であると云つてゐる。野獸が成長し生活を營む自然の状態に非常によく似てゐるのである。然るに最近思想の發達——デモクラシーの觀念が普及して以來特にこの方面が社會の耳目を引き、平等に實社會に發見させやうとする熱情が種々な形式をとつて現はれて來たのである。

社會的にみれば制度の高低貴賤の別なく、平等な條件で平等なる發展進歩の道を辿らせ、生活をより幸福に、より創造的に

より自由にさせやうとするのがその一部の現はれとみてよい。斯くて貧困と失業を豫防し得るのではないか。

科學的には醫學的と心理學的の進歩の影響を蒙つて——殊に心理學的の惠を多大に受けて、科學的職業を紹介しやうとし、迷信的或は直感的な在來の職業紹介法を一蹴に葬らんとする現狀である。ことに少年の職業に關してはこの感が強く、文部省及び内務省の協定令達により、今や全國的にこの方法とこの思想とが瀰漫せんとする有様である。即ち個人々人を科學的に處理するといふことは、デモクラシーの意味を徹底させることであつて、個性に——即ち各人の眞價に相等する酬を受けることは眞の平等であるのである。

教育的意味に於てこの度の職業指導は職業紹介ではない、紹介は就職の機會を多からしむる點に於て意義のあるものであるが、職業指導は職業の單なる紹介ではない。勿論紹介も其の事業の一つに數へらる可きではあるが、紹介の後に於ける職業教育は今日までの紹介では考へに入れてはなく捨てられてあつたのであるが、職業指導の主意として職業教育それも學校に於ける模形的教育ではなくして綜合的理論的教育は夜間學校なり、特種職業講習會なりで授け、實習と情況とは模擬的手段に依らず、華客も販賣形式も製作も實際の場合に自ら當つて習得させやうとするのが職業指導の目的で、矢張りデモクラシーの思想に依つたものに他ならないのである。

以上の三の考へは單にデモクラチツクな影響であるばかりではなく、これが職業指導の緊要な目的を形成してゐる。職業指導係が特に注意しなければならないことは次の諸事項である。

職業の種類を出来るだけ澤山知らせること——今日一般の兒童が、その職業を希望するに際して、希望職業が一方に偏すること、兒童がひどい低能兒でない限りは給仕・書生・獨學と云ふ條件を具備しない希望者はないと云つてよい位である。これは時代の思想——社會的虛榮とも云ふ可き一種の職業の性癖でもつて職業を選定した結果であると共に職業の種類を知らなかつたといふ極めて簡單な事實にも歸因するのである。兒童に職業の種類を出来るだけ澤山知らせることは職業選擇の基礎とな

るものであつて、それは實際につき或は講義や書籍によりその見聞を廣くし、兒童自らの興味のある點を自ら發見せしめなければならぬのである。

故に職業の種類を兒童に教ふる場合には職業名は勿論のこと、内容を大略識らせる必要がある。それは職業道德、職業の慣習、必要能力、雇傭制度、給金及び將來の見込等について教へなければならぬのである。

轉職の憂なからしむること——職業を轉ずるといふことは失業と貧困の元であると私は云ひたい。社會からの落伍と犯罪とは轉職より發足する。それで轉職は充分注意する可きであつて、職業を選擇する最初に充分この點を吟味しておかねばならぬのである。

轉職する理由を調査してみると、將來の見込、一時の失敗、好まないから長男でないからといふのがその主なものであつて、その大低は農業等の家庭の職業に携つてゐた者が多く、その職業に何等かの事情で自分の將來を託することが出来ないといふ氣がついて上京する青年は二年乃至六七年間は無駄な時間を費し、上京した時には既に年齢を食つて小僧ともつかず、給仕書生には勿論不適當であり、學習能力も非常に劣つてゐる者が多い。これ等の青年が一週間職業紹介所の門をくゞる間に不良少年に身を落して行く最初から最後までちつと見て居つたことがあつた。青年は自分では如何とも出来ない力でぐんぐん墮落の淵に落ちて行くのであつた。

故に轉職しないやうにする爲には職業を選擇する際に將來の見込、自分の好否と興味、自分の能力、家庭の資力、社會の情況等を十分吟味調査の後、職業を決定し轉職を豫防しておかねばならないのである。

將來のある職業を選擇すること——この頃兒童の一般傾向として、職に就けば明日と云はず其の日から金になる職業とその雇主を求め、處がすぐ賃金を得られる職業、賃銀を澤山呉れる職業は腕に職をつけてもくれなければ、取引法を教へても、出来ないで、只人の力を金で葬らうとするものであつて、貧困と犯罪者はこの人達に多い。

給仕、書生、小使、労働者等は先の見込のない仕事であつて、餘程注意して就かなければならない職業である。

將來見込のある職業と云ふのは家庭を幸福ならしむるだけの資源を得ることの出来る職業でなければならぬ。自分の興味や個性に適したものでなくてはならぬ。健康と経済とを保證し、安定のある職業でなければならぬ。

健康を害さない職業——職によつて家庭の平和を害し、或は平和を損じないまでも、家庭に悲哀を齎らす職業がある。塵埃の多い處では呼吸器病を發する機會を多からしめ、燐寸工場では骨に、菓子工場及酸使用の工場では歯牙に損傷をきたす。これ等のことも充分考慮しなければならぬ諸點である。その他精神上に疾患のある者には高熱、高所、または危険の多い地域で仕事をすることは避けなければならない。

家庭の許す職業でなければならない——家庭の多くは兒童の將來について考へ及んで、兒童の職業を兒童本位に決定しやうとしてゐる。それで本人も父兄の望む職業と一致したものでなければならぬ。長男には轉職を許さぬ家庭があり、次男には同一職業に就かせられない事情のある家庭があるからである。

更に或る職業については相等の資金及び財産を必要とするが、兒童の理想とする職業には應々家庭の經濟能力を考へない少年の誇大辭が産んだ職業がある。斯る職業は何時かは破綻を來さなければならぬもので、將來充分實施し得る家庭能力を考へなければならぬ。家庭の資力を考へに入れない希望職業はそれを達成するのに非常な困難があつて、然も實績のそれに伴はないものである。

社會及び人類の許す職業であること——個人としてどれ程適當な職業であるとしても、但しそれが家庭で望む職業であつても、それが社會の進化に反し、人類の存続を害すやうな職業である時にはそれは適當な職業ではない。寧ろ斯る職業は反社會的なものであつて、正當な職業とは認められないものである。

國家の許す職業であること——社會及び國家が個々人の職業選擇に關係するのは、實に當を得たことでないとは考へられる

かもしれないが吾人が國家社會の内に生命を維持し、其恩恵を蒙る以上は是非考へなければならぬ職業選擇の條件である。扱て社會及び人類の目的は國家の精神と一致してゐる場合が多い。處が時には人類存続とその發展に利益することであつても、一度國家の上からみる時には國家の精神に添はないか、國家の團結を弱める場合がある。職業についても同様のことを認め得る。即ち社會が許すしても國家が許すせない職業がある。斯る職業も選擇し得ないもので選擇の場合はこれにも考へ及ばなければならぬ。

以上の制限内で吾人は職業を選択するのであつて、職業はパンを得る手段であつてはならない。その職業が神聖であるにしろないにしろ、自分の一生涯しやうとする職業に強い執着を感じるものでなければならぬ。強い執着を感じるものは興味のある職業である必要がある。然らばその興味は何處から起るかといふに、研究心のある者は如何なる處からも興味を探し求めることが出来る。それに反して研究心に缺けてゐる者は最初興味があつたものゝ内からもそれを失ふ場合が多いのである。それで將來の成功の爲には研究心を養ふのが生活の上に最も必要である。

然しその研究心は如何なる方法で養ふ可きかといふに今日の處では適當な方法がない。でもその方法に缺けてゐるからと云つて捨てゝも置けない。色々の學者の經驗する處では研究心を養ふのは學校に入れることが最も緊要であると云はれてゐる。學校と研究心とは個別なものかもしれない。然し學校を捨てた職工は受けた教育と研究心とを小學校卒業後二三年の間に失ふとさへ云はれてゐる。これによりこれをみれば、教育は研究心を失はせぬ適當な方策であるやうである。故に小學校を卒業し上級學校に進まない者には是非夜間補習學校に進めなければならぬ。英米では、在學中に即ち卒業前に既に補習學校に入學するか否かを訊して、入學者人名簿を作り適當な補習學校に送つてゐる位である。以上は大體職業選擇に必要な諸條件である。これ等諸條件に依つても知れるやうに職業指導とは教育の延長であり、一種の校外教育であつて、教育者の一日も忘れてはならないものであることを諸君を一般に教育者とみて希望する次第である。

職業指導論 (學校經營と能率)
増進問題の本論

水野常吉

序

余は米國遊學中ジョンストン博士の比較教育學のコースを採つた頃、獨・佛・英・米大都市中學校生徒の勉學と遊戯と睡眠との時間を比較統計した時、ベルリンの學生が最も多く勉學し、パリーの學生之に次ぎ、ロンドン學生、ニューヨークの學生の順序に勉學し居た事を記憶して居る。歸來東京市に於ける中學生の勉學狀態を視て統計に表はす機會を持たないが、如上の比較表中東京學生は恐らくは世界第一に勉學して居る事と信じて居る。世界中日本學生程負擔の多い學生はあるまい。之は國語問題が根源をなすもので、又制度の罪、教育法の罪もあると思ふ。其の結果小學卒業後四年課程のハイスクール卒業者も、優に大統領秘書役たり得る實用的の米國教育制度を視察し來れる事が日本の有力なる實業家等をして日本の教育も根本的に改善せねばならぬとの叫を發するに至らしめた一原因であらう。吾人直接教育の任に當れる者は日本の教育者に對する實業家の要求に就いて十分傾聴せねばならぬ事と思ふ。然し教育界を現状に導いた一面の責任は又日本實業家にあると思ふ。日本の學生は決して皆哲學者ではない。事實を輕んじ、冥想に耽る事のみを喜ぶ者でもない。卒業後は相當の地位を得、相當の生活の資を得ん事を希望して居る。昨今は却てかゝる問題が卒業近くの全生徒の腦裡に彷徨して居る。然るにいざ實業界にでも入らんと希望すると卒業成績は何番か、何の成績は何の邊か、何校の卒業生か、學士號があるから實力はないかも知れぬが肩書き無き者の上役に据へると有つては、實際的の方面は如何あらうと、社會的教養は何うあらうと一點でも多く點數を取る方法を講ずるが、結局の得であると考ふるのは當然の事である。適才であるならば實力にあらば學士號の有無等は問題にならぬ様でな

ければ眞の教育改善は望めないと思ふのである。それで吾々教育者の立場から先づ第一に實業家の免狀崇拜熱から改善せねばならぬと迄考へるのである。然し世はコーポレーションの時代に進んで居るのだから、茲に實業家も教育者も共存共榮の理法を玩味して共に國民活動能率増進の爲に協力せねばならぬと思ふ。實業補習教育制度の革新の如きも單に制度を制度として組織したのでは眞に補習教育を徹底せしむる所以でない。根本精神は地方實業の要求に適應せるもので、而も各個人の適才を適所に發展せしめんとする職業指導の根本精神から案配したる施設法でなければならぬのである。

一 職業導指とは何ぞ

我が國に於ても職業指導といふ聲は各方面から聞かれる様になつた事を喜ぶのであるが、種々の意味に用ひられて居る。或は各種既定職業の指導を意味し、或は將來の日本の職業にはかゝる職業起らざるべからずと高調し、或は各種職業従事員の精神的方面の指導を意味し、又は職業指導と職業教育とを同一視し、時に或は職業指導とは紹介の事なりとし、又は機械的發見によりて、職業の割り當ての事を意味する如くに解釋し居る者もある。何れも我が國に必要な諸方面であらうが、吾人の高唱せんとする職業指導は歐米諸國に於て競争的に國民の活動能率を増進せんとて企劃研究日亦足らざる有様を呈して居る、Vocational Guidance の運動、施設である。

然らば其の職業指導とは何をいふかといふに、人生活動の三分の二は何等かの職業的生活をなすものであるから、其の人生活動の能率を増進せしめんがため、在學當時又は卒業時に際し青少年を指導して適材を適所に向はしめ、各種職業の能率を高くすると同時に各個人の活動能率を高く更に各個人の活動能率を益々發展せしめんとする施設をいふのである。詳言すれば青少年が最も有利に遂行し得る職業に向はしめんが爲に、青少年を最も經濟的に而も有効に準備せしむる公私立の組織的努力を言ふものである。

我が國の小學校令では尋常高等兩程度の小學校を通じ教育の本旨は

「兒童身體の發育に留意し道徳教育及び國民教育の基礎並其の生活に必須なる普通の智識技能を授くるを以て本旨とす」と定めてあるが、明治二十三年或は三十三年頃とは時の要求が著しく變轉して來て居る。單に生活に必須なる普通の智識技能を授くる丈では満足出來なくなつた。又師範學校生徒教養の要旨の如きも明治四十年頃とは隔世の感を與ふる程の變化を來して居る今日であるから、三十三年頃の小學校令及小學校令施行規則の趣旨に副はん事のみを旨として満足は出來なくなつた。

現代の教育は兒童生徒をして彼等の環境を理解せしめ、以て彼等の個人、及び協同的活動の能率を増進せしめ、且つ完全なる生活を達成せしむるに必要な諸要件を能率高く準備せしむべき意義を有するに至つた今日であるから、學校も教師も組織的指導を與ふるに躊躇する事を許さざる時勢に遭遇したのである。

又現代の職業的生活は前述の如く人生活動時間の三分の二を占めて居て、其の調和せる解決は人生活動諸方面の圓滿なる解決に緊切なる諸問題を提供する今日なのである。彼の倫理、政治、國際間又は産業間に於ける世界的軋轢の大部分は、此の職業の義務、又は責任に關する智識の缺陷、及び職業生活に於ける個人的又は社會的活動を調節する事の缺陷に基因して居るのである。

隨つて職業指導は何れの國に於ても遂行せねばならぬ生きた問題である。誰あつてか自己の採らんとする職業選定の必要な者があらう。特に現代生活は他人との協同の要、最も切なるものあるに於ておやである。翻つて我が國の教育事情を通覽すると隨分矛盾が多い。各縣で地方税をば各戸別に徴收して居るが、此の金で出來た中學校に入學し得るものは小數資産家の子弟、又は入學試験といふ投機的選擇法に僥倖を得たもののみである。不幸なる多數の好學心に燃ゆる青少年はやむなく補習學校にでも入つて見ると教師の片手間で義務的に厭や／＼ながら責を塞ぐ程度の教育で、而も多くは小學校で學習した所の復習位に過ぎない、實驗の設備があるではなし一枚の掛圖すら備へて無い所が多く、校舍も小學校の片隅を一時借用と來て居ては興味も熱心も起り得ない。一方の中學生は大道を濶歩し居る時に多數の落伍者は肩身も狭く、一隅に蟄居し居る状態である。

機會均等が世相の基調であるとなれば、補習教育機關の改善は焦眉喫緊事なりとの提唱に對して共鳴せざる者は少いであらう。何を節約しても此の補習學校に數名の専任教師を雇備せしむる位の經費を惜しんではならぬと思ふ。

かくて中學に入つた者も中學校令では男子に須要なる高等普通教育を爲すを以て目的とすと規定されて居るに拘らず、學校授業の實際は多數の者を犠牲として小數の高等學校入學者養成に全力を注いで居る。學校を卒業しても卒業證書は學校と生徒との離縁狀になつて居る。只少數の僥倖者が同窓會席上自慢話をする位が關の山。記録も本年度は幾名一高に入學せりとの自慢表が業々しく校長室に掲げられて居る位のもの、教師の仕事は在學生の準備教育の爲めに忙殺せられ、卒業生が何に向はうと拙手傍觀偶々失敗でもすれば在學中から變な傾向があつたから位で御茶を濁し居る向きも少くない。然るに當局者の努力により幾分緩和されたとはいへ、其の卒業生を入學せしめ得る學校數は至つて少數で、自己の希望を満し得る者は極々の幸運兒である。茲に於てか所謂高等遊民は増加し不良青少年は跋扈する。學校に對し、父兄、教師に對して不信任、厭世、誘惑、遂に多くの不良民を默認しつゝ養成し居るとの非難を受くるに至つて居る。

然るに適當なる職業指導組織が施設せられ、學校にも此の種の研究組織成立するに於ては高等の學校に入るに適當する者をば一層之を鼓舞して、其の専門とする方面の指針を與へ、個人又は家庭の事情の許さざる者に對しては、其の選擇せんとする職業の經濟的價值を知らしむる丈でなく、人生の他の種々なる義務を遂行せしむる譯になる。即ち如何なる職業も健全なる道徳なくしては眞の成功は覺束ない。其の上に適當なる職業指導は社會の一員といふ強い觀念を養成する事になる。青少年は將來自己が従事せんとする職業の經濟的價值を示さるゝのみならず、又此等の研究と共に青少年は自己の職業と國家との關係、正當なる課稅法律に對する機會均等、職業に關する信頼するに足る報告材料、適當なる體育設備等が如何に相關連するかを指示せられ、此等の事柄では徹底的に而も興味を以て討究する地位に置かれるので、職業指導は又同時に道徳指導となるのである。

斯くて此の組織に於ては數年間個人發展の状態を研究調査し、將來の順序書迄製作して堅忍なる指導、系統立てる指導を與へんとするのである。されど決して個人發展の機会を制限はせぬ。卒業當時に各人の希望する慾望に就いて調査すると約一割位は其の職業に不適當なるものがあるのは多くの調査者の報告する所であるが、多くの經驗によれば斯かる誤れる選擇をなしたる者は遂に半途にして道を變へ、又は或る程度迄は續行しても遂に目的に到達しないのが常である。されば指導者はかゝる不合理なる渴仰を合理的のものとなし、各種の事情を調査して選定し得べき數種の職業に就いて納得せしむるもので、決して各人の機会を制限はしないのである。又職業指導は青少年を部數分けとして之に職業を配割するのではない。寧ろ教師は被教育者に環境を造り與へ、選擇の系統を示し、以て被教育者の活動能率を十分に發揮する様指導する方法を提供するものである。

二 職業指導の目的

如上職業指導の意義は自ら其の目的を説述して居るが、更に分解して其の目的とする所を指摘して見れば次の如きものである。

- 一、學校をして兒童生徒並に社會の要求に適合せしめ、且つ小中學並に補習學校が準備すべき義務なる兒童生徒各自が均等なる機會を獲得するに適せしむる様助力する事。
 - 二、各個人生涯の職業に關し其の選擇、準備、着手、及び將來向上せしむる様助力する事。
 - 三、職業界に蟠まる問題に關する智識及び普通職業に關する穩健なる性質を宣傳する事。
 - 四、既に在職せる者をして同業者併に全社會との相互關係を理會せしむる爲に努力する事。
 - 五、學校と各種商業、産業又は其の他の専門職業との間の一層改善され得たる協同を得しむる爲に努力する事。
 - 六、文化的研究と實際的研究とを調節する學科課程を各種學校制度中に編入せしむる様努力すること。
- 以上の六大項目は職業指導の目的であるが大項目であり且つ我が國に於ては比較的新しき試みであるから各項目に就いて詳説する。

する必要があると思ふ。

先づ其の第一の助力は職業指導機關が中心となつて學校の作業を補助せしめんとするものである。即ち教師は課業の準備、教授、訓練等に専心して居るから如何に有能の教師であつても注意を各種萬般の事象に注ぐ事は不可能である。故に職業指導機關が各時に必要なる各種職業的機會、各種要求事項、各種職業の分類を系統的に説述せるパンフレットを製作して各種學校に分配宣傳し、學校は教師を通し、又は職業指導圖書館を通じて兒童生徒に知らしむる便宜を計るのである。

第二の目的を果さんが爲には教育的査定、メンタルテストの一部、質問箋特に指導係と各生徒との會見によりて青少年天賦の能力を發見し、其の職業の準備をなさんが爲に各種學校への入學を指導監督し、又昇進轉職、補習教育、及び高等なる研究に對し、助言する等の事を含むものである。

第三の目的を宣傳するには第一目的の材料を運用し、調査し、研究して其の當時の問題となり居る各種職業に關する事相につき穩健なる批判を與へ、各人が其の場合にあらば如何なる行動を取るが正當なるかを知らしめ、職業指導により生きたる道徳指導をなす機會を作り、以て各種職業共物の能率を増進すると共に各個人の活動能率を増進せしむる資料となすのである。

第四の目的を果さんが爲には或る特定時間に雇主及び雇はれし者と會見する時間を定めおき、雇ひ主の苦情及び實況を聴取し、又雇はれし者の不平又は態度を遠慮なく言はしめて、双方の誤解を除き、以て雇主の事業の能率を高むると共に雇はれし者の失業の憂き目を避けしむる様努力するのである。ホストン職業指導課に於ては毎月曜午後八時と九時を雇はれし者との面會時間とし、毎水曜の同時刻を雇主との面會時間として居る。各工場、會社は何れも多數の使用人を此の課を通じて雇つて居るので毎週此の時間に關係の係員を派出して兩方面の調和を計つて居る。日本の大都市にも早くかゝる機關が組織せられたならかの厭ふべきストライキ事件等を少なからしめる事が出来るであらう。

之と同時に此の課を通じて各種會社、工場、諸官衙に入りてなすべき作業の性質を理會する事が出来るると同時に使用する方

に於ても本人の適材、缺點、性格、希望等を理解して雇ひ入れるのであるから、個人的能率の發揮にも團體的能率の發揮を要する會社工場主の方にも眞に調和したる自由の境地を作る上に貢献することが大なのである。この點からのみ考へても有力なる實業家等は進んでかゝる機關の完成に應援する勞を吝んではならないのである。

第五の目的を果すが爲に各種實業補習學校と協力して、各種職業の主人は各自の事業の能率を高むる根本要素たる使用人の教育を高め、兩者相協同して國民一般の活動能率増進を圖るやうにするのである第六の目的を果さんが爲めには文教當局者を督勵して教科内容中職業指導の材料を編入せしむると共に之に關する講座又は教科目を大學高師又は師範學校に特設せしむる様努力すべきである。

職業指導の實際（小學卒業兒童希望職業調）

東京市中央職業紹介所

◎卒業期兒童の御家庭へ

子供の人となりに就て、一番よく知つて居るものは兩親始め家族の方々で、次に學校の受持先生であります。ところが本人が將來如何なる方に向ふのが最も安全にして得策かといふことに就ては、これまであまり世間では考へて居られないやうに思はれます。皆様御愛兒の前途に確固たる目標があるでせうか。

多くの兒童は一定の職業に達するために、數知れぬ無駄が多いやうに考へられます。現今不良少年の多き、職業に放浪する青少年の多き、仕事に倦怠せる青年の如き、轉校を常とする學生の多き、之皆小學校を卒業するのは同時に身の方針の定め時といふことを深刻に考へなかつた爲めと言はなければなりません。近頃小學校に於てもこの點に大分注意して種々なる方法をとらるゝやうになつたやうで非常に結構なことと思ひます。これからの世の中は唯學校を出たのみで幸福な生活が送れるものではありません。

各兒童には個性といつて十人十色、詳しく言へば兄弟でも天分の長所短所があるので。つまり其の兒童天分の智能や性質に就て、其の長所短所又其の體質を科學的合理的に診査してその適する方面に向はしむることが最も大切であります。殊に卒業期の兒童に就ては上の學校に進むにも、直接何等かの職業を求むるにも、甚だ肝要のことです。

當少年相談部は大正十一年八月開始以來、この仕事をやつて居りますが、其の必要で大切なことが益々知れまして、昨今

では毎月数百人の相談者があります。もしも御子供衆の将来に就て疑問を懐いて居らるゝ方々がありましたら、御遠慮なく當相談部を利用して頂きたいと思ひます。

◎無料少年相談部事業概要

診 査 及 相 談

學校選定ノ相談

一般教養相談

精神検査及鑑定

特種ナル性能診査

職業保健ノ相談

健康増進法及び運動法指導

職業病豫防法指導

身體検査及び疾病診断

東京市中央職業紹介所

性能診査少年相談部

がくかうのなまへ	区	學校	業		職
あなたのおくみ	年	組			おとうさんは
男 女	あなたのおなまへ				おかあさんは
うまれたとし					にいさんは
大正	年	月			ねいさんは
明		日			
すんでゐるところ	区	町			
現住所					

一 卒業してからすぐ何學校へはいりますか

〔答〕

もし其學校へはいれなかつたら何學校へはいりますか

〔答〕

もしどの學校へはいれなかつたらどうしますか

〔答〕

二 卒業してからすぐ學校へ行かない人はどうしますか

〔答〕

三 將來はどんな職業につきますか

〔答〕

そのわけは

〔答〕

だれが其の職業をきめましたか

〔答〕

四 どんな人になりたいか(理想)

〔答〕

どんなことを好んでやりたいか(希望)

〔答〕

大正十二年一月二十日

右の答は一つ一つ、ほんとうなことを、はつきり書きなさい。

大正十一年三月末日調査
尋常小學校卒業児童希望職業調査
〔大正十一年三月末日調査〕

希望職業種別	性別		男女計	百分比(男)	百分比(女)
	男	女			
一、中學程度入學	六、〇一四	五、四五一	一一、四六五	三九・〇〇	三七・〇〇
二、高等小學入學	三、三六九	三、二六八	六、六三七	二一・八五	二二・〇六
三、事務員	五三	五七八	六一一	三・四	三・九〇
四、職工	四二三	一一六	五三九	二・七四	七・九
五、店員	九七六	六四	一、〇四〇	六・三六	四・三
六、給仕	五一七	四四	五六一	三・四八	三・〇
七、配達	一三	一	一三	〇・八	〇・一
八、書生	九	一	一〇	〇・五	〇・一
九、徒	六九八	一八二	八八〇	四・五三	一・二三
一〇、女中		二九一	二九一		一・九六
一一、子守		二三	二三		一・五
一二、家事手	一、六一〇	二、九二八	三、五三七	一〇・四五	一九・七七
一三、其他	一、七三七	一、八六九	三、六〇六	一一・二〇	一二・六二
計	一五、四一九	一四、八一四	三〇、二三三	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇

【備考】右表ハ東京市内尋常小學校百六十七校ニ就キ調査シタルモノ
右表中「其他」ハ未決定者並ニ特殊ノ者ヲ含ム、俳優藝人藝妓等ハ特殊ノ例ナリ

職業指導の實際

大正十一年三月末日調査
高等小學校卒業児童希望職業調査
〔大正十一年三月末日調査〕

希望職業種別	性別		男女計	百分比(男)	百分比(女)
	男	女			
一、中學程度入學	六二〇	六七八	一二、九七八	二一・六三	二五・〇二
二、事務員	八五	一九〇	二七五	二・九六	七・〇一
三、職工	三九	一〇	四九	一・三九	〇・一
四、店員	六九六	一〇	七〇六	二四・二〇	三七
五、給仕	二二三	四	二二七	七・七七	一・五
六、書生	二		二	一・四	
七、配達	一七四		一七四	六・〇七	
八、徒					
九、女中		二六	二六		九六
一〇、子守		九一四	九一四		三三・七三
一一、家事手	七三二	七一四	一、四四六	二五・四二	二六・七五
一二、其他	二九	七一四	七四三	一〇・五三	二六・七五
計	二、八六七	二、七一〇	五、五七七	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇

【備考】右表ハ東京市内高等小學校十八校ニ就キ調査シタルモノ
右表中「其他」ハ未決定者並ニ特殊ノ者ヲ含ム

職業指導の實際

實際的職業指導法^{を述べ}普通教育と職業との關係^{に及ぶ}

鈴木松太郎

一 東京市少年相談部の事業

當相談部は發育期中にある青少年の個性を心理學と醫學との立場から、科學的に診査して各個人の身體と性能に適する職業の選定、及び各種の職業相談、教養相談に應じてそれぞれ指導して居る。尙少年紹介部と聯絡して適當なる職業を紹介したり、就職後の指導、職業保健の相談といふこともやつて居る。又特種性能調査や職業及び性能診査に必要な研究調査もやつて居る。然して近頃は諸官廳、工場、會社、商店等よりそれぞれ採用テスト並に診査を依頼されて相當の成績を擧げて居る。東京市内の小學校に於ても昨年來より職業指導に對する研究、施設乃至劣等兒の指導等に就て當相談部を利用さるゝ學校が大分出來て來た。是等の學校に對しては専門の囑託が協力一致して指導して居る、又或る二三の學校から本年三月に一年生の入學前の身體検査と同時に學級編成の爲めの智能検査を依頼されて微力ながら相談部が指導した。斯くの如く教育の能率を増進する爲めに當相談部を利用さるゝ様になりつゝあることは職業指導の上にも、教育の上にも、誠に意を強くする次第である。そして現在では團體的のテストは別にして、毎日平均して十四・五人位の個人の相談や診査を依頼に來る。猶先年獨逸へ註文した器械が先般到着したので適切に一層力強く相談に應じて指導することが出来るやうになつた。

二 實際的職業指導法

(1) 一般的職業指導法

今日正業の意味に於ける如何なる職業に就くにも、其の業務、職業に應じてそれ相當の一般智能の必要なることは異論のないことである。又直ちに職業に就かずして小學卒業後中等程度の學校を選ぶにしても、乃至それ以上の専門教育を望むにしても、又學校成績思はしからざる者の進むべき學校選定なり、職業への方向なりを診査する豫備として一般智能を知る必要がある。或は低能兒不良兒を矯正指導するにも其の他の一般の教養相談、精神異狀者の指導にしても、文筆を解せざる者にしても一般智能を診査して居る。而して一般智能といふものは勿論學校の成績と大體に於て相關々係があるが、異なるのは主として智識の働きと頭腦の働きである。然しながら一般智能は或る程度迄は進み、其の後は止まつてそれからは特殊能力が分化されて發達するものゝやうに思はれる。そして一般智能診査の結果は大抵其の人の特長方面と缺點方面と普通方面と現はれる、或は全部優良又は全部缺點に現はれる者もある。先づ優良の者、特徴ある者は後にして缺點ある者に對しては相談の種類に應じてそれぞれ異なるが、要するに一步進んで其の本質を確めるのである。其の本質とは何物か、今各種の相談毎に一々其の例を擧ぐる時間がないから唯一二の例に就て申述べる。假りに算術の成績劣等なる兒童に就て申せば、本人の理解力、推理力、判斷力、記憶力等をそれぞれテストを施して診査するのである。又本人の注意力の強弱、同集注力、同持續力等の診査、或は醫學的診査を加へて本人の五官機を檢診して見ると、必ず本人の如何なる方面に缺點あつて成績不良なるか大抵見出すことが出来る。従つて其の矯正なり、指導なりの大體の方法を見出すことが出来るのである。

次に如何なる方面の職業に就いて良いかと云ふ相談に對しては、前に述べた如く其の缺點にしる、長所にしる、更に深く突き込んで種々なる基礎的のテスト、作業、或は醫學的の診査を施して現在を標準とした査定をなし、猶其の職業に對して將來を見越したる經濟的考察家庭の事情、本人の趣味等も參酌して指導するのである。然し發育期中にある青少年であるから、目下の缺點必ずしも固定するとは言はれぬと同時に、今の特長又必ずしも益々進歩するとは斷言出来ない。要は缺點を努めて矯正させ、長所は益々發揮さすべきである。要するに斯る指導に際しては學校に於ては受持教員、家庭に於ては親も本人も兄

弟も共に極めて眞剣に考察すべき重大なる職業への首途である。理想を言へば本人自身が眞剣に職業の方面を合理的に自己發見的に見出す位に指導したいものである。従つて此の種の指導は今直ちに職に就く相談とすれば何々の方向は不適、又學校選定なれば此の種の學校といふ様に指導して居る。一體何人でも大抵長所、短所があるが、僅の長所を頼んで其の方向に漫然向はせることは甚だ皮想の考へであるばかりでなく、且つ往々危険を招くことがあるのである。それ故大抵の場合缺點の方向に向はせない様に指導を方針として居るのである。

(2) 特殊の性能に基く指導法の概要及實例

海外に於ても特別能力の検査といふ方面は非常に遅々として居る様である。我が日本に於ては何時も能を外國に取つて居るのであるから尙更困る次第だが、高峯醫學士、淡路文學士の兩囑託が熱心に研究された結果種々の方法を工夫し、一方獨逸より實驗診査用の機械を購入して極めて綿密に慎重に検査し指導して居る。今特殊能力の検査に就て二三の例を擧げて見やう。例へば音楽希望者に對して如何なる検査をするかといふと、音の高さの辨別、音の強さの辨別、音楽的記憶或は調律の辨別などを検査するのである。又ハーモニーとか、メロディの検査をしたり、それから音に對する我々の心像であるとか、手の運動足の運動の正確精密の度合、或は早さといふやうなことを検査して、それを標準に照らして指導するのである。又畫家希望者に對してはノースウエスタン大學のジョーンスといふ人の研究してゐる方法を參考工夫して指導して居る。

同氏の說によれば視覚化する能力が一番必要とされてゐる。即ち何でも目で視る風に見るといふ力が第一である。それから筋肉的反應の正確とか、空間關係の認識とか、色の辨別、陰影の認知、遠景視に對する辨別力といふやうな力が必要であるとされて、三つの方法を用ひて検査をして居る。第一の方法は幻燈の器械を用ひて一定の時間品物を露出するといふ方法である如何なるものを見せるかといふと第一に諷刺畫を五分間見せる、さうして直ぐ撤回して考査するのである。次に第二の検査をする。それは視覚に於ける記憶検査である。それは露出機を使用して十枚の板に各々一枚に一つ宛、日常ありふれた品物を畫

いておいて、それを五分間位連続的に見せた後、如何なるものを見たかを尋ねるのである。第三の検査は遠景視の辨別力を検査するのである。之も幻燈機を使用する。即ち硝子板に二つ列べた畫を見せるのである。片方は完全なる畫を見せる。その次に一寸見ては氣付かぬ程度の間達つた遠景視の畫を見せる、而して二枚を一度に見せるのである、さうしてそれが完全であるか不完全であるかといふ辨別を検査するのである。この三つを検査した結果をみると、視的記憶と畫をかく能力との相關係數は八十三といふので、兩者の間には可なり大きい關係を示して居る。それから遠景視の辨別力と繪を書く能力とは少し下つて六十六、次に視覚記憶と遠景視辨別との相關係數は八十五、之も又非常に高い關係をもつて居る。尤も此の検査をして査定を與へるには、畫家として必要の能力とか、修養とかいふことを組織的に研究調査し、或は相當なる専門家に就て質問する等充分なる準備の必要がある。

其の他少年を採用した後に、其の少年をどう指導して其の目的に適する様にされるか等、會社、銀行、工場等の實際の状態に就て實地に調査したる準備がなければならぬ。斯の如く其の成功に必要な要綱なり、子弟教養の方法なり、或は其の他の方法で能力を識別する材料を集めると同時に、又一方には指導に必要な各種の職業の分析調査、乃至は各種の職業に對する共通の能力、或は特殊の能力といふ者を研究調査して居るのである。以上述べた様に頗る多種多様な方面の研究と調査したる準備がなくては如何に精巧なる器械を使用しても其の價値は甚だ少ないのである。而して一般智能を知るにも職業指導をなすにも尙極めて重大なる方面の診査を閑却されて居る。其れは醫學的診査である。勿論之は單なる醫師の診察では不充分である。今日メンタルテストなり性能診査なりが種々非難點のあるのは、主として醫學的診査を加へざるためだと思ふ。殊に特殊の性能に基く職業指導に於ては尤も重大なる任務を持つものである。

外國に於ても醫學的診査を無視して誤れる査定を與へたる者に對して更に醫學的診査なり、治療なりを加へて今迄全く低能兒扱ひされたる者が、普通若しくはそれ以上になつた例はなか／＼あるのである。であるから醫學的診査を加へて始めて完全

に近き指導が出来るのである。之等の實例に就ては可なり多數あるが、今は一二の實例を擧げることにする。

一人は麻布の相當なる工場主の子息にて本年二月頃相談に來た者である。最初は父親のみ參つて「本人は來る三月六年を卒業するのですが、成績は非常によく常に主席を占めて來ました。將來は工業家にしたいと考へますが、入學すべき中學校は一中、八中、武藏野高等學校の内、何れが尤もよろしきや御指導に預りたい」といふことであつた。そこで先づ本人の從來の健康に就て聞きましたら、體格はよい方ではないが別にたいした病氣はない、學校に於ける身體検査の概評は丙であるが、元來身體が小さい方であるから丙に評價されたのでせうといふ、極めて健康といふことに不注意な様子であつた。そこで私は本人をお連れしなければ親切な御指導は不可能だと申した、處が其の父親は誠に不滿意に成績は極めて優秀であるし、別に病氣もなし、本人を連れて來る必要はないといふ考へをそれとなく申したから、前に述べた理由で本人には特に醫學的診査の必要なることを懇切に話したら始めて諒解されて翌日早速連れて來ました。診察した結果は腺病質で營養不良、殊に寒い時に少し無理して寒胃にでも罹れば肋膜炎や肺炎を起し易い、且神經質な極めて弱い體質であつた。尙一般検査の方では少しく長時に亘る時は普通以上の疲労を現はす體質であつた。そこで醫師と相談の上今の處では學校を選ぶとすれば立川の府立第二中學校の如き閑靜にして刺激の少い、且つ空氣の清淨な、そして運動の充分出来る處で大いに健康を増進せしむるが尤も安全、又かくの如き方針に決すれば學科試験も身體検査も比較的容易で此の上無理な試験勉強をせずとも、必ず入學することも出來、又將來のためにも是非さういふ方針をとる様に勧めたら、大變動して歸へられたが、唯成績の優秀なるのを強く思つて居るため、思ひ切れず遂に、一中武藏野高等學校へ試験を受けられて兩方共學科試験は合格しても體格検査ではねられた。それで初めて眞に氣が付きました後れぬ中に手続きして第二中學に入學させた。その後父親から懇篤なる禮狀が來て居る。今一つは日本橋區内の某呉服店に七年も勤めて居る一店員の受相談者であるが、この店員は今日迄無事に勤めて來たが、或る大家の註文品に對して希望の色合模様の選擇の任に當り、先方の希望に對して餘りに相違せる選擇をして大失敗をした、そこで本人は大

いに不審に思ひ且つ不面目にも感じ、爾來色彩の選擇に就ては一層注意を拂つたが、如何にも眼に故障のあることを感じ直ちに或る専門家の診察を受けた處、正に色盲者であることが分つた。それで今更の如く非常に悲觀した結果相談に來て右の事情を述べ、他の適業に轉じたいからよろしく御指導を願ひたいといふ話であつた。そこで精密に視力を検査した處極めて強度の紅綠色盲であつた。そこで高峯醫學士とも相談の上次の如く指導した。即ち色盲でも木綿物其の他の紅綠色彩以外の呉服類なれば或る程度迄差支ないし、殊に七年もこの業に經驗を持つのであるからこの際無方針に轉業するのは却つて不利益であるから充分この點を考へて見る必要がある、といふて懇に論じて歸した。その後一ヶ月程立つて本人自身來て愈々今度は木綿物、稿物等を専門に販賣する方針と覺悟を決定した、御蔭で安心出來た。今度は一層努力奮闘する考へです、といふて喜んで歸つた。尙色盲者は職業として織物業の不適當な計りでなく、印刷、畫家、藥劑師、醫師、寫眞業、交通運輸業の従業者等、皆不適者である。若しなり得たとしても個人として社會として不利益或は危険である。斯の如く簡單の様であるが少年の職業への首途には餘程の注意と準備がなければ中途に於て大失敗を來し、惹いては本人は勿論家族も共に苦しむ様な場合が必ず起るから本人の體質其他一般的に醫學的診査の閑却出來ないことが多數あるのである。

三 性能検査、メンタルテストに對する批評

以上述べた様に職業指導や其他の相談に、所謂メンタルテストや醫學的診察の必要なることは大要御諒解の事と思ふ。然し何れの時代に於ても一つの問題否事實に對してすら賛否の議論あることはまぬかれぬ。之はやがて其れの進歩發達する所以であると思ふ。

性能診査にしろ、メンタルテストにしろ、一般世間に於て殊に教育界に於て種々に誤解せられ、或は過度に何等の根據なく信ずる者、又之と反對に何等の研究もせず反對を唱へる者もある。さうかと思ふと研究もせず反對もせず、全く無關心の人々もある。今日能率増進といふことは産業界に於て非常に研究されて盛に實施されつゝあるが、一體産業界に於ては仕事を基

礎にして能率増進を計り、メンタルテストや性能診査は人を基礎に置いて能率増進を計るのが目的である。然しながら産業上に於ても所詮は人を基調に置かずば眞の能率の擧らないことは言ふ迄もないと思ふ。何といふても現今米國は世界で一番能率増進の研究が盛んであるが、如何に英獨等が精巧なる器械を作つても之を使用する者は人間である、故に人間の素質を優良にし、所謂適材適所を原則に於て指導せねばならぬといふ見地から、能率増進メンタルテスト、職業指導といふことが研究されて英獨佛其他の國に相對向する様な國策を樹てたのであると思はれる。我が國に於ても近來小學校の學級編成、教育能率増進等に就て種々工夫せられつゝあるが、今少し研究されて常識的でなく、入學前に體格検査と共に智能検査を施して兒童の素質を検べ學級を編成して教育すれば、教育者も被教育者も勞少くして能率の増進を來たすは必然のことと思ふ。のみならず兒童にとり大なる幸福でもあり、且つ將來に對する職業指導上大なる責任であることを教育者に一考を煩はしたのである。中學校の入學試験なども聞くところによると入學の際、十番以内の成績で入學せしものがわづか一學期の終りに四、五十番になる者多數を占め、かへつて三、四十番位の成績の者が十番以内になつてゐる者も決して珍らしくないといふことである。これは入學試験制度の罪もあるが、兒童の素質を高むるための教育が不徹底の證據であると思ふ。斯の如き教育法試験制度は兒童にとつて實に迷惑であり、悲惨であり、はた慘酷であると呼ばたいのである。少くとも智能検査の成績に依つて入學せる兒童との成績の相關位は是非研究されたいと切に望む次第である。尙工場、會社、商店其他の方面でも人物採用には相當に應用してゐる様ですが、今後は益々研究して利用される様になる事と思ふ。東京市少年相談部に於ても一般智能にしる、個別的特殊テストにしる、皆相當多數の者に施してゐる。即ち尺度或は標準を作つてある。一般智能と教育測定との相關、或はテストと實際仕事との相關々係に就ても研究調査して居るのである。

之に對して教育者側は單に法令上よりのみ見て、普通教育の本旨論を唱へて反對する向もあるが、是等は何れも時代に順應せざる教育であると思ふ。故に今後は殊に東京市の如き大都市に於ては教育者側から指導委員會でも組織する位の運動を起

さなければならぬ時代であると思ふ。私が申すまでもなく、歐米に於ける此の種の事業の發達徑路は教育者側から叫ばれ運動されて發達して來たのである。要するに初等教育者側が主として之を研究し、利用し、運動して下さるのが大なる責任であり義務であると考へる。又その如何に依つて我が國に於ける此の種の事業の發達は實際に於て望まれないのであると思ふのである。

四 誤解され易き職業指導並其の任務及範圍

職業指導 (Vocational Guidance) と云ふ概念に就ては大分世間に誤解がある。就中混同し易い者は二つある。

一つは職業教育並に補習學校を職業指導の全部の様に見る事と、他は職業紹介事業と混同して考へることである。斯くの如く職業指導が職業教育や職業紹介事業と混同誤認され易いのは之に理由がある。夫れは職業指導事業が、他の二者との密接なる關係あつて、恰も鼎の三脚の如く一致協力しなければ其の使命の働きを發揮されないのである。今一つは歐米に於ける職業指導の事業が他の二者と同時に相提携して發達した事である。

即ち職業指導の運動が起つて具體化されたのは、米國では一九〇一年、獨逸と英國は一九〇八、九年頃で、其の非常なる目覺しい發達を見たのは凡そ一九一〇年から一九一三年頃にかけてである。就中一九一三年には歐米に於て少年の教育上小學校に於ても補習學校に於ても職業化し、一般的陶冶から轉じて實際的、職業的に進み、或は今迄八ヶ年の義務教育を男兒のみに強要せず女子にも及ぼし、補習學校迄も義務教育に入れる處などもあつて、一言に申せば普通教育の職業化した時代である。一方之と同時に職業紹介事業が發達し、職業指導事業も並び起つて來て今迄の制度さへ立て直した状態になつたのである。斯くの如く職業指導事業と補習教育、職業紹介事業が同時に起つたので、之等事業の間に明瞭なる區別がつきにくい状態になつたのであると思ふ。勿論目的から言へば何れも青少年の職業の方途を安全ならしむる點に於ては共通である。然しながら異なる點は着眼點と經營の方法とにある。今次に三者の區別を概説すると、職業教育に於て扱ふ青少年は已に一定の職業方針

が定つて居るもので、職業指導で扱ふものよりも範圍が狭い、又職業教育では各少年の定めた特定職業に關して其の學理及び實際を教授するのであるが、職業指導では直接に教授することは其の任務ではない。次に職業紹介であるが、歐米でいふ職業紹介と我が國で行はれてゐる夫れとは其の方法に餘程異なつた點がある様である。要するに職業紹介といへば職業の需給を計る機關で、求職者と求人者とを結び合はせることを主として其の必要に應じて求職者の人物を観察し或は診査を行ひ、求人者に對して其の事業の性質や信用の程度等を調査し、其の他求職者の將來を指導する爲めに必要な忠告をもする。然し我が國の紹介所には、求職者と求人者とを結び合はせることだけの者が多く、唯僅に東京市中央職業紹介所と大阪中央職業紹介所だけである。

職業指導は極めて廣汎である。即ち凡ての青少年で職業紹介を必要としない者までも取扱ひ、職業紹介所では職業を求むる者を取扱ふ、殊に職業指導で取扱ふ青少年は職業に經驗を持たない者で、若し多少の經驗があるとしても其の程度は未だ獨立し得るだけの熟練のないものである。又職業指導で取扱ふ者は必しも他家に雇はれる者だけでもないのである。

將來の適業を選ぶ上の性能診査や、身體検査を受けに来る者や、學校を選ぶ上の指導を受けに来る者迄も包含される。即ち凡ての年少者に對して精神及身體の診査や實驗を施し、又長期間に亘りて觀察を遂げ其の材能の長短を究め之に適不適の職業選擇の助言をなし、又才能を發揮すべき機會を與へることに努め、又職業を見習ふ爲めに適當なる雇主を紹介し、就職したる後にも監督指導を續けて其の進路を指示するのである。而して一方には職業上の研究調査に當り、其の結果を印刷して小學校や其の他職業に關係ある各種の社會事業家に配付したり、又職業少年保護の運動を起したりするので其の範圍は極めて廣汎なる事業である。今職業指導の使命とす要項を左に列擧すると次の通りである。

- 一、職業に關する一般的智識を與へて職業的見解を豊富にすること。
- 二、職業並に上級學校選擇に對して親切なる助力を與へること。

三、適材適處の原則及其の仕事に對する經濟的考察、其の他の事情等を考慮に加へて職業に就くことに努力し、就職後は其の昇進に關して助力をなすこと。

四、進んでは社會改良、勞資協調迄關係すること。

要するに職業指導は極めて廣汎なるもの故、理想をいへば幼稚園——小學校——中學校——大學の時代迄及ぼすのが本來である。就中小學校——中學校——の青少年又は半途退學者——實務従事者は最も留意して指導すべき範圍のものである。夫れ故此の業事を眞に發達させんとするには學校、官廳、公私團體、有志者等一般社會の一致協力に待たざれば到底望まれないのである。

以上に述べた通り職業指導の範圍は極めて廣汎なる者である。然して少年時代に於ける學校教育期は尤も大切なる時期である。即ち無黙のない一直線の進路を進むことの出来る教育、之が重大なる任務を有する職業指導の一方面であると信ずる。依つて次に普通教育と職業との關係を述べることにする。

五 普通教育と職業との關係

本問題を説くには次の三項目に就て述ぶるのが便宜である。

(イ)職業の意義 (ロ)職業及財産思想 (ハ)普通教育と職業

職業の意義——經濟學では「一定の形式による財貨の獲得行爲と定義されてゐる、一定の形式とは方式の一定した仕事である、その目的とする處は財貨の獲得である、然し之では其の意義狭過ぎるのである。即ち「ビジネス」(實業)には適切であるかも知れないが、「プロフェッション」(公職)精神的職業には當嵌まらない場合が生ずる、故に此の定義は不充分である。心理學の定義では「一定の形式を以てする心身の勞働なり」としてある。即ち財貨の獲得は必しも職業の條件とは見ない。人生の行路は精神と身體との勞働の連続である。要するに定義を有する成人の生活は一定の形式を持つてゐる心身の勞働時代であるか

ら職業であるといふのである。又教育上からいふ職業の定義は「國民生活上に必要な活動を分業的に分擔すること」だといふのである。此の定義で見ると國民生活上必要な種類といふことに範圍を限定し、國民生活に不必要或は有害なる活動は職業とは見ないのである。換言すれば道徳的社會的に見て正業の分擔が職業といふのである。

さて斯くの如く人は何故に生活上一定の形式をとる必要があるか、之は吾人の日常生活は習慣的に、才能發揮上又社會奉仕にも仕事を一定することが能率上極めて便利でかつ必要であるからと思ふ。又かうした生活は實に人間本能の要求でもある。依つて一定の生活形式は即ち能率増進の基礎と見てよいのである。

職業思想及財産思想——職業思想は時代と共に變遷して行くことは申す迄もないことで、今日の如き金錢を得る爲めに世事辛き世の中にあつては社會奉仕の目的たると、財貨獲得の目的たるとに論なく、生きたが爲めに最小限度の財貨を要求する主張が益々濃厚になつて來つゝある。即ち人の衣食住が充されなければ人の自由が覺束なく、隨つて獨立生活が甚だ危いのである。時には善良なる品性も金の爲に傷けられて獨立の人格を成立しないことが多いのである。

こゝに於て職業は自由獨立の保證でなければならぬといふ考へが痛切に高潮されて來たのである。財産に對する思想も大變々化して來て居るのである。自然的生活資料の豊富なる時代には財産に對する思想を利己的欲望として賤しめられたが、現代の如く生存競争の極めて激烈なる、即ち單に生きるといふことが一つの重い苦痛として感ずる時代に於ては財産に對する思想も變化せざるを得ないのである。此の思想を最も適切に述べてゐる人は「デュウエー、タット」といふ人である。氏は財産は「人格の確證」「人格の認識」「人格の支持」を得る爲めに社會の人々の上に於ける合理的生活の確證を要求するといつて居られる。而し健全なる品性は職業に勤勉なる人に備はり、現代道徳は其の職業其の勤勉を神聖化する信念のある人によつて實行せらるゝものであると言ふて居る。

我が國で此の思想を強く適用してゐる例を挙げると銀行員の採用である。即ち其の位置に應じて相當の保證金を積ませ、及

び本人或は親權者、並に保證人の財産を調査して其の持てる人格を支持し、之を保證するに足るだけの財産がなければ採用しないのが普通の定めである。要するに正しき道徳生活の支持は財産のあることに依つて具體的に確證せらるゝとする思想の發現に外ならないのである。

普通教育と職業——普通教育の要旨には身體の發育に留意するは勿論だが、(一)道徳教育、(二)國民教育の基礎、(三)生活に必要な智識技能を要求してゐるが之を分析して見ると、兒童の將來の職業の爲めの教育が總括的に包含されてゐる。

即ち道徳教育は同時に職業道徳で、國民教育の基礎は同時に凡ての職業の基礎であり、生活に必要な智識技能は直ちに職業生活に必要な智識技能の源泉であらねばならぬ。而して職業は國民の獨立的自由活動の本源であつて、誰もが職業を持つべき責務がある。

之を個人より見るも社會より見るも各員の職業の勤勉に因つてのみ社會は發達するのである。又道徳より見るも道徳を支持し保證するものは職業である。故に兒童の將來必ず持つべき職業に對する教育を捨て、國民教育の成立する道理はないのである。昔は人々が職業を得るに格別困難はなかつたが、現在及將來は適業を選むといふことは容易な事ではない。夫れだけ今日の國民教育は從來よりも一層職業的能力の涵養が捨て、置けない時代になつたのである。然るに現在の教科書中にある職業的材料によつて、又現代の制度の下に兒童を教育するとして、果して將來の職業入門に對して充分であらふか、蓋し思ひ半ばに過ぎるものがあると思はれるのである。

普通教育に於ける所謂職業的教育は中等普通教育に於ける専門的職業教育ではなく、寧ろ小學校の一般教科に於て施すべき廣義の所謂職業教育である。もとより小學校教育は單に職業のみの教育ではなく、一般的陶冶が任務で職業の如何を問はず凡ての職業活動に適應せしめんとするのを國民教育の理想とするのである。が併しながら之は理想であつて事實はこゝ迄徹底して居ないのである。近來歐米に於てすら此の不徹底を叫ばれたのである。

彼の有名なるテラー表は即ちそれである。此の表に對して「失はれたる二箇年」と叫んだのは獨逸の教育家ケルシエンシユタイナー氏である。之が米國に傳つて米國の國民教育は非常なる目ざましい進展を示したと言はれて居る。普通教育と職業生活との連鎖をして完全に充實せしむることは即ち普通教育に於ける職業的教育の目的とする處で、此の目的を達することに依つて始めて普通教育の眞の効果が現實化され、一方兒童は最も無駄のない、然かも一直線の進路を辿つて最も安らからに一生の定業に到着し社會に獨立することが出来るのである。

然らば如何なる教育を強要するかといふと、もつと深刻に現在の社會狀態、職業狀態に順應した教育法に歩を進めよと叫ばざるを得ないのである。かつてスネツデンスは教育を社會狀態に適應せよ、學校は學校の爲めの教育でなく生活の爲めの教育なるべしといひ、パウルゼンは生活の爲めの教育を主張し、スピノザは人間第一の要求は有爲有能なれ、かくすれば他は期せずして至らんと。

レーマンは汝の生徒を有爲にして生活に有力ならしむることは必然的にして凡べての教育の目的であると。

尙デユウエーは舊來の教育を呼んで靜坐學校と稱し、ケルシエンシユタイナーは書籍學校と非難して主知主義の教育は公民教育の敵であるとも叫んだのである。斯の如く現代高潮されて居る作業教育、勤勞教育は何れも生活の爲めの學校を要求し必ずや此の職業的教育をも強要してゐるのであると思ふ。それには從來の注入教育を排しあくまで社會狀態に順應すべき兒童の本質、地金其のもの、練磨でなければならぬ。例へば道德教育にして昔のやうな勸善懲惡一點張りでなく生活問題が人生の一大事實なるを自覺せしめつゝ、之と關係した解き方でなくてはならぬ。而かも自力を以て己れの生活を支ふることは人の行爲中最も美しきもの、一つであることを知らしむると同時に自力の最大は己れの特性そのもの、發達にあるのであるから、兒童の特性を尊重すると共に之を大に助長してやらねばならぬ。團體教育は往々此の特性を閉却し却つて剪除することが稀である。三學級二教員制の議論が一時盛であつたが、現在の日本の狀態に於ては實に恐るべきであると思ふ。今や義務教育年限延

長の議論盛となり經費さへあれば實行されんとする迄の状態にあるが勿論主義として大賛成である。然し一方義務教育年限延長の叫ばれ居るに對して最近米國あたりでは八ヶ年の年限を六年に引き下げんとする運動が起つて來てゐる有様である。要するに前に述べた社會的の要求なり、教育思潮なりに順應せざる延長なれば甚だ無意味の事と思ふのである。尙最近米國教育協會が主催となり桑港及オークランド市の兩市に於て世界教育會議が開かれて各國より五名以上の代表者を派遣したが、我が國よりは澤柳博士、元田作之進、小松原文部督學官、阿部、原田其の他の諸氏參列して協議した事項は十八ヶ條あるが、本會議の目的は世界の平和と人類の幸福を増進せしむるといふのである。其の十一ヶ條に職業的教育といふのがあつた、其の説明に職業的教育を盛んならしめ、然して文化的教育との均衡を保ち兩者の適當なる調和を爲め一般的に適用を獎勵する様特別委員を設けては如何といふ問題が論議されてゐる。要するに現代は最早他律的詰込主義の教育を要求しない。赤裸々にして社會に放り出しても自力で生活し尙途方にくれざる程の強い人になりうる教育を要望する次第であると思ふ。今日及將來の社會は益々複雑して個人の善惡に對する果報の如きも不公平が多いことを免れないのである。即ち賞せらるべき人が賞せられず、滅ぶべき筈の者が却つて勢力を現はす場合が決して少くない世の中である。故に教育者はこゝにいふ點を充分考へて所謂強い人を作らねばならないと思ふのである。

獨逸の勤勞教育に就て

遠藤 順一

一 説明者ライプチヒ・ドクトル・キユトネル氏説明

勤勞學校は自發的活動によりて、生活を人格的自由に導き、而して特に勤勞の基礎により精神的及て肉體的自由に導かんとす。

精神的教育によりて精神能力の組織ある發達を了解せしめ、就中文化價値の賦與によりて知識を會得せしめ、道德的教育によりて道德規範の方向へ人格の確實を得せしむ。

從來の學校が多く注意せざりし知識的發達は、先づ知識的自然の本質（本具の能力及文化價値の表現）に従つて與へられ、次で人格の發達は道德的發達の可能性に於て實際上訓練と習慣とによつて成就せしむ。此の發達の教育的基礎として從來教訓と例證を認め、精神的發達に對しては例證を用ひたり。今後は此の二者の外に最要なることとして勤勞を以て自我發達の道程ならしむ。生徒は人生々活の廣き實際問題に當面し、而して生徒自身より能動的に知識的及道德的行爲をなさしむ。

如何なる範圍に於て一般勤勞及び特に肉體勤勞を趣旨の基礎たらしむべきかの問題に對して二個の答を得べし。即ち將來の教育の遠き理想觀念と近き經驗觀念となり、前者に於ては勤勞は第一にして最要の基礎をなし、教授と實例とは意味に順つて自然に到る處に存在す。先づ生徒は一日の大部分を職業教育の下に立つべきを前提とす。之を具體的に示せば田園教育學校、自由なる學校自治體、ハンブルグのクローン家庭學校寄宿舎等なり。

近き經驗觀念に於て勤勞は教授に徹底す。教授は勤勞の中核にして實例は到る處にあり。此の觀念は吾人に與へられたる教育組織の形式の變化について二様を示す。第一は生徒の肉體勤勞可能性能力に於ける性質及性に從ひ、又其の家内經濟的需要に應じて生徒に適合したる工業（技能）を與ふ。次で將來の教員養成に就ては絶對的基礎としての身體及精神的勤勞は、全體的教育及教化事業に徹底せしめ、之に依つて彼の理想的觀念（表象）に向つて努力を可能ならしむ。

此の要求の第一を實行せん爲に小學校及上級學校の凡ての階級に於て、工場勤勞を結合したる科目の存在を必要とし、又出來得る限り工場學科を教ゆる多くの教師の就職すべきを必要とす。

若し職業教師が全體として深き哲學的教育學——就中社會學的及心理學——職業教育の素養あらば勤勞は第一に教育の實際的基礎たるを得ん。

二 説明者マールブルヒ・ナトルプ教授

(一)、六基礎（1、統一 2、分化 3、勤勞 4、休息 5、自治體 6、社會教育）によりて

(二)、統一學級の概念を規定するを得、之は此の問題の決定にして又問題の解決の證據なり。

分化的統一學校概念、統一する學校として其の目的を教育の分化により達成することを得べし、即ち各個人に對し彼の能力及地位の差別相に於て教育の自治を實現するを得べし。

之に依つて問題は次の事によつてのみ解決するを得べし。

社會教育の組合的組織、同時に社會生活の組織、即ち其の組織は上よりする一般的命令制度のみに依らずして、また下より兄弟的團體に於ける各個人の直接共同勤勞の確實なる基礎に於て、狭小なる範圍より廣大なる範圍に向つて形式に従へば組合より組合へと向ふ。斯くして小數なる精神家は其の心慮と意志の力によつて多數の盲目なる非精神家を克服し指導することを得む。

此の完全なる社會教育の革新に就ての必要なる第一歩は、適當なる研究學校に於ける綜合的研究の主張及可能にして、此の場合に青年は進んで準備し又よく爲すべし。斯くして組合制度の學校は勞作する勤勞を基となして建設されん。

これは計畫的に實行され漸次に自己を保持して行くべし。

これに依つて出來得るだけ社會の經濟的及び政治的組織は主として一般的基礎の上に建設されん。

(三)、統一學校の内部組織

幼稚なる兒童の教育は兒童に十分なる權利を賦與するを目的とすべし、兒童の自然的地位は家庭と幼稚園なり。

兒童の精神に直接的勤勞の基礎に於いて作られたる物象世界は其の反照としてあらはれ、第二言語の世界があらはれる。此の二者は常に密接なる一體として保持さるべし。これには發表報知の原始的直接的方法として彫塑的圖畫的形體が屬す。

第二の階級に於て學校の組織的形體として必要なる方向に對して一定の分岐をなすべし、これは始より終りまで教育の擴大と集中との間に平均を保持す。知識・意志・工藝的及宗教的理解の上に確實なる指導を要求す。此の第二段の教育階級は十二年を包含す(六歳に始まり十八歳に至る)而して第一の階級の時期には集中を第二の時期には分化を行ふ。學校經理の分岐は十二年以前に行ふべからず、凡ての必要なる又思慮されたる前提條件により出來るだけ十八歳まで學校教育を實行すべし。

兒童の事物教育は言語教育の基礎の上に實科教育を主とするもの、及古典教育を主とするもの、二大系統に於ける教育制度を樹立す。二者の各内部に於て直接に訓練する勤勞の材料の上に教育は分岐し、又勤勞の科學的技術的指導及自由なる發達を目的として教育は分岐す。

これによつて實科的及古典的教育が行はれ、二者の行ふ所によりて、

意志及精神の教育及宗教の教育を更に進んで規定す。宗教は私事なりとは最後の言語にあらず、宗教は寧ろ人類共通の事實

たり。目的はヘルデリンの所謂「精神は凡てに共通す」ならざるべからず。制度の最後の王冠はその時に大學なり大學の擴張は國民高等學校と接觸す。

三 説明者 チュエリツヒ・ドクトル・サイデル

第一 勤勞教育及勤勞教化の社會的教育學的及政治教育學的の必要

製産的手工は凡ての物質的・工業的・技術的、社會的・道德的・文化の基なり。

文化は先づ手工によりて自然及自然人の變化によりて作らる、唯手工によつてのみ人は自然の原形及本然の自然狀態を文化狀態にまで作り上げたり。

創造的手工なくしては如何なる制度も、道德も、社會も、國家も、藝術も、而して學問もあることなし。

各創造的手工勤勞は又精神勤勞より、而して各精神勤勞は前提としこの手工勤勞なくしては存在する能はず。

精神勤勞が人格的及社會的の事業を爲さんと欲すれば手工勤勞なくしては之を行ふこと能はず。

原始社會の初期に於ては永き間勤勞は區別なかりき。次で男女兩性の間に勤勞の區別起り、次で職業の間に勤勞の區別起り最後に支配者と被支配者との間に勤勞の區別起れり。支配者は社會及國家を指導する愉快にして尊貴なる勤勞に當り、被支配者は全體の營養と衣服と住居の爲に而して又支配者の愉快と便宜の爲に困難なる勤勞に従事せざるべからず、勤勞は原始時代に於ては勤勞の範圍が一般的の所有物なりしを以て種族社會の共同的動作なりき。狩獵及漁獵家、家畜飼養及土地耕作は一般に行ひたり、自然が許容する所に於ては勤勞は唱歌の韻律によつて始まり、唱歌と遊戯と舞踊によりて終れり。斯る習慣は今日尙自然民族の中に行はれ而して探險家によりて常に證明さるゝ所なり。

青年者は原始時代に於ては最も完全なる仕方により社會の中に又社會によりて勤勞を見、又勤勞に参加する事によりて社會に於ける勤勞について教育され訓練されたり。父母、兄弟、姉妹及親族血族の大なる親密なる一族は教育者にして訓練者な

り、勤勞は喜悅にして又名譽なり。各人は喜びと道德的權利とを以て其の成果の適當なる量を享有したりき。原始時代の後期家族社會制度に至り、野蠻人種の高等階級に至りて既に各種の主なる職業現はれたり。然も勤勞は尙尊ばれ職業及藝術、家畜飼養及土地耕作、商業及航海の發見は女神及男神に捧げられたり。

古代の貴族及種族社會に於て又貴族國家に於ては手工勤勞は不自由者及被支配者の義務となり、勤勞は強制勤勞にして被支配者、不自由者及奴隸の耻辱ある標號とまで落下したり。勤勞は自由者支配者の大哲學大倫理學者によりて卑められ劣められ無價値とされ辱められたり、古代の倫理及道德學は勤勞に就いて何等の義務及道德を認めざりき。中世の階級社會及階級國家に於ては手工は不自由者、附庸者及奴隸の仕事にして中世紀を通じ、又近世に於ても最近世に至るまで手工勤勞は卑められたり。

古代及中世の哲學及教育學は此の理由によりて勤勞の教育及教化の力を見出すこと能はず、近世の中産階級勞働者階級の勃興により教育學者及社會學者によりて初めて見出されたり。手工勤勞の高き教育價値を漠然ながらも初めて知りたるは十六世紀の中産階級の教育學者なりき。勞働者をして國民たらしめたる國民的社會革命及國家革命によつて初めて勤勞は尊ばれたり、ルッソー、博愛主義者及ベスタロツチは教育方法としての勤勞に賛歌を捧げたり。

古代中近世に於ては農業及工業に於て手工勤勞による小職業が行はれ、家族は勤勞及職業團體にして、兒童は幼少より勤勞に又は職業に従事し、家族の勤勞及職業團體によりて勤勞すべく教育され教化されたり、斯くして最近世に及びぬ。

工業及科學の發見發明により又動力機械及勞働機械が勤勞に應用さるゝに及んで最近世の市民社會に大なる勞働分業を有する大企業が起れり、之によつて勤勞團體及職業團體としての家族制度は破壊し滅亡し、勤勞に導く青年の教育及教化は自然的勤勞及職業團體によりて行ふこと能はざるに至りぬ。

一職業に於ける仕事の分業は數百を數ふるに至れり。之に依つて勤勞の成果を驚くべき程巨大ならしめ、國民の富力即資本

家階級の財産を増加せしめたり、全然此の結果身體及精神、文化及人格の教化的力たるべき勤勞を奪ひ、精神の死せる者又心の荒廢せる者たらしめたり。

製造工場に於ける機械勞働により勞働へ導く何等の教育も無きに至り、更に勞働へ導く教育は過去の職業勞働の數百の分裂により不可能となり、家族勞働より奴隸制度へ陥れり。而して一八六〇年以後は完全なる職業自由を有する國民の大多數は勞働への實際教育を失へり。十九世紀の終期以來勞働者團體は其の團體に對し、僅少なる勞働教育の一部を職業の専門的講習によりて與へ、同様に種々なる國民教育團體もまた企てたり。

獨り社會即ち國民の民主的市民の經濟團體及其の人民の十分の九が勞働者より成立する民主的國家は、其の社會的及團體として生存と繁榮との爲に青年の勞働教育及教化を必要とし、其の生存の第一要件は青年を勤勞に導く教育及教化にして之が爲に必要な教育機關を設立せり。

斯くして古代の家族制の自然的勤勞團體及教育團體消滅せるを以て新なる勤勞團體及教育團體起らざるべからず。此の新勤勞團體及教育團體とは勤勞學校及職業學校之なり。此處に於て勤勞は教授の對象として教授及教育主義として又教授及教育方法として事實に現はる。價値を創造し又職業を創造する手工勤勞は上・中・下三階級を通じて凡ての教授及教育學校に於て教へられ、凡ての學校は工場に於て學校園及生活園に於て田畝森林に於て教育及教化手工勤勞の爲の勤勞及教育及教育團體ならざるべからず。創造的手工勤勞は善良なる市民及人間の第一の義務、道德及名譽なり。

勤勞する國民は次の權利を有す。即ち國家及社會に對して勤勞及職業學校として統一學校を設立するを要求し、之によりて凡ての兒童及青年が彼の豊富にして善良なる自然的性質及力を創造的手工及職業勤勞によりて調和的に發達せしむる至當の幸福を享有せしむ、而して人間の至高の幸福は國民及び人類の爲にする自然的性質及力の活動なり。幸福に生活するとは他人の爲に働くの謂なり。(了)

フレボケーシヨナル・エヂュケーシヨン

眞田 幸 憲

十數年來米國に於てフレボケーシヨナル・エヂュケーシヨンと稱するものが、教育の系統中に入るゝことゝなつた。今其の意義に適合する譯語を見出すことを得ぬが、近似せる漢字をあてゝ便宜豫前職業教育として置く。

豫前職業教育の意義は區々であるが、米國教育聯合會の職業教育に關する用語の調査によれば、大要左の如き解釋を下して居る。

「豫前職業教育は職業教育としては特種の組織をなして居ぬが、職業教育にとつて價值あり、又根本的に豫備となる教科目及實習と稱することもある。廣義に於て讀むこと及書くことは、凡ゆる職業にとつて豫備的的根本的のものであり、算術は商業及其の他の職業にとつて根本的のものたり、生物學及化學は藥學にとり、歴史及經濟學は法律學にとり、ギリシヤ語及ラテン語は神學にとり、用器畫及三角法は器械學にとつて豫前教育となり、手工科は同様に器械に關する學術を修むるものゝ豫備となるのである。

更に他の用義によれば職業の選擇につき個人を輔導する様、教授及訓練を組織せるものを云ひ、之が普通とせられて居る。例へば手工科を修むる者が器具を使用する職業に適するか否かを發見し、ハイスクールで商業科を修むる者が商賣に適するか否かを知り、用器畫をやつて居る中には斯る畫を必要とする職業に適するか否かを覺ることの出來る様に自己の適否を知らしむるために施設せらるゝ課程を稱するのである。

後の意義に於ける教育は職業等級と並行し、又職業教育の施設多様となるに従つて其の必要は増加する。都市の學校では十四歳乃至十六歳の少年に對して施設せらるゝ職業教育は多様となるのであるが、之が生徒たるものは自己の適不適を知らずして直に専門的教育を受け、後其不適當なるを悟りて半途退學者を生ずることゝなるのは職業學校にとつては不經濟である。かゝることのなきためには豫前職業教育の施設が必要となるのである。現今小學校の第七八學年に施設して居る手工科に代ふるに、商業・工業・農業に關し構成的、實際的作業を會得するの機會を多くし、將來の職業選擇の機會を提供することが必要である。

將來必要な問題は豫前職業教育の目的を限定し、其の目的に副ふ施設をなすことである。

現在明晰な用義として豫前職業教育とは、青年をして多くの職業の中でそれが自己の能力性向に適して居るかを發見せしむることの出來るやうに計劃せられた教育の形式であつて、其の學科課程は職業中に包含せらるゝ實際的經驗中、様式的ものを多様にとり、生徒をして實地に之を經驗せしむることの出來るやうに組織せらるゝを要すると説明して居る。

之に依れば豫前職業教育とは専門的職業教育ではない。又所謂豫備教育とも聊か其の義を異にして居る職業に包含せらるゝ要素、主として實地の練習を多様に包含せる課程を組織し、兒童生徒が實地に之を修練して行く間に自己の適不適を自覺し、將來とるべき職業を定むるの素地を作るの教育である。即ち職業に従事し専門的職業教育を受くる前に自己の適不適を自覺し長所とする點に向つて進ましめんとする準備の教育であると云つても差支ないと考へる。

用義が人によつて區々なるため施設の實際も亦遅々なるを免れぬが、私の參觀したハイスクールの實業科は概ね前に述べた意義の下に施設せられて居た。米國のハイスクールの學科は學校によつて區々だが、其中に普通科、農科、商科、工科、家事科といふやうな區別を設けて居るものがある。其の普通科といふのは恰も我國の中學校、女學校の課程の如きものであるが、農商工家事科の課程ではそれゝ之に關する實科目を課して居る。しかし専門的商業科でもなければ農業科でもない。されど

商科を修めたものは卒業後商賣に従事するには都合がよいと云ふのである。此の施設は所謂フレボケーション・エデュケーションの施設であつて、商科なら商業といふ職業の要素たるべきものを様式的に又實地に修練せしめ、其の間に自己が果して商人たるに適するか否かを自覺せしめ、適すると思ふものは卒業後直に商人たるか、又は高等専門の商科を授くる學校に入學するのである。小學校にあつては概ね七八學年に斯施設をなして居るものもあるが、之れ亦其の方法は區々である。今紐育市に於ける施設をとつて稍々審に説明して見やうと思ふ。米國の小學校には紐育市のそれに類したものもあるだらうし又しからぬものもあらう。米國の豫前職業教育は皆次に述ぶるやうなものだとする誤解のないことを望む。

紐育市の施設は一九一四年に始つたが、教科及教科書委員の調査を採用し、男兒の部はマンハンタン六十二番校に女兒の部はブルツクリン百六十二番校に設置した。共に其の七八學年に施設したのであつたが委員の調査では其の科別は次の通りに試みたいとした。

男		女	
一 普通科	二 商科	一 普通科	二 商科
二 商科	三 工科	二 商科	三 工科
三 工科	(一) 木工	三 工科	(一) 裁縫
	(二) 機械		(二) 製帽
	(三) 電気		(三) 袋物及布片細工
	(四) 板金細工		(四) ミシン縫

以上の教科を兒童に復修せしむる方法につき委員の説明によれば、第七學年前期の初に於て兒童を六級に別ける。例へば百四十四人ありとせば各二十四人として普通科、商科及工科(四組)に配當する。今第一組を例として述べれば、最初機械科に入

らしめて九週間學修せしむる。其の間優秀な成績を示すものは此の方面に適すること自ら明瞭となるが、中で到底此の科を修むることを得ぬものある場合には、次の科の履修期迄、一時之を普通科に送りて其處で學修せしむることとする。此の決定は該科の擔任と校長と相談の上で之を行ふのである。

第二期の九週間は電線科を修めしむる不適當なものあれば前と同一の處置をとる。

第三期九週間は木工科に入る兒童數は次第に減じて來るのは免れない。

第四期九週間は板金細工、第五期九週間は商科、第六期九週間は普通科を修めしむる。

此の課程は自己に適するものを悟らしめんがため各種の職業に亘つて經驗せしむるのであるが、其後如何なる學校を選択すべきか、又卒業後直に就職とせば何を選ぶべきかにつき自ら得心することが出来ることとなる。

委員は終に云ふ。此の如き履修は第八學年前期に修了する豫定であるから、其の際細心に研究して見たことはかゝる試みは果して職業選擇に有效な方法であるか、小學校に斯る施設をすることが適當か、特別な才能を現はすものある場合には九學年を置き商科を更に一年半繼續せしむるの要がないといふことである云々。

以上の調査を基として男女二校に於て試みたのであつたが、學務課長は豫前職業教育に對しては次の様な見解の下に其の施設を監督するの任に當つた。

一 實業科としては工場作業の基本的知識及其の作業に要する用具に就て熟知せしむること。其の作業の製品は商品として價值あるものたること。

二 職業等級としては自己の適不適を悟らしむるため、十週間各種の作業を經驗せしむること。

三 英語・數學・圖畫・歴史、公民科は實業科と密接に關係せしむること。

要するに豫前職業教育とは職業の準備であり、又職業等級であり、又普通科の教養を與ふるものであるとして之を實施する

上のは稀である。今一年五十二週として二十箇年働くとしても、こんな程度の労働者の収入は一萬四百弗に過ぎぬ。學校教育を受け實習をなすこと尠い職工は二十二歳で一週十三弗二十五錢を得て居るが、二十年間働くとせば一萬六千五百弗四十錢となる。しかるに完全な小學教育を受け十八九歳迄職工學校で修業したものは就職の初に一週十二弗、間もなく二十弗乃至二十五弗となる。同じ二十年働くと二萬六千弗を得ることとなるが、最初のものに比すれば學校教育を繼續したために一萬五千弗を多く得ることとなるのである。

保護者諸君は第一に子弟の教育を永く繼續せしむる様にし、第二に豫前職業科に入らんとする際には其の選擇を誤らしめぬ様にし、第三には其の選擇した科の學業を獎勵する様にし、學校と協力せられたい云々。

學校の施設は九月より初つたが其の實施に際し學務課長が關係小學校長と協議した重要な問題は次の通りであつた。

一 普通科目の組織

普通科目は従來の如く教室に於てのみ教授せらるゝことゝならぬので、先づ學校外に利用すべき場所、即ち公立圖書館、運動場、セツトルメントの建物などを利用することゝした。而して講堂、體操場、公園及圖書館に行ふ仕事を定める時間割を制定したが、其の仕事は凡そ次のやうなものである。

(一) 講堂に於ける集會 國旗に對する敬禮、聖書讀方、唱歌、體操、諸作業、活動寫眞、教師の説話等。

(二) 講堂に於ける學習 地理、歴史、讀本の默讀、監督指導の教師は机間を巡視して其の任に當る。

(三) 體操場及公園に於ける體育。

(四) 公立圖書館の利用圖書使用の特權を得、閱覽室で自習する。而して指導教師之を補導する。又圖書館の集會室では、朗讀、話方暗誦などをやる。

二 豫前職業科目の組織

(一) 各種實習場の設備 男兒に對しては電線布設實習場、機械工場、板金細工場、鉛管工場、看板畫室、印刷實習場、用器畫室、指物工場を施設し、女兒の爲には製帽實習場、裁縫室、袋物實習場、家事實習室を設備し、それらの標準を定めて實習の出来るやうにした。私は紐育に於て此の種の一小學校を見たが機械工場の如きは我國の縣立工業學校などの設備程度に勝るとも劣つては居ないと思つた。電線布設實習場の如きは室の一方に一仕切數人を入れることを得る、二階式の小室六又は八を設け兒童は其の中に入り、三方の壁天井及床に電線を取付けたり取除いたりすることを訓練するやうになつて居り、室の中央には大テーブルを置き電線取付に要する器具類を置き又物置もあつて各種の電線を貯藏して居た。右は一例に過ぎぬが其の他の實習場に就ては之を記述することを省略する。

(二) 教授者の資格 實業科目の各部門に互り適當な教師を得る點に就て大に苦心したが、少くとも五年間は實務に従事した経験のあることゝ、其の教授の方法に就ては一定の試験の上適當だと認むるものを採用することゝした。二三の例を舉ぐれば、圖畫の教師は二十八歳であるが、紐育市立のカレジ及コロンビア大學の卒業生で其の後某工場で製圖の技手及鑛山の技師たる経験あるものである。印刷術の教師はハイスクールの卒業生で二十年間も印刷業に従事した人だといふ風に學識も深く技術に堪能に其の教授の方法迄も吟味して教師に採用したのである。此の點では我國に於て反省せねばならぬことゝ考へた。大學を出た人で小學校などに居る人は殆んど絶無であるが、中等の實業學校でも其の數は寥々たることゝ思ふ。又大學や専門學校を出た許りで殆んど工場に於ける實務の経験もない人が實業科目を擔任して居るのが殆んど普通と考へて居るが、彼之相比して非常な相違あるを認めねばならぬ。實業科の効果のあがると否らぬと又職工の能率の高低は畢竟各種學校に於ける教師の問題とせねばならぬと考へる。

(三) 課程の編成 一日五時一週五日とし、教授時數を左の如く定めた。

總時數三十五時、實習十五時、普通科二十時(英語五、算術三、地歴二、理科二、體育衛生五、圖畫三)

實習の普通科目とは、最も密接の關係を持たしむることに留意し、實習場に於て取扱ふ題材及其教法から派生して普通科目の材料が開展せらるゝ様にする。兩科の擔任教師は相互に連絡を保ち協力することゝし、普通科の教師は一日一時、一週五時は實習時間に立合ひ、生徒の仕事を目撃し又實業科目の教師とも相談し、自分擔任の科目ではどんな方面に留意したら、實習上に關係深からしむることが出来るかを研究する。又實業科目の教師の方では一週間に今後普通科の方面では算術なり、理科なり、そんなものに力を入れて貰ふと實習科の方面には都合がよいと云ふことを調査報告すると云ふ風に兩方で聯絡を圖ることゝした。

普通科目は實習科目の別によつて其の内容や重きを置く點が異つて来る。例へば理科では鉛管細工をやるものに對してはサイフォンとか活塞の作用などを含める液體の物理を知らしむることに重きを置くが機械科のものには金屬の性質や簡易な器械の原理などを授くるを主とする。又地理科では指物料に對しては森林地などの話から木材のことに論及するが、印刷科ではパルプの産出などを取扱ふ。英語は各科共に必要であるが、印刷科に對しては特に綴字、句讀、文の構成などをやかましく取扱ふことゝするのである。

歴史は單に一通の合衆國史を授くるに止らず、米國經濟史、有益な發明の話などゝ云ふ産業に關係ある材料を集めた教科書をも併用し、地理の教科書も産業に關係あるもの數種を併用し、衛生も勞働者に對する衛生といふ名目の書を教科書とした。

實習科目にはそれゝ要目がある。而して十週間に各科重要な基礎的のことを授けるのであるが、一實習事項二實習場に於ける説話、三聯關事項の三に別ち、(一)は實習題目を掲げ、(二)は之に關する説明注意、(三)は普通科目で之と關係してなすべき事項を擧げて居る。今此の要目を掲げてあることは省略する。

以上は紐育市が豫前職業教育を施設するに當つて、とつた方針や實行案などをまとめ其の後市學務當局の一人たるエッチンゲル氏の報告したものによつて記述したのであるが、同市の斯教育は爾後此の案によつて實施せられて居るのである。爾後約

十年を経て居るから多少の變化はあるだらうが、今尙ほ大體はこんな風に行はれて居ることゝ考へる。

フレボケーショナル・エヂュケーションの旨趣及其の施設は、之を參考として我國の教授上次の問題を考ふることが必要と思ふ。

一 小學校の義務教育年限が延長せらるゝことは目前に迫つて來た。其の教科課程は現在の普通科の延長に過ぎぬやうなもの即ち米國などの語を假ればアカデミイックのものだけでは恐らく多數の國民に適するものでないと思ふ。早晚實業科目を其の組織中に按排することゝなるだらうし、又しかせねばならぬと思ふが其の實業科目の旨趣は之をいかにするか、こゝに豫前といふ旨趣を參考せねばならぬ。

二 従來の高等小學校に課せる農業、商業、手工といふやうなものは其の施設の旨趣は別論とし、事實上一言之を盡せば貧弱なもので役には立つて居ぬ。徹底的に改善を要するが、それには外國の實業科などの内容を參考せねばならぬ。

三 補習教育を受けて居るものゝ中には卒業後直に何かの職につきつゝ補習教育を受けて居るものと、未だ就職未定であるが補習教育を受けて居るものもある。特に後者に對して豫前職業の趣旨及施設を參考する要があると思ふ。

四 如何なる形式の下に置かるゝにしても、實業科目を有効に教授し得る人の乏しいことは目下我國の大缺陷である。此種教師の養成を徹底的に行はぬ限りは到底効果を得ることは期し難い。(完)

第二章 職業指導と教育

中等教育に於ける國民能率上緊急改善事項

木村善堯

序言

是に中等教育と云つてをるが今は單に其の中の中等教育に於て國民能率上緊急改善すべき事項に就き述べたいと思ふ。勿論それは一般に問題にされてをる事共であり、且つ又詳細に論ぜらるべきものでもあらうが、こゝには唯それを痛切に感ぜらるゝ三四の事項につき然もその要點のみを記するに過ぎない。

抑々中等教育は教育の一部分で更に云へば中等教育の一部分に過ぎないから、中等教育の如何のみによつて直に國民精力の浪費を叫ぶに當らないかも知れぬが、事實は國民の洩れなく受けねばならぬ初等教育修了者よりも中等教育修了者が國民の中堅をなす意味に於て、加之其の大半以上を占むる處の中等教育を受くる者の學修狀態こそ一國の文運の進歩、尙消極的に言つても國民の精力に重大なる關係を有するものである。然れば之が改善を圖り國民の能率を増進せしむる事は現時に於ける緊急切要なる問題の一つである。

一 中等教育の行詰りと其の最大原因

扱て中等教育の行き詰れる數は直接其の任に當つてをるものゝ中で所謂事務家的校長、或は單に上級の學校への入學能率を擧げ得て得意になつてをる校長ならざる限り等しく發する處のものであらう。何故の歎か事實上その大部分は方今の滔々として息まぬ上級學校入學率の競争の渦中に投じて他を顧るに暇が無いからで、換言すれば中等教育それ自體の目的を忘却してを

るからではあるまいか、之を眞面目な人程停車場教育であると悪口する、蓋し出来るだけ早く此の驛から次の驛へともを輸送するが如く學生を現在の學校から次の學校へと無理押しにでも押してやれば中學教育の能事終るといふが如き現状だからである。又一方から考ふれば中學教育に對しては世間の聲價も高く従つて之が入學を希望する者も甚だ多いが、一般にそれ自體の目的に着眼して所謂人間をつくる意味に於て更に云へば、國家の中堅をなす國民として之が教育を受けしむると云ふのでなく、兎に角學校を出れば相當の身分が保證されるといふ點から漫然と之が志望をなさしむるものが多い、事實愚な事の如くでもあるが繁激なる現在の社會にあつてはその急を要する處から人物採用に當つては何學校出身といふが如き資格によつて之を決定することが普通である。そこで又所謂權威ある資格を得やうとするところから何れも歴史ある俗にいふ難しい學校を志望することにもなる。かゝる點から現時の中學生は多大の犠牲を拂つて然るべき上級學校に入學を期してをるその爲には或る入學率のよい學校は死亡率も高いといふ現象も起つてくる、斯くの如くなれば一つは又國民の保健上の大問題でもあるが、然ればとて今之が入學試験を廢して抽籤法によるが如きは勿論在學中の成績を以てすることの不可なるも改めて論ずべき限りでもなく、一方又官公立並に私立の高等程度の學校の増設等もあるが多數の志願者には尙應すべくもない。更に前述の如く權威あり歴史ある學校に志願者の多くが殺到することも免れないだらうから、入學試験の撤廢は事實上不可能である。そこでこの受験から來る中學教育の行き詰りを開き且つそれに由來する國民精力の徒費を省く問題の鍵は之等入學試験の問題を精査し、それが中學教育の本質に適應してをるか否かを吟味するにあると思ふ。

二 入學試験問題(高等程度の學校)作成に就きて

入學試験を行ふに當り試験官が試験問題を作る際の心理状態を考ふる必要がある。試験特に入學試験の場合は之が及落の判定を比較的早急になさねばならないから、方法としては落第者をより早くふるひ落す方が得策である、故に如何なる答へ方をなすものが當該學校に適應するか更に又かゝる問題は中學教育修了者に對して眞に適當なるか否か等と考慮することが少いや

うに思ふ。

例へば近年高等程度の學校の國語の入學試験問題に擬古文が甚だ多い。勿論擬古文とて強ちけなすべきでもないが、中學上級學年の生徒並に高等程度の學校の生徒に對しては何れかといへばかゝる鶴的、時代錯誤的文章よりも現代文又は純粹の古文の方が教養として必要であらうと思ふ。それを擬古文を以て試することの多きは一つは又それが採點に都合がよいからに過ぎない。英語の問題のむづかし過ぎた事は多年の定評であつた。最近それが中學教育を破壊する所以なることを力説するに至り餘程緩和されたが、そのむづかしかつたのも要するに落第者を作り易からしむる爲でもあつた。又數學の教授にあつても實際目的としてをるところは入學試験問題であるとされ、物理等も一方實驗が獎勵されるにも不拘入學試験に之を行はざるが故に自ら忽になることが多い。然ればこれらの點にも留意し入學試験問題が果して中學教育修了者の本質に觸れ、且つ當該學校の要求するところにそふ所以のものなるかを充分に考慮し、之が査定につきても相當長き日時を與へて吟味すべきである。

三 漢文科廢止とその代策

之は入學試験に關しては矢張り國民の精力の浪費を防ぎ、その能率を増進せしむる上に於て特に考慮すべき必要から云ふのである。この見地からすれば中學校の學科から漢文科を廢止すべき者であると信ずる。之を存続せしめんとする理由は勿論多々あるがその中最も強く主張されるものゝ一つは方今の思想混亂を防ぐ爲であるといふ。假りに漢文修得によつて思想の混亂を防ぐことが絶對的に効果があるとしてもそれを必ずしも漢文の原型で示さねばならぬといふことは少しもない、萬葉が萬葉假名でなくば味はれないといふことがないと同様に、漢文も之をかの複雑なる上下動の讀み方等させて若者の頭を苦しめるよりあのまゝを書きくすしにして所謂國語讀み化したところで少しも思想的にその影響が減弱するものもあるまい。或は又論者は漢文を書きくすしにすれば古典の教授上不可なりとするならんも、然らば何故原支那人の如く之をそのまゝ棒讀みにしないかと反問したい、現今の中學教育でその學科目中英・漢・數など云つて生徒が特に苦しむ點に於て漢文もその一つ

である、英・數に次いで力を注ぐものは國語でなくして實に漢文である、然もその形式的修得に苦しむのである。この點からいへば白文の如きは更に何等の効果も見出すことが出来ない、之等を要するに悪く極言すれば一つの軸物などを讀む爲に多大の時間をさいて之にあてるにはその犠牲があまりに大ではあるまいか、然も尙事實上殆ど讀めないではないか日支交際の爲にその必要を認むるとならば所謂漢文を課するよりも特殊の商業學校等に別に時文を講ずるが得策である。されば現在の漢文は之を廢しそのかきくすしにして國語讀み化したるものを國語科に攝取したならば併て最も肝要なる國語教育を如何に徹底せしめ得るか知れないと思ふ。

四 英語科程度引下げ案と翻譯局設置

今日の中學校に於て英語教授は何の爲になされてをるか、勿論それは中學の教科目中に英語を入れた目的に従つてをるわけであらうが、事實は上級學校の入學試験にそれが重きをなしてをるが爲にその準備的教授を施してをるやうに感ぜられることが深い。

多數青年の最も旺盛なる精力の大部分を之が修得に費し、然もその幾何が眞に生涯中之をマスターし有効に使用し得るか、所謂原書を讀み得んが爲なりともいふが現在かくの如くして學びし英語を事實將來に活用し且つ直接必要とするものは甚だ少い。更にいへば相當の努力をしながらも尙苦しんで學んでをる者程將來に於て英語を必要としてゐないものである。それも大多數を占めてをる。

之を大量的に見てかゝる精力の浪費並に澆漓たる意氣の消耗は國民能率増進上大なる障害をなすものである。然れば一般としては中學教育に於ける英語は之を現在の中學三年程度に引き下げ尙特別教授の爲には別に選科を設けて之を授くるが最も策を得たるものであると思ふ。

かくいへばとて吾人は今日の日本の文化が最早外來のそれを決して必要としないといふ意味ではない。更に一層之が輸入を

はかり國家の進歩に資せなければならぬが、その爲には一方文部省等に一大翻譯局を設け刻々に權威ある翻譯物を出して之が紹介の任に當るが最も適切である。勿論それには多大の費用を要し且つその構成人選等に當つては甚だ困難をとまふべきものならぬ彼の國民精力の浪費に比すれば確に九牛の一毛に過ぎない。

五 四年制度可也の説

中學五年制可なるか四年制可なるかの問題はこゝ數年來常に論議されつゝあるが、今猶之が徹底せる解決を與へられてゐない、それが爲に生徒はその趨歸に迷ひ四年を以て中學を卒業せるが如き感を抱き五年に進級しても、其の一年は多くは上級學校の入學試験準備的に考へ、正課たるべき三角や立體幾何等を眞面目に學修するものは殆どなき状態である。然らざるものは單に中學卒業の資格を得んとして有耶無耶に過しゆくものである。かくして生徒の學修振りに平靜をかき學校全體から見ても可成秩序を亂さるゝ點が多い、然らば斷然四年制を採用すべきが如きも一方現在の中學校制度のもとにあつてはそれは確に不完全のそしりを免れない。この制度を改革せざる以上依然として五年制を持続すべきである、然も尙國家社會の進運は一日も早く人材の養成を期して止まない。於是さきに述べたるが如く中學の學科目より漢文科を廢止し、更に英語科の程度を引き下げこれらに費したる多大の精力を他の須要なる學科に傾かしむるに至らば、自ら中學四年制の可能にして且つその有效なるを直に首肯し得らるべきものであると信ずる。

我等の児童を如何なる職業に指導すべきか

谷口政秀

『人生即ち職業である』とまでは極言出来ないとしても人生の大部分は職業的生活である。人生の幸福！それは職業が齎らす結果であつて、適当な職業であるか否とによつてその者の生活が幸福であるか、不幸であるか、人生々活に興味と活氣とを以て不斷の努力を持続し得るか、但しは狹隘なる天地踰踏し疲勞に次ぐに倦怠を以てあへぎ／＼單調なる人生を送るのであるかどうかと定まるものである。學校の規定の學課を終つて活社會に發足する児童は實にその分岐點に立つてゐるものであつて、好運に掉さすと悲劇の一幕を演ずるとは一つに職業選擇の如何によるのである。

少年相談所の門を潜る児童をみても震災前後とは各人の職業に對する態度に恐ろしい相違が出来てきた。考へも昔のやうに輕薄ではなくなつた。一般に職業に對する浮腰ではなくなつたのは悦ぶべき現象ではあるが、それでも未だ職業選擇の方針を誤まつてゐないものがないとは云へない。震災直後（大正十三年二月より三月にかけて）東京市少年相談部に於て調査した處によれば、未だ職業と生活について少しも考へてゐないやうな者のあるのが窮はれる。

第一表 卒業期児童の希望職業

希望の種類	實數	比例
上級學校	三、九七七	六四・〇
専門的職業	二四	〇・四

實務的職業	實數	比例
商業	二六四	四・〇
特種營業	七〇四	一一・〇
技術職工	二〇	〇・三
運轉職工及勞働	九四五	一五・〇
純粹勞働	四四	〇・七
未定	一〇	〇・二
合計	三三〇	四・四
合計	六、一八九	一〇〇・〇

百十人といふ將來の職業について未定のものがある。これは數に於て或は割合に於て多いものでないかもしれない。然しこの児童達は興味のない職業に志してゐる。その人達の目的は死んで悲劇の主人公とならうとしてゐるのである。彼等には恐らく日は照るまい失業者の出るのはこの内からである。喧嘩と犯罪と貧困と無知の生まれるのもこゝからである。この心配のあるのは特種營業を望む者と半勞働者の内にもこの不安が付纏ふてゐる。彼等は自己の力に依頼してゐない。ブルームフィールドは勞働者となる者の大半は能力のある人間であると云つてゐる。彼等もそれではあるまいか、自分達の能力を知らないでゐるのではあるまいか？ 然らば如何なる職業を選択すればこの恨みを一掃し得るかといふにそれは児童をしてより技能を必要とする、より知能を必要とする職業に就かせることである。何故これが必要であるか、無知なることが反つて幸福な場合を幾度も經驗する。樞要な地位に置かれることが無上の苦痛である場合が一再に止まらない。職業的地位は苦痛とその責任を増すことではないか？ もし人間が自由を愛するとすれば勞働者の方が反つて身も心も自由ではないか？ 假令生活の脅迫があつてもそれさへ忍ぶなれば至極のんきではないか、よしやそれが單調であるとしても。

我等の児童を如何なる職業に指導すべきか

然し吞氣を受する人間がこの世で只一人で生活するにあらざれば、即ち全ての人類社會から離れて孤獨な生活をするにあらざれば絶対のんきといふものはない。即ちその人にもし妻があれば既にのんきではない。況んや子供でもあれば安逸は安逸のみで終らないのである。故に職業選擇に最も必要なことは自己に適當せる職業でなければならぬ。自己の適業は深い興味を以てそれを營むことが出来るからである。そのみか或程度に有意義な人生を送ることが出来るからである。

第二に生活の安定を得ることが出来なければならぬのである。生活の安定は自己の職業が適業であることから多く起る。而して人類の存続と生活の意義とを破壊しないものでなければならぬ。生活の破壊は知識と能力と他人と接觸する態度に依つて決定されるもので、職業は不斷に知識と能力の減退を防ぐものである、而して妻も子も安全な生活と教養を全うし得るのである。

第三に家庭及び社會的安寧とその目的を破壊するものであつてはならない。職業が家庭の平和を破壊する場合が幾度もある。然し少くともそれを破壊しない職業を求めねばならない。更に社會の秩序を破壊し善良な風俗を保存し得ない職業であればそれは民族を粗害し且は人類の創造的進化を傷つけるものであつて、我善良な社會の目的にそぐはない他の分子である。これも適當な職業ではない。

第四に生命が安全であることである。職業を選擇する場合に以上の四つの條件が少くとも考察されなければならない條件である。

斯る職業を選擇するには是非とも澤山の職業について知識を持つて居らなければならぬ。職業的知識を與へることは職業を決定する場合の利益のみではなく、轉職を防止し研究心を養ふことが出来る間接の利益が附隨してゐるのである。吾人が適業と思つて職業に就いても更に他より適業のある場合には轉職はやむを得ざる事である、故に最初決定した職業は將來發展の見込のある職業であり、轉職等の必要の少ない生涯の職業でなければならぬのである。私が曾て二十名の大匠と其他政治家

十五名の將來の職業を決定し、目的をたてた年齢を調べてみたことがあつたが、それによるより十三歳より十八歳までの間で將來の職業を決定してゐる。更に實業方面をみると會社の社長が二十七名、總裁三名、會頭一名、事務十二名、常務六名、取締役十名、頭取五名、監査役二名、理事(銀行)一名、商會主一名、合計六十八名について將來の職業を決定し、青雲の想をたて、上京した年齢をみるとこれも十五歳より十八歳までである。その後は殆んど目的を變へないで幾多辛酸を舐めて自己の初志を貫徹してゐるのである、故に児童が將來の職業を決定するのは小學校を卒業してから數年の間に決行しその自己の將來を開拓しなければならぬのである。小學校卒業児童にして自己の將來の職業の決定してゐないやうな者は成功の出来ない人間といふてよいのである。これに反してその頃既に定まつた職業があつてこれに向つて専心努力をしたなれば誰れでも或る程度の成功が出来ると思ふのである。

英國の醫師でウイツドビーといふ人の研究した處にも斯ることがみへてゐる、即ち世界的成功をした偉人四十名について調べた處によると大半が最初から將來の職業が一定してゐてそれに向かつて進んでゐる。これによつても轉職する必要のない職業將來發展の餘地のある職業、轉職するとしてもまた自分が獨力で仕事を初めるとして、その出来るだけの腕をつける職業でなければならぬのである。よしや轉職しないで暮したとしても生活の程度が低くは吾人の人生は幸福ではないのである。大正十年から十一年にかけて神奈川縣社會課で生計調査をしたが、それによれば

第二表 業態別支出費 (百分比)

生活費	電車從行員	沖仲仕	人力車夫	大工及左官	雜業
第一	七一・五一	七七・〇一	八一・七五	七七・三八	八〇・三四
第二	一五・二二	一八・四四	一五・七九	一七・九八	一七・四一
第三	一三・二八	四・五五	二・四三	四・六四	二・二五

我等の児童を如何なる職業に指導すべきか

支出合計 一〇〇・〇〇〇 一〇〇・〇〇〇 一〇〇・〇〇〇 一〇〇・〇〇〇

この表に於て發見する如く技術を持つてゐる者は單なる筋肉労働者よりも生活が豊かであり、第三生活即ち準備費、扶養費、臨時費等が他の労働者に比較して技術のあるものゝ方が嵩んでゐるのである。これと同じ意味のことが職工の得てゐる賃金高によつても技術職工が一般労働者よりは能く知能を用ふるものは更に賃金が高くなつてゐることを發見する。

第三表 機械器具工業労働賃銀表

種別	大正十年上半期		下半期	
	賃銀	時間	賃銀	時間
旋盤工	二、三八圓	二、二二圓	二、二二圓	二、二二圓
仕上工	二、三四	二、二二	二、二二	二、二二
木型工	二、三三	二、三三	二、三三	二、三三
鑄造工	二、三一	二、〇八	二、〇八	二、〇八
鍛冶工	二、〇九	二、〇七	二、〇七	二、〇七

これは機械工業のみを示したものであるが、此の一般工業界をみても同一のことが云ひ得るのである。更に筋肉労働につくものと技術を必要とする職工との生活費は筋肉労働者は營養分を要求する爲に嵩むので、いやが上にも生活困難となるのがあつた。故に児童にはどうしても技術を必要とする職業か更に知能を要する職業へと導かねばならないのである。次に云つて置きたいことは義務教育を終へた児童ですぐ活社會に投り出される者と教育の關係である。學校を終つた人間は最早教育とは全然關係の断たれたものであらうか？ 最もその後それ以上教育を必要としないのであるかどうかといふに、教育は寧ろその後に於て必要とするものであつて矢張教育者の指導を更に必要とする。

十八世紀半から初まつた産業革命の餘波は遠く我國にも影響する處があつたのである。今まで各家庭で行はれてゐた産業が大資本の許に大工場で製作するやうになり。在來の年定期等は根底より破壊された形である。勿論これは制度の變化のみではなく思想上から來た結果でもあらうが、要するに分業が盛んになり仕事は一局部へ／＼と單純な作業の結びつけらるゝに至つたのである。この結果職工の作業はやゝともすると興味を缺き單調に流れ自分のしてゐる仕事は何んであるか、何の部分をしてゐるのか果して自分のしてゐる仕事は社會的に如何なる貢獻をしてゐるものか、而して社會の消費と販路の方面はどれ程で何處が何といふやうなことで、材料の生産地等は全然教へられないで一つの仕事以外のことには全然盲であると云ふのが今日の工場作業の状態である。

これは恐ろしいことではないか、もし本人が失業した際に適當な就職口のない場合には下等の職業に轉するか、または全然筋肉労働者となり降らねばならないのであるから、これは非常に人間の生活をして不安に陥らしむるものである。故に一定の職業的不具者となり終らねばならないやうに大體の知識を與へて、不斷から仕事に統一あり、研究的態度で以て暮らさなければ襲ひ來る脅威に失脚しなければならぬのである。更に恐る可きは人間の強敵が襲ひ來ることである。現在物質文明の進むと共に人間の不規則な、むらのある製法から人間を去けてより秩序あり、より生産率の高い力は所有主が時々刻々吾々の人間の筋肉労働の大部分を襲つてゐる、それは何といふに精巧な機械であつて今では殆ど全てのことが自動的に製作することが出来るやうになつてゐる。これは人類の生活を脅かすパチルスよりも恐ろしいものである。然し機械とは云へそれは人間の延長である人類意志の代償に過ぎないのであり。換言すれば機械は人間の一部分かもしれない（仕事をする點に於て）然し全部ではない。即ち人間の如く自由なる働と理性と教養とを有しては居らないのである、故に人間の労働は精巧な機械の爲に半減する時があつても、人は筋肉労働を機械に委ねて精神的仕事に従事するとよい。またそうなる可きである。其爲には是非とも教養が必要である。然し斯る時代が現實世界にその影を見せることは遠くないとしても、目下活社會に出る児童を襲ふかどうかは疑問である。要はその實現のあると否とに關係なく卒業後の児童には教育が必要なことは議論の餘地はないと思ふ。

職業輔導の教育と實業補習教育

岡 篤 郎

一 職業教育を始める時期

實業補習學校は勿論であるけれども他の種類の學校に於ても職業教育は青少年期の何時頃から始めることが最も善いかと云ふことは極めて重大な青年教育上の問題である。

青少年の身體の發育の程度と精神の發達の程度によつて何歳位から職業教育を行ふことが國民教育上に於て最も有效であり且適切であるかと言ふことについては、此れまで教育の實際家が相當に考慮したことである。けれども概して職業教育を開始する時期については國民の經濟生活の狀況とその國民が早熟であるか否か特定の個人的等性によつても必ずしも一概に斷言することは出来ない。

假令は英國では小學校教育を終了した許りの幼少年のものに直ちに職業教育を急いで授けることは決して善くないと考へられて居る。即ち幼少年の者には、普通の學科の外に特殊な職業的の教育を施すことになる。將來彼等青年が大に發育しやうとする心身の發達を阻碍する恐れがある——と云ふ一般的の教育的理想に基いて、なるべく職業教育は青年期に入つた後に此れを課すべきものであると言ふ風に信ぜられて居る。従つて年齢が滿十四歳位までになつて十分に身心の發達の基礎が確かに出來た上で、徐ろに職業的の知識技能の教育を授けて青少年が普通學科の十分な素養の上に職業的の教育を受けることを最も教育上希まじきこととして居る。

此れに反して米國に於ては兒童青年の境遇により家庭の事情に應じて出来るだけ早く此れを課することが職業教育上尤も有効であると云ふ理由の下に、滿十二歳若しくは十四歳までに職業教育を授けることが必要であると考へて居るものが多い。

特に中等程度の學校では職業教育はなるべく早く下級の學年から此れを教授することを必要として、全日の職業學校半日晝間學校パートタイムスクール、夜學校、會社、工場、公立の實業補習學校などに於ては何れも小學校を卒業したものに直ちに職業教育を課して職業學科目及び實習作業等には相當の努力をすることになつて居る。

かやうに英國に於ては職業教育を授けるのを十四歳以上が善いとして居り、米國では此れよりも遙かに早く十二歳以上から此れを始むべきものであると言ふ風に考へて居る。兩方の見方には英國風の修養的教育を重んずる思想と、米國風の實用主義を重んずる思想との對象が認められると思ふのである。此れは吾人が我が國民の教育に於て職業教育の時期を考究する上に大に参考になることである。

二 實業補習教育と職業教育

我が國の實業補習學校制度は公民教育と職業教育を施すことを目的として居る。けれども實業補習學校と言つても前期、後期高等科の區別があつて其の年齢も前期は大體に於て十四歳まで後期は十七八歳まで、高等科はそれ以上の年齢のものを教育するのである。

従つて職業教育は實業補習學校の重大なる教育上の仕事であると云つても嚴格な意味での職業上の教育は前期の年齢にある少青年の學力と其の心身の發達の程度では決して適當であるとは考へられない。であるからして實業補習教育は職業教育と公民教育とを授けることを目的とするには善いが前期は前期の程度で後期乃至高等科はその程度を考へて各々其の青年の心身の發達に適應するやうに無理のない教育を授けなければならぬことは云ふまでもない。

此の意味に於て實業補習教育は此れを三段に別けて職業教育の過程を考へることが適當である。

即ち實業補習教育の前期はまだ十三四歳までの年齢の少年に對する教育であつて、職業教育としては厳格な意味のそれではなくして實は職業の準備教育である。そして後期の實業補習教育は職業教育を授けるに十分な年齢に達したものに對して施す眞の意味の職業的教育である。

又後期以上高等科の教育は一通り職業教育の概要を授けられたものに更に一層精細な職業的教育を専門的に授ける高等職業教育を興へる時期に當るものであるが、此の高等職業教育即ち高等補習教育の時代に於て授ける職業教育こそ青年の年齢から云つても青年の實際生活の状況から考へても最も有效——有意義な職業教育を施し得る時代であつて實業補習教育の眞に實生活のために職業のために最も重大なる意義を有する時代は此の時期の教育であると云つてもよい。

三 職業準備教育と職業輔導

學校教育の内で最も教育の可能性とその必要性の多い時代は青年期であることは云ふまでもない。此の意味で云ふと我が國の中等程度の諸學校即ち中學校高等女學校實業學校等は國民教育の内でも最も重要な國民教育の部分を含めるものである。

我が國の中等程度の諸學校の教育の現状を見ると其の中には改善すべきことは少なくない。試験制度によつて生徒を無益に苦しめたり徒らに上級學校の教育のみ没頭するが如きことも其の一例である。しかし此れよりも更に恐るべきことは中等諸學校の生徒が甚しく中途退學をすると言ふことである。

中途退學には或は病氣から又家事の都合から學業の成績の不良からなどが原因になるものであつて其の事由はいろいろあるであらうが、何れにしても中等程度の教育を受けたいと云ふ希望と勇氣とを一般青少年が持つことはよいが、本人の事情學業の成績心身の状況を顧慮せず漫然として中等學校の門に集まつて漫然と中等教育を受けると言ふことが中等程度の諸學校の生徒に中途退學を甚しく多からしめて居る理由になつて居ると思はれるのである。殊に中等程度の學校に入學することを單なる父兄又は本人の虚榮心の満足のためにと心得て居ると言ふことから、折角入學しても中途に於て志を棄てると言つたやうな

ことが少なくないことは甚だ遺憾である。

大正末年に全國の公私立の中等學校を中途退學したもの、調査表によると、毎年中等程度の諸學校を中途に退學するものは約二萬人に近い多數であつて、此の中で半數のものは高等の諸學校に進學するもの死亡するもの又は病氣で退學するものであるが、中途で退學して實業に従事するものが三千人であつて家事上の都合で志を變へて他の學校に轉學するものが八千人の多數に達して居る。それに中等學校の五ヶ年程度のものでは第二學年と、第三學年とに最も中途退學が多くて此の兩學年の退學者だけで一萬人に近い多數である。

此の事實について考へて見ても現在の中等程度の諸學校に入學する多數の青少年は其の入學の初めに十分に堅固な決心と將來の職業の選擇について周到な用意を缺いて居ることが察せられる。職業指導と職業輔導の教育は我が國の中等教育に於ては將來十分の注意を拂はなければならぬと思ふ。

四 職業輔導と前後期の教育

小學校を卒業したものが直ちに社會生活の荒波に押し出されて職業に従事すると言つても決して彼等の心身の發達の程度では將來の永い計劃の下に十分な熟慮の上で此れを選ぶと云ふことは出来ないことは勿論である。

従つて小學校の卒業者は大抵思ひ付きの職業に投じて行く先のこととは考へることはしない。所謂行詰りの職業即ちブラインド・アルレーと云つたやうな仕事に従事する新聞の賣子花賣り走り使ひ給仕と云つたやうなものはそれである。

男	職業	人 數	女	職業	人 數
	農夫	四〇		學校教師	七六
	機械師	二六		速記者	七一

行詰りの教育は思ひ付きの職業であり出まかせの仕事であるから決して永續するものではない。此れ等の出まかせの職業に青少年が飛び込むのは父兄の獨斷によつて他の職業を羨望して本人の才幹を考へず

米國兒童の選擇した職業

電気技師	二六	音楽教師	三二
小賣商	二二	家事取締	二三
機關車技師	一九	婦人服仕立屋	一六
簿記係	一九	看護婦	一五
辯護士	一七	簿記係	一三
土木技師	一五	小賣商手代	一一
小賣商手代	一五	女子服装品商	一一
大工	一〇	女工	一〇
職工	七	召使	四
記者	五		
建築技師	五		
鐵夫	五		
行商人	五		
鉛工	四		
牛肉販賣商	四		
馭者	四		
音楽師	三		
定置機關技師	三		
配車係	三		
鍛冶工	三		
人足	三		
麵粉製造人	三		

して徒らに過大の希望を以て青少年に職業を強ひること、今一つは青少年がまだ十分に職業について自覚がなくて適當な職業を選択することが出来ないと云ふ理由にもよると思ふのである。

嘗て米國のスプリング・フィールドの小學校で男女の生徒各々二百数十名について自由に職業の選擇をさせたことがあつた。其の際男子には百五十種の職業の中から二十四種の職業を又女子には三十種の職業から十一種の職業を上表のやうに選擇したのである。

上表に依つて見れば男子に農業の希望の多いのは土地が農業地であること及び女子に學校教師の希望が多いのは米國の小學校には女子の教師が大部分である結果である。又男子に技師機械師の希望の多いことは此の時代の少年の心理から當然のことである。

此等の點から考へても實業補習學校の前期時代の職業準備教育は少年に適當なる職業を選ばしめるた

めには最も大切な教育であつて、此の前期時代の教育は後期高等科の職業教育よりも寧ろ根本的に大切な教育であると云はなければならぬ。小學校の義務教育年限の延長如何に係らず職業輔導に關する實業補習教育は此の意味に於て將來ますます注意しなければならぬ。

又後期に於ていよ／＼實業教育を施し職業教育を授ける場合に於ても前期の教育と同様に職業の選擇については十分の注意を用ひて都市の商工教育は勿論、農村でも二三男の教育などについては職業の選擇を過まらしめぬだけの努力をしなければならぬ。

五 實業補習學校に於ける職業輔導

青少年のために其の將來の生活に適切なる職業を選ばしめることは有意義——有效なる職業教育を青年に與へる前には必ず考慮せられなければならぬことである。

少年に對して職業を紹介するところの少年職業紹介の事業は我が國でも最近には非常に發達した。内務省の社會局や文部省などでも少年の職業紹介については小學校長と市町村の少年職業紹介所との連絡を圖らしめることにとめて、なるべく圓滑に少年が職業を得るやうに努力するやうになつた。此れは誠に青少年のためにも國家の産業の發達の基礎を作る上からも喜ばしいことである。

しかし職業の紹介は寧ろ青年少年の教育指導の上から云ふと些細なことである。職業紹介よりも更に根本的に更に重大なことは青年少年に職業輔導の教育をすることであると思ふ。

職業教育を施し職業準備の教育を青少年に與へて彼等に實際社會の仕事に於てよく役に立つと共に將來も相當の發展と進歩とを遂げ得るやうな仕事を選択して、此の仕事について相當の知識と技能とを授けて遣ることが必要である。

此等の仕事は眞に青少年に對する職業輔導である。單純に紹介の件数を以て事業の成績を誇るのとは一つの事務であつて決し

て教育ではない。吾々は實業補習教育に於ては常に職業輔導と言ふ精神を以て有益に實際的に職業教育を授けると同時に彼等に又適當な職業を得しめるやうに職業の相談指導を與へなければならぬ。此の意味の仕事は職業輔導と稱して單なる事務的の職業紹介と厳別したいと考へるのである。

かやうに實業補習學校に於て青少年の職業輔導を十分に行はうとすれば次の事柄が必要である。

第一に有益な職業の相談に應じて實業補習學校に在學する青少年をしてよく將來の職業について熟慮せしめるために職業相談會を學校に設ける必要がある。第二に此の職業相談の教育事業の成績を良好ならしめるためには青少年の職業に關する調査をする必要がある。此れには必ずしも専門的の學者や心性調査の機械を必要としないが、青少年の目的調査や才能成績調査又は産業調査職業衛生調査社會的施設の調査徒弟制度の調査などを十分にして置く必要がある。

第三に職業輔導の教育としては實業補習學校の生徒に職業の種別と其の特質等について詳細な實際的の事柄を教授して同じく農業でも農業經營上の種別について知らせて各々その特質を知らせて置くことが必要である。又父兄に對しては講演會父兄會を開いて時々職業の組織、職業の種別について十分に理解せしめて職業の選擇職業に従事した上の心得などを知らせて置くことも必要である。

かやうにして青少年生徒と其の父兄のために十分に職業に對する自覺と、此れに従事する上の心得を知らしめて置けば職業紹介は頗る簡單である。それ許りではなく職業に従事する青少年が傍らに於て實業補習教育を受けながら職業にも眞面目に將來のために學校の教育にも熱心になることが出来る。其の結果は職業上の技能にも熟練し實業補習教育の効果を高めることが出来るのである。

實業補習學校の經營を最も社會的に、そして地方的に有效なものとしやうと思ふならば、將來は都市の實業補習學校等に於ては是非共職業紹介の仕事も行つて學校の教育を社會化することが必要であるが、更に青少年の職業輔導によつて職業教育を

實際的に指導して青少年の職業と生活とを極めて密接に結び付けて、有望な永續的の職業に従事せしめると共に此の職業的生活に於て尤も能率の高い仕事をする事の出来るやうに、青少年の職業生活を開拓せしめるやうに、實業補習教育を授けるとに努めなければならぬ。

職業輔導に關する施設として實業補習學校に於て職業相談係、職業調査係、職業知識の普及講演會等を設けることは、現今の實業補習學校の經營上に於て大に考究しなければならぬ重要な問題である。

學校經營と能率増進問題

水野常吉

一 『能率増進』は世界的の標語

世界大戦後各國は競争的に能率問題討究に没頭して居る。此の問題は食糧問題、燃料問題、富源保存問題に適用せられ經國家、實際家が鋭意其の研究を怠らざる状態である。特に米國に於ては前世紀迄自國が無限の富を有せるものとし之に安んじて居たが、大戦中並に戦後に至り其の反動的傾向を來すに至つたのである。即ち從來自國民が無責任にも森林、鑛山、河川等の將來を考ふる事なく、富を濫費せる事を覺りて今後は富を保存し之を濫費せぬ様に注意するに至つた。而して富を濫費するに至つた原因は多々あるべきも仕事及び勞働の適否を考へず、偶然の方法に由りて力を徒費せしむる事が其の主たるものであるとして二大運動が起つた。元來此の二者は別箇のものであるが其の向ふ所は一つである。即ち社會經濟運動で之を根本的に解決せんが爲には共に心理學に待たねばならぬ點は一つである。抑も其の二大運動とは何かといふに一は吾人が本省講習會に於て高調せし職業指導であつて、他は科學的管理法である。テーラー氏の所謂科學的管理法、又はエマーソンの能率十二則、ミュンステルベルク氏の産業能率の心理、又はフランクリン氏の能率上の實際等によりて能率問題を高唱し、各種の産業に適用して人間能力の活用を實施するに至つたのである。此等の原則の要點は各事業を組織的に分解研究し以て徒費を防止するに在る。

二 學校事業の能率増進

如上の原則の適用は各種の方面に及んで來て遂には學校も結局頭腦鍛錬の工場であると考ふる様になつた。随つて其の機關の活動にも之を組織的に分析研究を試みたならば、其の所謂徒費を省略し得る事少なからざるを覺つて來た。勉學すべき學科の内容は徹底的に生徒、後年に役立つものとせねばならぬといふ強き考に進んで來た。同時に生徒の能力が訓練され修練される方法の上にも此の原則を適用せねばならぬ事となり、各種の統計的調査の結果學校の全組織を通じて學校に於て勉學を指導し誘導し、而も能率高く各人の能力を培養せしむる事の缺陷は全組織中最も弱點とすべき所なりとの結論に到達するに至つたのである。實用を重んじ實際を尊ぶ米國の教育制度にして、然かも此の大欠陥ある事を痛感して居る今日、よしんば東洋の君子國の教育法案なりとはいへ此の時代的傾向を看取する事なくんば憂を千歳に残さぬとも限るまい。日本に在りて多年日本青年の教育に従事せる一英國教師は「日本程卒業免狀を所持し居る者の多い國はない。學生の勉學は此の免狀を得んが爲の勉學である。然して其の禍根に三つある。一は教育制度の罪、二は實業家が極端に免狀を重んじ過ぎるの罪、三は學生本人の罪である」と論じて居る。實に穿ち得て妙ではなからうか。否他山の石大に玉を琢くの資となすに足る言ではあるまいか、又實業界の柱石澁澤男爵を筆頭とせる有力なる一團が宣言せる教育制度改造の叫びは吾人の記憶に新しい印象を與へて居る。其の改造の具體的方案に就いては未だ確定しないといふのであつたが、其の後の調査研究果して何邊迄進んで居るかは知らない。此の宣言に對する一二の批判も讀んだが、兎に角實業界方面からの叫を聞けば世界的思潮が然らしめたもので、決して實業界の人々が日本教育家の迂遠を非難した言と解すべきものでなく、大に提携して益々協心同力、研究調査の歩武を共にし以て國家百年の大計を創定すべきものと思ふのである。吾人の高唱しつゝある職業指導の問題の如きも比較的實際方面の適用尠しとせられて居る。獨逸は數年來教育官憲、實業家、教育實際家が三の鼎となつて攻々攻究を進めて居るのである。由來教育事業の効果は各種生産事業と異り全部數量的に測定し得べきものではない。勿論或る點迄は現代の進歩せる教育的測定により一般傾向を知り得べしとするも、全部の効果は測定し得ざる事を吾人も承認するのであるが、在來の我が國教育制度一面の弊である「教育制

度の爲の教育といふ事は百方手を盡して改善せねばならぬ喫緊の重大問題であると思ふ。眞面目に國家教育の將來を憂ふる實業家團の叫は吾人教育の衝に當り居る者の大に攻究せねばならぬ所と思はれる。

三 實業界の先覺者に對する献言

吾人は毎日新聞紙に表はれたる實業家の教育改善の叫を視て大に喜んだ一人である。そは今はソーシャル、コオポレーションの時代であるから如何に必要な改善を試みんとするも有力なる實業家等の協賛を待たねば其の決行を期し難い事を知るからである。又如何なる實業も確立せる教育の力に待たねば其の眞の發展充實を期し難い事は吾人の贅言を要しない。吾人の眼前に毎日提供され居る消費節約運動、生活改善問題、失業者の職業問題、普選問題等にしても吾人をして言はしむれば我田引水ではないが一として教育、學校、教職員の力を待たずしては決して徹底せしめ得ざる事を斷言して憚らない。又茲に着眼せずして宣傳を試みんとする者は結局勞して効空しの悲嘆を發せざるを得ざるに至るであらう。一步地方に出て、宣傳を試みたる者は皆一様に學校に恃まされば何等の活動も徹底し能はざる事を體驗するであらう。茲に於てか吾人は實業界先覺者に献言したい。未だ教育改善の具體案が無いとならば單に實業家のみを以て組織する調査が不徹底であらう。又教育學者の言ふ丈でも足りない。都會にも、地方にも時代の要求に適應せんと苦心し居る幾多の教育實際家を探し出して其の調査又は研究の一部を委嘱せねばならぬと思ふ。勿論眞の適任者は容易に得難いかも知れぬが少くとも斯かる態度は無ければならぬと思ふ。次には其の實行方案に就てある。眞に徹底せる改善機關を組織するには相當の費用が入用である。此の世界的不景氣な時代にそんな速急に必要でもない事に出資するのは効果が上らないと考ふる人もあるかも知れないが、それは大なる誤である。かかる財界の不安定の際に大企業を創始すると思はざる損失を蒙る憂がある。故にかゝる際は事業は緊縮して大に調査研究し他日の大活躍の準備をなさねばならないのである。不景氣であると言つても何處にも無い譯ではない、大に出したいが安全にして有益なる事業がないので出資に躊躇も要するのである。然し如上の調査機關の如きは國家百年の大計を樹立する誠に有益に

して其れにより將來受くる莫大の利益と比較するならば實に九牛の一毛にも當らざる小額である。或る實業家は資金を何に善用すべきかに迷ふて居ると言ふ噂も聞くのであるが、かゝる人は是非共此の種の調査機關創定の爲に出資しては如何なるものであらうか。米國カーネギー・インステテュートや、ラッセル・セージ、ファンデーシヤンの偉業を視察した實業家等はかゝる機關の十分の一のものでもよいから着手するの卓見を實現せられては如何なるものであらうか。眞に教育の力の偉大なる事を考へ目前の小利を捨て、も此の遠大なる國家民族發展の上にも意義ある事業を創始せられては如何なるものであらうか。

四 教育の實際化に二大方案あり

教育の實際化には二大方案がある。曰く職業指導問題、曰く教育問題の科學的管現之である。此等の兩問題は何れも心理學的調査を要求し統計的材料の蒐集を要し、機關新聞雜誌を要し、調査委員を要し、一般會社の協力を要し、各種パンフレットの出版を要するので、此の實業補習教育研究會の如きは其の一部を分擔すべきものであると思ふ。要は兩者共我が民族活動能率の増進にある。されば此等の機關を政府の事業として着手するを許さぬ事情ありとせば須らく實業家が發奮して此等の事業と協力するも結構と思ふ。學校經營の眞の能率を増進せしめんが爲には是非共此等の調査機關と提携せねばならないのである。吾人は以下に此等の問題に關し逐一論述を進めて見たい。

五 能率とは何ぞ

先づ吾人は其の時代思潮の根源をなすと迄高調され、各國各人が競ふて發揮せんと努め居る能率とは果して何を言ふかを研究せねばならぬ。能率とは各種の場合に聞く言葉であるが、いざ此の定義となると未だ明かになつて居ない。然し試みに此の正しき意味の能率の定義を下げば次の如きものと信するのである。曰

「現代かくある自分が、かくあるべき自分に到達する最良、最速、最易の方法を發見し、之を實現する心身の才能を稱して個人の能率といひ、之が一主權者統治の下に綜合せられて發揮する活動能力をば國家の能率といふ。」

此の能率問題を研究するにも其の哲學的基礎を明らかにして置かないと自分では最良、最速、最易の方法なりと思意したとしても或は誤れる發見であるかも知れぬ。故に此所には正しき自我観が必要になる。即ち現在に自我と意識されて居るものが現在に要求して居る事を直ちに最高の權威として其の要求のまに振り舞ふて以て其の個人としての能率を發揮したと考へたならば、之は自我観の誤りより來るもので眞に個人的能率を發揮したのではないのである。

自我には現在かくある我として意識されて居る自我に對してかくあるべき我と意識される理想としての自我が存在する。此の理想我として現在我を發展せしめ行くといふ事に能率の意義があるのである。理想我と没交渉な、盲目的な、衝動的、本能的に現在我の要求の動くがまゝに活動するなれば、其の能率は動植物の能率であつて個人の能率發揮の意味はない。是れ即ち「現在かくある自分がかくあるべき自分に到達せんとする」と能率の目的と示した所以である。扱て此の目的を達せんとする方法にも種々あらうが、能率の要求する所は最良、最速、最易の方法を理想とするのである。又此の個人我を一面から觀察するとは之は單に個人に限られて他とは全く離別的に存在して居ては意義をなさぬ。即ち個人の自我といへば必ずやそれと一體不離な他我がある。総合的に言へば前述の個人我を内容とする集合我又は國民我がある。此の國民我は他の個々の自我と國家的に全く一體の自我である。換言すれば一體普通の國家我が吾々個々の自我を分化し生かしつゝあるものである、決して個體を限りとして見出されるものでない。故に其の理想も決して其の個體に没頭するによつて見出されないで國家と一體の自我として見出されるものである。即ち一體普通の國家我の理想を其の個人といふ立場に於て見出した時、それが個人の理想となるのである、かくて個人我と國家我とは完全に調和するのである。如上の説明は個人對國家に例を取つたのであるが個人對學校、個人對各種團體との關係も根底は茲に在る、故に將來の學校經營者は此の意義を體得して各生徒の各教師の各父兄の各學校の活動能率を増進する様劃策せねばならないのである。此の理想の境地に到達して始めて理想的の個人の活動能率増進、又は理想的の自由教育を實施する事が出来るのである。

六 二種の能率と國家の興亡

前段の論述より自然に派生する如く能率には二種ある。一は個人の能率で他は集合能率、又は團體能率である。此の個人能率發揮を重んずるは之れ平等を高調する次第で、集合能率發揮を重んずるは差等の慣例を高調する傾向となるのは自然の望である。國家によりては前者を重んずるものもあれば又後者を重んずる國家もある。大戰前及び大戰中の獨逸は徹底的に後者を重んじ、英・米・佛は個人的の能率發揮を重んじ而もフォッシュ將軍統率の下に團體能率發揮を努めた結果遂に集合能率極端に高調した獨逸を壊倒した。即ち彼の世界大戰は吾人に教ふるに實例を以てし、集合能率のみを高調した國家は遂に兩能率の調和的發揮に努力せる國家に征服せられた事を教へて居る。

元來差等の觀念なき個人能率發揮のみにては眞に徹底した集合能率を發揮する事は不可能である。此の事實は戰時中米國民が嘗めた苦き經驗であつた。米國の開戰當時に宣言したデモクラシーのみにては莫大なる犠牲を拂ふ事なしに戰爭の目的を果し得ない事を悟るに至り、遂に戰爭半ばにして半オートクラシーの國是に變つたのである。斯くて米國にて高調し實行し居るデモクラシーは決して差等を認めざる各個人が勝手氣儘に振り舞ふ意味のものではない。然るに我が國一般人の腦裏に入り來れるデモクラシーは集合能率發揮等を眼中に置かず、更に差等的服従の意味を有せざる淺薄な意義に變化して流行して居る様である。斯かるデモクラシーの國家となつたら國民は決して眞の自由を樂しむ事は出來ないであらう。殷鑑は遠からず其の實例を露國に視るのである、又支那に見るのである。然るに翻つて日本は如何かといふに余は如上の二種の能率を調和的に發揮するには最も都合よき國柄になつて居ると信する者である。帝國が建國以來實に世界無比の國體を有し施設の方針には多少の浮沈にあつたにもせよ、大體に於いて個人的能率の發揮に努力し來り最近に至りては益々其の調和的發達に努力して居るのである。斯く言へばとて勿論完全を圖るには世界列強中何の國よりも都合の事情の下に置かれて居る。前段に於いて論述せる如く國家は一切の個人を内容として居る故、國家にも個人の場合と同じく現在我と理想我とがあるべき筈である。而して國家

の現在我とは斯くある國家の意識する所のもので、其の理想我は斯くあるべき國家と意識する所のものである。然るに我が國家に於て有難い事には萬乗の主君の御心とせらるゝ所は、或は

四方の海みなはらからと思ふ世になど波風のたちはくらはん
葦原の國富まさむと思ふにもあを人くさそ實なりける

と仰せらるゝ如き國家として國民として其の理想と一致する主権者を載き居るを以て實に我が主君の御心は國の理想我と一致して居るのである。斯かる國體を有する我が國に生れたる吾人は世界中最も幸福なる國民であると思はれる。殊に數千年來東洋獨特の倫理や哲學の教養を受け來れる東洋人には我が國體の如き統治の下に於いて最も都合よく自由を享樂し、個人としても亦團體としても眞の能率を發揮し得るものなる事を忘れてはならないのである。

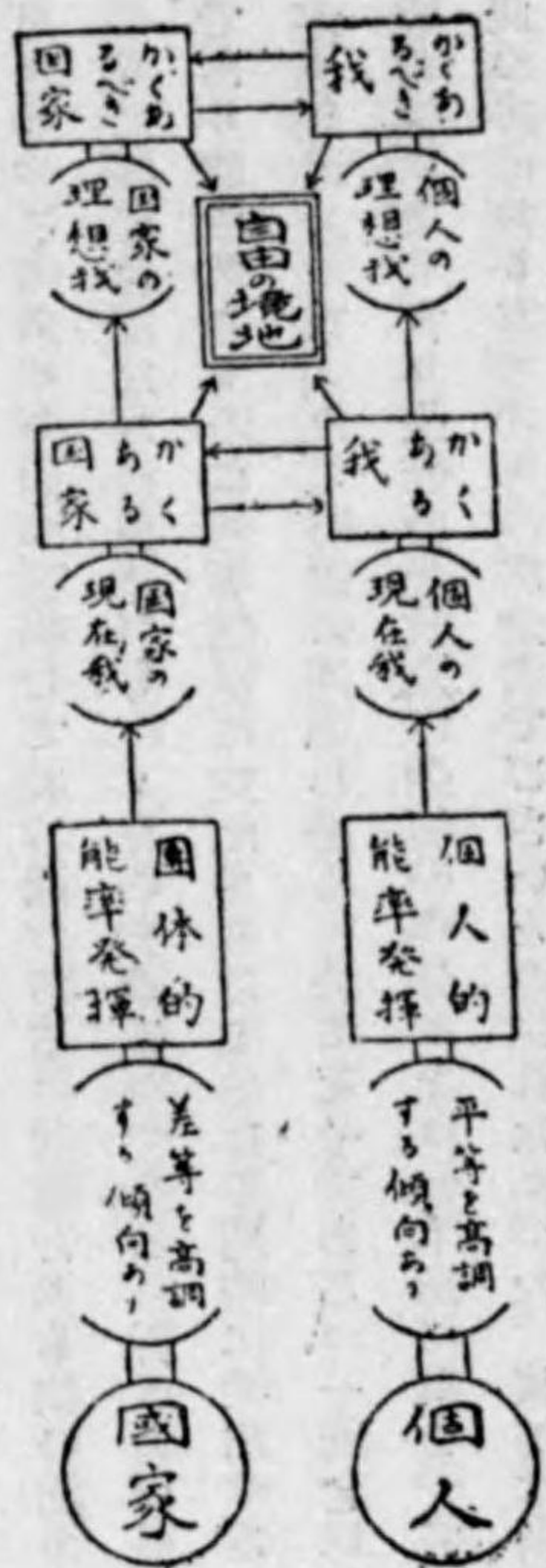
されば國家としての能率發揮に努力せられ、又補成の任を果し得らるゝ經國家は益々各個人的能率發揮に盡粹せらるゝと共に健全なる團體能率發揮に努力せられ時勢進運の基調をなし、國家民族發展の根柢たる能率増進の理法に適合するものたらしめられん事を希望してやまない次第である。是と同時に學校經營の大任に直接從事せられ居る各位は其の施設、經營の根本基調を何れも如上兩能率を圓滿に調和せしめ、發達せしむる様立案し促進せしめられたい次第である。斯くあつて始めて榮え來れる我が國體の精華を愈々健全に發展せしむる上に偉大なる貢獻をなすであらう。

七 能率問題と自由教育

最近自由教育の問題は盛に論議されて居るが、若し此の自由教育にして現在に自我と意識されて居る者が現在に要求して居る事を直ちに最高の權威として其の要求のまに／＼行動し、生活し、成長せしむる事を以て自由教育の本義として居るものならば之は甚だしき誤である。前段能率の説明に於て叙述した様に生徒又は學校、或は國家の理想我を以て現在我を統制し指導し行く所に自由の境地を見出せんと努力して行く意味の自由教育にして始めて眞の自由教育の意義を有し、其處に大なる克

己も自制も必要なものとなるのである。何處を尋ねたからとて克己自制の無い自由の境地は發見することが出来ない實に眞の自由は眞の從順に伴ふものである。勿論此從順は他に對する屈從を意味しないので自ら眞の能率を發揮せん爲の自己創造の過程によつて得たる理想我に對する從順である。

詳言すれば吾人の共鳴する自由教育は生徒の現在我を修練して斯くある我をば斯くあるべき我に意識さるゝ様、換言すれば生徒の理想我と現在我とを一體のものとして自覺せしむる様に努力する教育である。術語を以て説明すれば現在我を理想我として創造せしめ行く教育、即ち全我の自己創造といふ意義を存する教育である。然るに上述の如く個人我は離別的に存在するものでなく、社會なり國家なり其の理想我と共鳴するものであるから個人の理想我が國家の理想我と交流する調和點が即ち眞の自由の境地である。此の關係を圖表を以て示せば左の如くなるものと思ふのである。



見に角眞の自由教育に於ては青少年時代に傾き易き自利的精神を以て單に個人的能率を發揮し、然も現在我の儘に行動する事なく團體的能率發揮の目標たる理想我として自己を律し、行爲を創造し行く根本精神を體得する覺悟が絶対に必要なのである。茲に兩能率は調和し眞の自由の境地を發見し得らるゝものである。生徒は生徒として十分自己の長所を卑下する事なく適才を十分に暢達せんと努力すべく、同時に其の生徒間にも各種方面に差等ある事を念頭に置き、各人の長所を尊重する事を忘れず學校長、教職員、生徒、給仕、小使に至るまで共に修養團體の一員として平等の權利を有するものなるも、集合能率發揮の爲には統治者に服従し統治の目的を達せんが爲に各人皆其の長所を發揮しつゝ之を補成するの義務を果すに於て其の學校の自由主義は名實共に其の美を濟すに至

るであらう。之れ我が横濱高工長の採れる主義の一端である。

八 智識を廣く世界に求むる襟度

最近説をなす人あり曰く、「其の考は善し、然し之は米國の模倣なるが故に賛成し難し」と、吾人は説者思索の過程に疑を差挟む者である。其の考は善と納得するも米國の模倣なれば何效に賛成し難き理由が有るか。由來米國其のものに對して一種の僻見を有する傾向は今尙ほ存在して居る様である。勿論吾人も彼の國の政策、風俗、習慣等には感心し難きものも有るが、吾人の彼に學ばねばならぬ多くのものゝ有るを識るのである。吾人教育の職に在る者は智識を廣く世界に求めよとの聖訓を奉し善であり眞であるものは何等感情に支配さるゝ事なく隨時に採用する襟度を養はねばならぬと思ふ。特に世界の大勢に鑑み我が國民は最も重大なる時機に遭遇し居るに於てをやである。一例を以てすれば米國戦後の消費節約問題である。過ぐる世界大戰の儲により世界全體の正貨及び金塊の半分以上は皆米國に集まつて來た、此の時に於ける米國民の態度方策である、彼等は此の時に當り直に世界の成金國でございと自惚れなかつた。彼等は斯かる次第では世界の他の國に金が無くなつて困るであらう、其の金を自分の金と思つて使へば國家が禍する個人も禍する、いはゞ一時預りをして居るので濡手で粟の掴み取りの如き金をムザ／＼使つてはならぬ。又戦争があれば儲かるかも知れぬが今後再び戦争は起らせてはならぬ互に戦争の惨害を目撃した以上如何なる方策を講じても戦争を未然に防ぐ様にせねばならぬ。然る以上は此の戦争によつてよく儲かつた金をムザ／＼贅澤に輕々しく使ふべきではない何か有用な方法で使はなければならぬ。歐羅巴に困難して居る國民があれば貸してやらなければならぬ。或は米國の將來に於て自分達が贅澤に使はずに海外に投資して將來の地盤を据へる、或は國の必要なる生産事業に對して金を使つて將來の輸出貿易に當ると云ふ考でなければならぬ。兎に角戦後を原形に復する必要があると云ふ事は國民も承知して居り、其れが一日遅るれば遅れる程國は貧乏するから一日も早く原形に直す様努力しやうと二三の者が言ひ出した、此の考は忽ち全國民に鳴り響いた。

それで資本家も中産階級も労働者も總ての者が夫々戦後調節の分前を持つと云ふ考で進み、其の結果資本家も決して暴利を食らない。生活の絶對必需品、食物、着物及び日常使ふ物に關係した物に對しては出来る丈廉くして生活の安定を計る、中産階級は中産階級で夫々消費節約をして無駄の無い様な生活をする、紐育のメルトン會社の如きは此の適例である。随つて出来る支贅澤の無い様にする。勞働階級は高い賃金を食らないで生活が出来れば賃金を下げ自分が高い賃金を食れば自然拵へた物は高くなる、海外に物を輸出するにしても高い賃金で拵へたものは賣れ無いといふので、總ての階級の人が戦後調節の分け前を持つといふ考で進んで行く、又此の方針に反する者があれば直ちに詰問するから自ら改めて行く様な状態である。此の消費節約問題は三年前から喧しく言ひ出した結果大體其の問題は一昨年迄に解決したと言はれて居る。即ち此の消費節約の爲めに二ヶ年間國全體に出来る物の二割の節約が出来たと稱して居る。製品は種々豊富になる随つて物價も下げて來る、製品が廉くなれば海外へ輸出する事が出来る、其の結果海外輸出貿易は戦後未だ嘗て米國は輸入超過になつた事が無いのである。物價は戦後三年頃から全部半分に下げ労働者の賃金は三割五分下げたさうである。之に對して我が日本は物價調節が後れ消費節約も漸く最近に聲高く聞く位なるため、又國民の自覺が足りないため戦争に由つて儲かつた金を共潰しをして居る。昨年僅かの輸出超過があつたにせよ一昨年は四億、一昨昨年は三億程も輸入超過になつて居るから容易に帳消しとならないのである。噫々！米國の模倣であるから賛成出来ぬと言ふ人も斯かる卓見は賛成しても善かつたではあるまいか。現代は善であり眞であれば何國の模倣でもよい國民活動能率増進の爲には萬難を排し猛進する覺悟が必要と思ふ。況んや我が國人口問題は吾人に大覺悟を有せざるべからざる秋であると高調して居るではないか。最近の米國センサスによれば一平方哩の人口三十三人なるに對し同年の我が國勢調査によれば一平方哩三百八十四人、本土のみを以てすれば四百二十九人が銷詰め生活をして居るではないか支那は二百八十八人、朝鮮は二百二人、臺灣は二百六十三人、滿洲が百六十五人、西伯利亞が二人、蒙古は一人、加奈陀が二人、濠洲が二人の割合である。消費節約問題、燃料問題、食糧問題、思ふて茲に到れば筆者はペンを投げたくなる。教育問題

思想問題、職業指導問題、何れも出發點を此の活きた事實に置かねばならぬ。吾々の時代は何とか保たう、吾々の子供の時代も益々苦しくは成るであらうがまた其の苦しき活動を續けるのであらう、孫の時代彦の時代其の次々々の我が日本果して如何になり行くであらうか。現代に生存し居る御互は何人も之を目睹する能はざるべきも、今にして企劃する所なくんば吾人は子孫のために恨まれねばならぬのである。現代の日本には切實に眞の愛國者を要求する、特に愛國者の好典型として歿後五十餘年を経たる今日盛名宇内に噴々たるかのグルンドウイツヒの出現を要求する。八十歳の高齡を以て其の身を終る迄二十有餘年の間丁抹國民の文明を進むるを以て念としたるが如き教育者を要求する。我が國教育諸制度中最も薄弱なりと痛感せられたる補習教育制度は其の緒に著かんとして居る。今日は日本のグルンドウイツヒ出現の好時期である咄々！ 他の出現を待つ迄もなく御互此の種教育に共鳴し居る者は皆大小のグルンドウイツヒたる覺悟をもたねばならぬではないか。感情に支配されて善と知り眞と信するも賛成出來兼ねぬる如き態度は改めねばならぬ。襟度は須らく大なるべきである。

九 職業指導の好時期は實業補習教育時代

元來青少年は自己の能力に就いて知る所は至つて尠い、若し他日其の長短所を知り得る時に達して初めて之を知るのでは事既に遅い。然るに在來の學校教育は十分自己を發見せしむる機會を與ふる事が尠い、其の結果は各人の職業を選擇するに外部的偶然的機會を基とし、或は僥倖を求め、或は徒らに模倣し、或は速かに資金を得んが爲め、或は樂を求むる爲であつて其の選擇を誤る事が少くないのである。そこで茲に是非職業を指導せねばならぬ事となるのである。左圖に示すが如く職業指導を與ふる最適時期は何時かといふに十二才より十五六才迄、換言すれば補習學校に入つて補習教育を受ける時代が職業指導を與ふる最適時期なのである。所が職業指導は比較的新しい試みなる所から在來の補習教育では未だ多く此の問題、此の施設、此の方法に關して觸れて居らない。然し新時代の要求から生れて來た此度の補習教育の大綱には是非共織り込まねばならぬ大問題と信する次第である。よしんば成又となつて表はれ居らぬにせよ此の職業指導の補習教育に密接なる關係を有する事は最早

Who 誰	When 何時	Why 何故	How 如何に
成功せる労働者	20	發展の機會	職業教育の補習
職業的不適任者	16-23	轉換の機會	新職業に對する補習教育
求職者	15-19	求職の機會	能力販賣の教育
青年	13-18	選擇の機會	職業教育指導
少年	12-15	準備の機會	職業準備訓練
幼児	1-12	發達の機會	感官の練習

何人も疑はぬ迄に進んで居る。只其の適任者を得ざるが爲に着手し難き状態に在る。職業指導は最早時に時日の問題で早晩下小學より上大學に至る迄關連せざるべからざる状態に在るのである。丁度此の補習教育時代の兒童は職業指導機關の助力によりて各人の特徴を調査し、職業に關する種々なる知識を供給し、並に其の自活的職業に於ける各人の地位を知らしめ、且つ又兒童の趣味と能力とに従つて職業を選擇せしむるに最も適當なる時期に在るものである。又一部分は一層高等なる學校に入學し、修業後相當の地位を得んと欲する人々であるが、此等の生徒も職業指導係と相談し入學せんとする學校を選擇が出来るのである。現在我が國で何學校に入學せんか等を定むるに當り、左せんか右せんか、甲にせんか、乙にせんかと躊躇する可憐なる状態は何れも其の出身小學校、或は中學校に於いて職業指導の設備及び方法に缺陷ありし事を證明して居るものである。

工業官吏醫業美術等の如き嚴格に分割されたる職業が分明し居り、又此等の職業もフランクリンの轉々と各種の職業に従事し得たりし時代とは異り、外套を仕立つるにも廿五種以上の明確なる分業あり、各分業には各適當なる能力を要求する現代であつて見れば心理調査、又は教育調査及び醫學調査、本人や父兄の希望、並に在來の一般傾向より推して此等の職業に對する特殊の適材ある事は容易に判別する事が出来る。次に我校にて此の目的の爲の職業的自己分解の表を掲げる(卷頭所載の通り)

産業能率問題より觀たる職業指導

秋 保 安 治

一 本邦現下の産業問題

我國の産業界は近時日に月に不景氣を呼び金融の硬塞、事業の不振、貿易の逆轉等何時恢復を觀るべきや何人も豫測し得ず、單に何れ其の内恢復の機運來るを待つの外なしとなす位の處に居るに拘らず、依然として物價は豫期の低落を招致し得ずして産業恢復に一大障壁を爲しつゝあるは實に現下の實情なり。素より歐洲大戰は殆んど偶然の機會とも申すべきであつて、所謂刃に血塗らずして勝ちたる本邦は異常の好運を産業界に招致したるものにして、斯る偶發的の時勢を根底として産業界の恢復を希望するは實に樂天地の夢を將來に實現せんと企圖するが如きものにして、企圖すること夫れ自身意義を爲さぬものはあるが、夫れにしても今日の如き不況を將來に繼續することは當然國家の基礎をも危ふする所以である。故に苟も現狀を知るもの等しく憂を共にし、研究を試むることは職業の如何に拘らず何人にも責任の存し、且つ怠慢を許さぬ問題であらねばならぬ。茲に於てか物價調節の聲も起り、生活改善の必要も強き響を與へ、或は消費の節約の宣傳となり、斯道の實際家も各々心膽を碎き努力をもする所以であるが就中其の中堅たり、重要さに於て第一位を占むるものは即ち産業能率問題なりとす。人皆歐洲戰爭によりて本邦の産業は最早や歐米の夫れの如き發達の域に達し、多年長足の進歩などゝて馳驅して歐米先進國に此度こそは追付いたかの如くに考へたのであつた。吾人も亦多くの商品は本邦の自給に依るを得るに到つたのみならず、戰時中は殆んど總ての先進國に對して本邦製品を輸出し爲めに貿易の額に於ても其の好況の頂點たる大正八年には將に四十三億

に近き巨額にも達した譯であるから世間の聲に共鳴する事を拒むものではない。然しながら此の産業界の旺盛と其の貿易狀況の盛大さには吾人は世人と多少解釋を異にして考へて觀たい。と言ふのは好景氣の頂點に於て四十三億の貿易額と言ふものは戦前の大正三年の夫れに比べて三倍六分に増加したなど喜ぶ世間の聲は空景氣を宣傳するには都合は宜しいが、事實當時の物價なるものと比較して觀ると、戦時中の我産業界の好況なるものも頗る怪いものに成つて來ることを忘るゝ譯には行かぬ。

大正元年を百とする我が國の物價の總平均は大正三年には九十六であつた。而して夫れが大正八年には實に二百三十八までも昇つて居るのであるから、大正八年の物價で大正三年の貿易品を測れば三十億六千萬圓となるので、四十三億と對照すれば僅かに十三億弱即ち四割の増加にしか成らぬ。貿易の金額は三倍六分で景氣が好かつたに相違ない。何となれば要するに金の高に於て多くこなすと言ふことは兎も角も經濟上一時なりとも景氣付いて觀えるからである、ではあるが我が産業其のものかから見れば大正八年の貿易品の數量は大正三年の夫れに比して總體的に僅かに四割の増加にしか成つて居らぬ。要するに吾々は戦時の好況と稱する其の現象を貿易などが三倍四倍したと言ふ風に觀るから今日の産業界が何か空前の苦しみの様にも考へらるゝので、之れを數量的に觀れば景氣の好い頂點だと言ふた處で僅かに四割の増加をする爲めの産業上の發展をしたに過ぎない。此の點に於て吾人は世間の人と異つた方面から現狀と對照をして觀たいのである。斯様な實相を有する大正八年の貿易額が今度は九年十年と輸入超過と逆轉して十年度の總額は輸入超過の三億六千萬圓を加算しても尙二十八億七千萬圓に落ちた、其間に本邦物價の平均は大正八年の二三八が僅かに二二四に下降したに過ぎぬ。此處が大問題の基本を爲すのである、若しも一般物價の指數を以て貿易品の物價を測量することが合理的では無いが、然し大勢を觀るには差支ないとするならば此の大正十年の貿易額は大正三年の物價に引直せば僅かに十二億三千万圓弱にしか當らぬ、然も大正三年の十二億二千四百萬圓の内には輸出超過の三百萬圓を含んで居つたが、十年の十二億三千万圓の中には輸入超過の數億圓が含まれて居ることに思ひ至らば我が産業界の現狀が如何に貧弱なるものであるか、極めて容易に判斷が出来る。此の以外の製産品は如何に數量の膨大を觀た

處で夫は共喰であるに過ぎぬ。然らば本邦産業界の現状に對し何人も憂慮すべきは勿論であるが、然し戦時中どさくさと喧いで、景氣に浮かれ出し成金であるの産業大發展だと言ふた、其の最極頂上が戦前の貿易に四割をかけたに過ぎなかつたのであるから、之れから先に何れだけ景氣が恢復するかも知れたものではないだらうか。

二 物價問題

茲に於てか人は皆物價の低下を急務とする、物價が低下すれば貿易は再び順境に向ふと考ふることによるのであらう。吾人も亦此説に同する。何となれば我國の物價は少なくも他の諸國との比較に於て異常に高價だ。成る程物價指數を其の儘比較すれば巴里の如くに著しく高くなつて居る處や羅馬の如くに突拍子もなく高く成つた處もある。然し之れを本邦との爲替相場に換算して觀れば國際關係上日本程物價の高い國は無い。

大正十一年六月主要都市物價指數比較

東京	倫敦	巴里	伯林	紐育	羅馬
指 數	二〇七、〇	一三四、〇	一六二、五	一〇八、九	一四二、一
					一四五、〇

斯様に物價が高くつて品質必ずしも歐米品に比肩し得ぬものも多いのであるから、此の點からは實に我が國産業問題は物價の問題であるとも言へるのである。そこで一般的觀察の如くに物價を引下ぐることが先決問題であるが、之れが爲めには勞銀の高きを如何にすべきか、當業者の多くは物價を低下するには勞銀の低下を先決問題とすと雖ども、今日の勞働者は必ずしも不當に高き賃銀に衣食しつゝありとは感ぜられぬ點が多い。成る程數年前よりの増加率から觀れば随分高くは成つて居るけれども、之れ亦歐米の夫れと一律に論すべきでない。歐米のは最初から人間生活として日本程低い暮しをして居つたのでは無い。従つて戦争の影響にて高まつただけ引下げて或は善いかも知れぬが、然し日本のは元來勞働者の生活状態は如何にも低かつたので之れが幸ひに今回を好機として所謂世間並みに高まつたに過ぎず、然も尙歐米先進國の夫れの状態に比すれば未だ低い程度に居るのである以上、今俄かに物價引下げの前提として之れが引下げを要求するは少しく無理の存するを覺ゆるのである。

今大正十年に於ける賃銀生活者の生活状態調査を觀るに其の一例として左の如きものあり。

一世帯換算人員	二、一	二、六	三、〇	三、五
所得者ニ對スル生活費	一〇九、二九	一〇八、八八	九一、八五	七二、六五
即ち一世帯人員三人五分にして一〇〇圓以下の収入にては所謂喰つたり切りと稱する餘裕なき境遇にして、一五〇以上に	同六〇一七〇圓	同七〇一九〇圓	同二〇五圓以上	

始めて二十パーセント位の餘力を生活の上には居る次第であるが、月々平均に百五十圓の收入ある職工と言へば上の上にして世間普通にあるものにはあらず、従つて物價低下の要因としては職工勞働者の賃銀の表面額を引下ぐるの前に考ふべき他の問題の存することを忘れてはならぬ。且又今後の商工經營の上には於ても其の生産要素として重きを賃銀問題にのみ置く様な考へでは、到底我が國の産業が歐米の夫れと競争の位置に立行かるゝものではない。今後の産業問題は實に此の賃銀問題を考ふる前に於て其の管理經營の方法の改善と勞働能率の増加によりて頽勢を挽回するの覺悟が無くてはならぬ。言ふまでもなく歐米の物價は日本の夫れに比して今日は著しく低廉ではあるが、然し其の職工勞働者に支拂ふ賃銀は必ずしも日本より低くは無い。然も彼等は一に經營上の科學的改善と勞働者の指導訓練による勞働能率の増加に全力を傾け依つて以つて生産費の節約に成功し、品質優良にして安價なるものを出しつゝあるの事實に想倒するの時、吾人は本邦産業界の當事者が依然手工業時代の舊慣に捕はれて生産費節約の主要原因を賃銀の表面額の低下にのみ歸せんとするは實に遺憾千萬に感ずる次第である。

三 勞働問題

以上述ぶるが如くに本邦の産業界も今や此の窮地より拔出で、少なくとも輸出入の權衡を採り、假令戦時の夫れの如き好況は

無いにしても稍々安定の境涯に入らんとするには物價の低下を必要とすること前述の如しとして、之れが解決の方法を賃銀の低下に索むるの前に於て先づ産業經營の方法の上に思切つたる改善を試みることを要す。然も此の事たるや今日歐米に於て成功しつゝある商工業者の何れも率先研鑽實施しつゝあるの事柄にして、其の二割三割を生産能率の上に増加せしむることの容易なるは幾多の事例之を立證しつゝあるものなれば本邦としては研究にも着手にも其の實行にも誠に便利を有すること多きに居るなり。然れども此の問題は後日に譲ることとし今日は之れと相關聯補佐して産業能率増進の他の一面を支配する處の労働能率問題のみに就て概論を試むべし。

抑も労働能率とは如何……今日は實に能率問題は聲に於ては極めて八釜しく、天下の人皆善く其の内容を詳知するが如くに感ぜられざるにあらずと雖ども、一たび實務界の實情に立至りて考ふるの時其の事務の何たるを問はず、其の技術の如何なる種類たるに拘らず實に能率問題の如何にも勿荷に附されつゝあるを觀るは遺憾と言はんよりは寧ろ奇怪と感ずる程度に居るを覺えるのである。由來能率なる言葉は素と機械又は工具等とより來れる術語なるを以て機械や工具の如く其の設計し工作せられたるものが其の要求の目的通りに働かされし場合の能率を百として之れに對する實際に起る能率を或は九十又は八十五と稱することは誠に容易であり、従つて機械等の作用の能率は誠に理論と實際とは並行し易いのであるが、さて一方の労働能率と言ふことになると人件能率であるが爲めに第一に其の基本標準と言ふものが有つて無きが如きものである。一人の労働者にしても或場所或時に於ての或る作業に對する其の人の能率を計るには或は基本を百と觀ることを得ることなしとせざるも、同一の人にて場所を異にし時を異にし作業を異にするに於ては全然異なる標準によらざれば能率なる言葉は意味を爲さぬことゝなるのであつて、加ふるに労働が既往の經濟學の言ふが如くに一種の商品なりとして考ふることを得るものならば問題は未だしも單純であるが、さて實際労働は人間の時々刻々に現はす作用であつて商品の如くに人間を離れて單獨に評價され得るものにあらざるを以て能率なる率の基本單位は有つて無きに等しいものである。此の故に従來兎角と喧かましい問題であるに拘ら

ず實行に鈍にして遂に徒らに出來高拂の賃仕事として其の出來高のみを以て能率高低を即斷し、又は日給高の高低のみを頭痛に病むの變態を觀るに至れるものに外ならず。然るに近時漸く其の誤りを覺りて第一に人件能率の上に科學を應用せんと試みたるものは人も知るが如くに米國の人フレデリック・ウインスロー・テーラー（一八五六年出生一九一五年死去）氏であつて、氏は一九〇三年に工場管理と題する著書の上に多年の科學應用の結果を發表し、更に一九一一年には名著として天下の耳目を聳動させた科學的管理法の原理なるものを公表した。此の科學的管理法の本邦産業界に對する適否は別論として兎も角も彼れは此の人件能率の研究の上に一大刺戟を與へたることは極めて明瞭である。テーラーの所謂労働能率に關する定義は、

能率とは従業者をして何を爲さしむべきかに就き精確なる智識を得ること及びそれに基づき従業者をして作業を最も良く且つ最も安價に爲さしむること。

とあり、専ら工場經營方法の上の能率に關することを定義せんとしたるものにして労働能率としては定義して居らぬ、此の點より見ればエマーソン氏の所謂

能率とは最も良好に最も容易に且つ最も迅かなる仕方

の方が幾分か労働能率に適用し得る部分がある。然し元來能率とは仕事の能度の事で寒暖計が氷點を零度とし沸騰點を百度と定めたるが故にこそ其の他の溫度が判明し得らるゝのであると同様に、若しも人件能度と言ふものも最高が幾度で最低が幾度と定め得るものならば、此れを標準として能度何度即ち幾何の能率と稱することを得べきも、人件の能度は標準を有し居らざるが故に最も良く又は最も安價など言ふても極めて不明瞭で甲乙を比較することは困難なりとせねばならぬ。

従つて今日はやり言葉の労働能率なるものは眞の意義を有せず、要は唯労働者の労働効果を多からしめんとする企圖が百と定まつた機械なら百までの能率を上げんとする努力と一様に考ふる必要ありとの意味より使用されし通用語に過ぎず。然れども以上の意味にて労働能率なることを言ひ得るとせば此の能率問題は確かに工場管理、産業經營の上の改良と相對立して共に

産業の能率増進上最も必要なるものである事は極めて確實性を有するのである。而して此の意味に於ける労働能率の向上に對し科學を應用したるバイオニアはテラーにして同氏の實驗の結果によれば能率問題の上に三つの重要な分子が現はれて居る、今試みに其の一事例を左に掲ぐ。

銑鐵運搬勞作の實驗、銑鐵を運搬するが如き勞働は人間の勞作中には最も粗放な且つ簡單なるものゝ一つであつて、從業者は單に身體を屈し手にて重量九十二封度の鐵塊を抱き上げ一定の距離に運びて之れを所要の場所に投げ落すのみである。今此のテラーの實驗せるはベスレム鋼鐵會社の銑鐵運搬作業であつて、同會社には工場隣接地に八萬噸の銑鐵を有し之れを搬出する爲めに凡七十五人を一組とせる塊鐵の取扱に經驗ある從業者が使用せられ、銑鐵の堆積場所の傍らに鐵道の引込線があり、貨車には傾斜板を渡し、各從業者は銑鐵の一塊づゝを拾上げ傾斜板から貨車に積込むだけの作業を爲すのである。

然るに此等の組を爲せる從業者は從來一日一人に付平均十二噸半を積み込むことを最高能率としたりしをテラーは其の能率を高むべく先づ第一に從業者の選擇に着手し、七十五人の組中より研究の結果四人を選択し得たり、而して更に其の四人中種々なる性格、習慣、希望等を精査をして僅かに一人を選抜して運搬作業の方法に就ては監督者の指揮に従ふとし、實施の結果は終業時間までに四十七噸の銑鐵を貨車に積込み得たるの外、爾後毎日同一の事を繰返へして三年間其の工程は減少せず、然も平均一日一弗八十仙以上の賃銀を收得し疲勞は前の作業の時に比して多からざるを認めた。從來同工場の運搬作業では一日平均一弗十五仙以上を得ることは殆んど不可能であつたのであるから、從業者の利益は六割も高まり更に工場主の利益も遙かに増加したのである。

以上の實驗の報告を玩味すると茲に三つの大なる要因が含まれて居ることが讀まれる。即ち

第一 工場經營方法上の研究

第二 選擇の研究

第三 訓練の研究

即ち之れで労働者選擇の研究により彼れが七十五人中唯一人を見出した其の人の性質は、

一定の職業として銑鐵を運搬するが如き適材は、精神的構造が他のものよりも牛の頭腦に似て居る程愚鈍で、且つノロイと言ふことを要する。

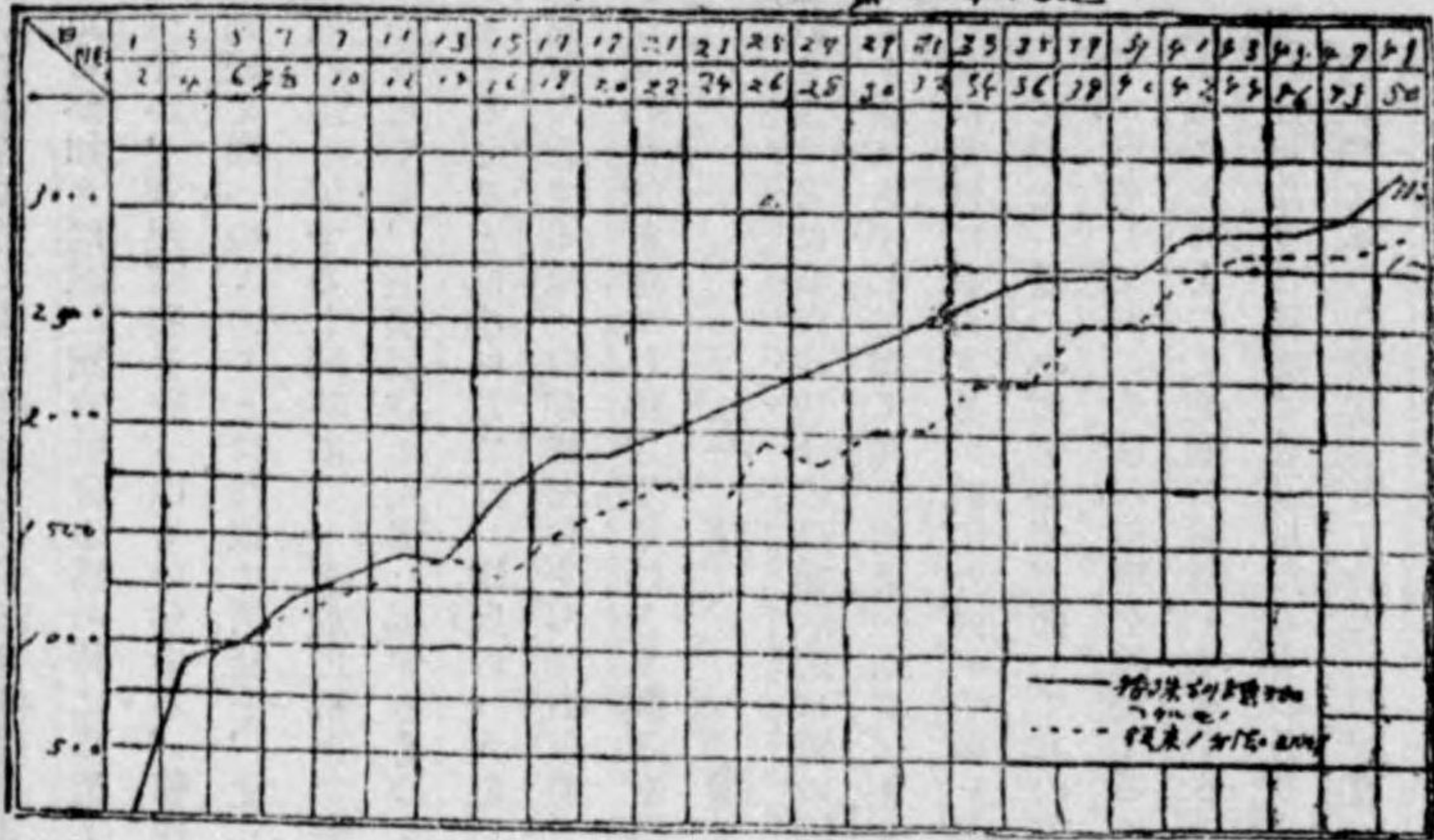
と言ふ結論を觀て居るを考ふるとき如何に選擇の方法に於て簡單で無いかも解る。楮て其の訓練の方法に於ても此處には詳細を略しては居るが可なりに苦心が伴つた様である。夫れにしても選擇によりて適材を適所に配し訓練によりて其の作業の方法上の智識と型とを與ふれば世に所謂うすのろが數割の能率向上を實現する力あることを思ふの時、吾人は本邦産業當事者が徒らに數字上の賃銀の高に苦勞しつゝ、更に此の方面に研究を進むるの勇なきを歎ぜずんばあらずである。

四 指導と訓練

前節述べたる所の科學的經營の理論と實際の工場能率の上に效果の大なる其の實驗の結果は労働者に對しては一に指導によりて適材を得、訓練によりて作業に習熟せしむることが唯一の要素たること疑ふの餘地なきものもあるも、之れを本邦の實例に徵すること又自ら必要なにあらず。今一例を淺草煙草專賣局に於て神田孝一氏の實驗に採るに同工場は多年職工採用の上に適性検査を爲し且つ之れを訓練しつゝありしものなるが、其の適材選抜の結果に關しては次の如くに結論を與へて居る。

- 1、從業者自身の作業より蒙る勞苦を軽減すること。
- 2、技術の修得時間を短縮して養成費用をも減じ得ること。
- 3、從業者の勞銀所得を増加し其の移動を防止し得ること。
- 4、使用機械の毀損を少なくし原料材其の他の消耗品の浪費を節減するを得ること。

(第一二) 女工の労働率と上手作業の割合

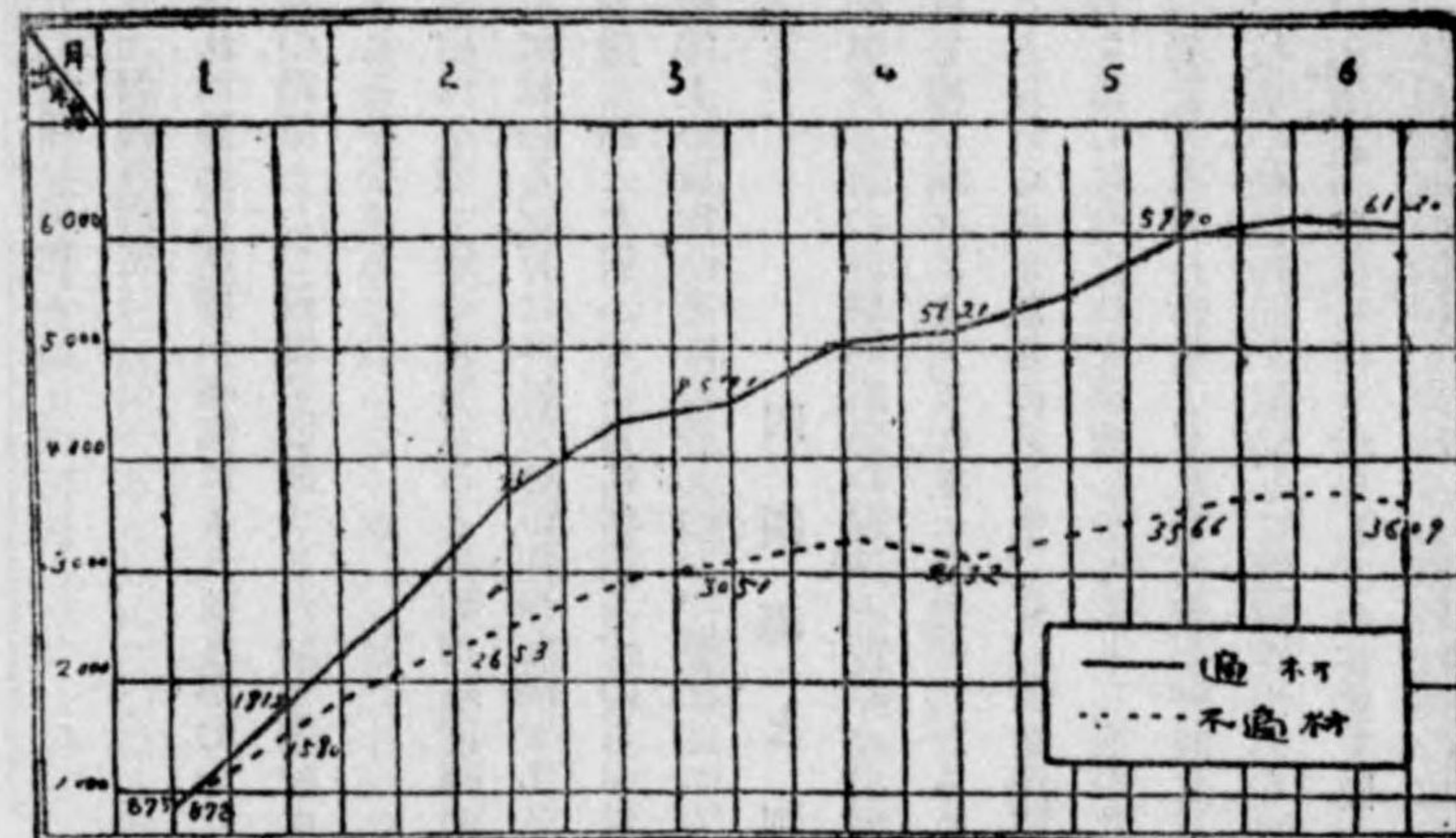


産業能率問題より観たる職業指導

神田孝一氏著労働能率研究より抄録

選ぶの外なきこと最早疑ふの餘地が無いのである。而して以上述ぶる所は工場内に於ける適性選擇と特殊訓練との結果のみに於ける實例であるが、偕て一步を進めて都市等に於て今日労働に従事する青年を眺むれば其の數實に著しい者がある。此等の青年は男女を通じて従來は何等適性の考査もなく、又特殊の教育をも受けずに單に家事上の壓迫若くは營業の成績思はしからぬ等の關係のみより漠然小學校を半途に退學するか若くは小學校等を終へたるまゝにて職業に就き所謂見様觀真似で其の職の人となり終ふせたる人多きに居るを考ふれば、本邦の産業界労働従業員は例令今日の賃銀を低下するを得たりとするも決して能率之れに準じて増加すべき素質を有するものにあらず。僅かに或種の工場が適材選擇又は特殊訓練を施すものありとするも之れ亦其の職に當つて必要な應急所置に過ぎず、之れを小學校を半途退學し若しくは之れを卒業したるのみにて職に就かんとする不遇の少青年に對し一面職業指導機關を社會的に普及徹底せしめ、更に之れに必要な基本訓練の爲めに義務的に補習教育を施しつゝある歐米の夫れと比するに於て本邦産業界今日の萎靡不振は寧ろ當然の歸結とも斷すべきものにして、到底賃銀の表面額の低下などによりて之れを挽回せんとすることは不可能事とせざるべからざるなり。

第一表 女工の労働率と上手作業の割合



産業能率問題より観たる職業指導

神田孝一氏著労働能率研究より

以上の結論は吾人の經驗の結果によりても一々首肯し得る所のもの、みであつて、人をして適所を得しむることは此の外種々の利益あり、就中疲勞を減ずるを得るが如きは又重大なる利益たるを失はない。而して之れに教育的訓練を與ふれば其の業に習熟することによりて又一層能率を増加せしむることの出来ることも亦專賣局の報告によりて明瞭に知るを得るのである。

第一表は適性検査に心理考査を施し適材と認むるものと不適性と認められたものを入職せしめ、同一期間同一の仕事に當らしめ六ヶ月間の進歩を實驗したもので、六ヶ月の後には適材の一日六千二百本の巻煙草を仕上げ得たるに對し不適材は實に三千六百〇九本、即ち適材の六割弱の出來高しか當らないことが證據立てられて居り、又第二表は同一の適材に就て適切な訓練を施したるものと従來の方法に一任したるものとの間の五十日間の進歩表であるが、之れ亦訓練の効果は大體に於て進歩が極めて相當で、然も五十日目には一方の百に對して訓練を施されしものが百十五即ち一割五分の高き能率を示して居る。之れは手工業に就ての實驗であるが、機械作業に就ても吾人の經驗によれば斯様な結果を觀たる實例に乏しくは無いのであるから、要するに労働能率の増加は適材を適所に置くこと、之れに適切な教育的訓練を施すことの二途を

幸ひに本邦に於ても近時實業補習教育機關の普及日に其の力を加へ來り、都市となく農村となく學校に於ても相當の程度に進みたるが如きは誠に國家社會の爲め特に産業上喜ばしい事ではあるが、然し之れによりて果して産業能率の増加を期待するを得べきか、未だ樂觀を許さぬものがある、學校の設備から觀るも、教師の實力より判斷するも、未だ特別にして適切なる教育的訓練を與へつゝありとは想象に價せず、宜しく一層其の結果の産業能率の増大に資するが如き充實したる教育を施すことを焦眉の急と信ずると同時に、一面最近都市の幾部に漸く問題となりつゝある處の職業指導事業の發達に努力し義務教育を終るもの少なくも、上級學校に入學し得ざるものゝみても充分なる個性と境遇との研究により適所に適材を伸べしむるの途を普ねからしむることは小にしては、國民の一人をして社會生活を樂ましむるの要諦となり、大にしては現下本邦産業の危機を既倒に救はんとする唯一の方法たらずんばならず。此の意味に於て我が國の補習教育の發達は職業指導事業の對立に待つにあらざれば眞の目的を達成し得ざるものとも觀るを得べし。

五 結 論

之れを要するに我が國現下の産業状態は實に慢性的に來りつゝある難病の状態にあり、而して慢性なるが故に外觀に苦痛の著しきを現はさずして却て其の結果の恐るべきものを想見せしむるものなきにあらず、而も之れを治療し之れを恢復せしむるの途は急性にあらざるが故に外科的手術を必要とせざるも根本的に其の方策を樹てざるべからざるの點に於ては急性の病狀に比して更に一層の必要を感ず、而して其の方策たるや區々たる賃銀問題に捕はるゝの必要なく、一面産業經營の方法を科學能力的に改善して其の生産の能率を増加するに資し一面労働者の總てに通じて適材を適所に置くと同時に之れに適切なる訓練を加ふることによつて労働の能率を増加することを得るの一途あるのみ、此の時に當りて我が國の實業補習教育は普及の點より觀れば可なりの程度に普及したるものあり。之れより其の内容を充實せしめて産業界の現状救済治療の方法に利用するの一點に到りては寧ろ産業當事者に於て此の教育的訓練の意外の力あるものなることを理解し、積極的に之れを善導し援助し

之れを利用するの外他に途なきを覺ゆるものにして、更に其の教育の客體たる生徒の適性を考査する唯一機關たるべき職業指導事業の如きも單に個々の工場の各別の必要を充たすに満足せず、夫々地方的に教育者と提携聯鎖して社會的に此の事業の發展普及に努力することは教育的方面より觀るも産業振興上より觀るも實に緊急の問題なりと言はざるべからず。顧みて本邦青年労働者の現状を觀れば如上の何ものをも與へられずして産業界に飛込みたる憐むべきものならざるはなし。近く東京市の實例に觀るも二百十七萬の市民の三割五分は商工業の勞務者にして、就中其の内には満十歳より二十歳までの勞務者は十五萬を以て算する其の大部分は即ち以上述ぶるが如き能率乏しき不幸の青年労働者たるにあらずや、然も此の等の徒は一面能率極めて低きに拘らず一面社會思潮の大勢に動かされ、或は徒らに賃銀の増加を叫び、普通選舉をねだりたる群衆心理に同じ、以て己れを誤り社會を損なひつゝあるに思ひ及ぼせば、吾人は我が産業界の當事者に對し大なる反省を要求せざらんと題するも得べからざるなり。博士ホルムスベックウキス曰く、

If one fails at his chosen business he fails in life p 1

と、今や我が産業界の勞務青年に對し吾人の與へざるべからざるは職業指導と補習教育なる哉。(畢り)

能率の増進について

一番ヶ瀬 佳雄

第一 能率増進の意味

能率増進なる語は近來我が國に於ては一の流行語となつてゐる。乍然其の意味に付いては未だ明確なる定義の下されたるものあるを聞かない、故に研究者は先づ第一に能率増進の意義を定むるの必要がある。

思ふに能率増進なる語は能率及増進の二語より成る集成語である。而し能率とは猶生産力或は出來高と云ふが如き意味の語であるから、私は「工業關係に於て能率増進とは一定の資金及勞力を以て同一時間内により良い品物を、より多く作る事である」と定義する。

例へを以て云へば我が工業の大正十年の工産物總価格は三十五億、工業總投資金額は五十五億圓であるから投資金額一圓當りの生産額は六十三錢と云ふ事になる、又之は大正九年の調べであるが勞働者一人當りの生産高は三、九一八圓になつてゐる。

そこで我が工業の能率増進と言へば工産物の總価格を百億圓、二百億圓に高め、投資金額一圓當り生産高を一圓或は一圓五十錢に増加し一人の勞働に對する出來高を五千圓或は一萬圓に増加する事である。

私が能率測定の標準として投資金額及勞力を採り能率増進について二元的定義を下したに付いては相當の根據がある。そして叮嚀ならんが爲めには説明を必要とするけれども長くなるから此處には之を略する。

工業能率は資本能率と勞働能率とに分つことが出来る。資本能率は又設備能率と經營能率とに分たれる。

第二 能率増進の效益

能率増進の效益は生産費の低下である。現在ある品物、例へば價格二十圓の机一個を生産するに必要な經費を左の如く假定する。

生産費總額	十五圓
内 原料代	五圓
勞 銀	五圓
但職工一人一日分の給料	
其の他の經費	五圓

今他の點に於ては變化なく唯職工の生産力丈が増加し二倍になつたとすれば、勞銀は半日分二圓五十錢となり、この机の總生産費は十二圓五十錢に低下するわけである。設備或は經營の能率が増進した場合も同様である。

而し生産費低下の恩恵に與かる者は資本家、勞働者と相並んで一般消費者及國家である。以下場合を分つて少しく説くならば、

1、資本家に與ふる利益

資本家に與ふる利益の第一は利潤の増加である。前述の机の例に就いて考ふるならば、從來は一個に就き五圓の利益であつたものが——假令机の市價が多少安くなり又勞銀を高く拂つても——七圓或は八圓の利益となり利潤も従つて増加するわけである。

2、勞働者に與ふる利益の第一は勞銀の増加である。能率増進は資本家は資本家の利潤を増加する。而し進んだ制度の下に於ては資本家の利潤の増加は必然に勞働者の収入の増加となる、且つ後に能率増進の方法を説く際に一言する如く、勞働者收

入の増加を考へずして能率の増進は——即ち資本家利潤の増加は之を望むことを得ぬ。
資本家及労働者に與へる利益の第二は不愉快なる労働争議を減ずることである。

過般の歐洲大戰中及其の以後、我が國に於ては處在にストライキが發生して其の原因は大低賃銀値上か或は値下反對である。大正六年以降大正十一年迄に我が國に起つたストライキを原因別に記載するならば左の如くである。(勞資協調會調査)

同 盟 罷 業 原 因 別 調	大正六年		大正七年		大正八年		大正九年		大正十年		大正十一年	
	件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員
賃銀値上	四、六三	四八、六三	三、四	五九、九七	四〇〇	四三、三〇	一五二	一九、六四	九七	一三、二九	七	九、七九
賃銀値下反對	二	一、二九	一〇	一、七三	一七	一、五二	六	八、二九	三	三、三三	七	一〇、四三
待遇改善要求	二	三九	六	二二	二四	三、九五	二	二、四一	六	二八、四四	六	一七、〇七
監督者に對する反抗	一七	八五	一六	七〇	一八	一、六〇	一六	三、四六	一五	七四	三	一、九六
其他	五	五九	三	五、三七	三	三、五二	三	二、〇一	三	三、三六	三	二、三三

即ち賃銀値上及び値下反對のストライキは、ストライキ總體に對して件数に於て七割九分、關係人數に於て七割三分に當つてゐる。

何故に賃銀に關する争議が多いのであるか一言にして云ふならば、我が労働者の受取る賃銀が安いからである。労働者は外國に於て同一作業に従事する労働者が同一時間に、より高い賃銀を支拂はれる事を知つてゐる。不満足が起るのは寧ろ當然である。然らば何故に我が労働者の賃銀は外國に比して安いのか、それは他にも原因はあらうが主として我が工業の能率が低く(註)生産費が割高である爲に資本家の利潤が少なく従つて高い賃銀を拂ふ事が出来ないからである。無い袖は振られぬとは此

の事である。能率を増進し生産費が低下し、従つて資本家の利潤が増加すれば労働者の賃銀も高くなり、従つて不服も減ずるわけである。アメリカに於ては能率増進の一方法である科學的管理法を實行して工場には殆ど労働争議が起らぬと云はれてゐる。

(註)一九一九年(即ち大正八年)の調査によれば、米國に於ては職工一人當生産高は一三、七一二圓となつて居る。之を我が國の其れに比すれば三倍強に當る。

3、一般消費者に與ふる利益

一般消費者に與ふる利益は工業品の價格の低下である。生産費は結局に於て消費者の負擔となるものである。短い期間を観察すれば物價は生産費に拘らず騰落する事があるけれども、既に經濟學者の論じ盡してゐる如く物價は常に生産費に相當の利潤を加へたものに歸着しやうとするものである。従つて生産費の低下は大體に於て價格の低下となるもので能率増進は國民の生活費を安くすることになる。

4、國家に與ふる利益

國家に與ふる利益は貿易の振興である、一國の隆盛は商工業の發達に負ふ處が大である。商工業の盛衰は又主として外國貿易の消長に負ふものである。而し外國貿易を振興せんとするならば良品物を廉價に供給し以て販路を擴張するの外はない、而して能率増進は良貨廉賣の第一策である。

第三 能率増進の方法

然らば如何にして能率を増進すべきか、從來とても學者は能率増進に關して全く無關心ではなかつた。優良なる機械を据付けることに依りて生産高が倍加することあるは人の良く知る所である。又經濟學者は労働能率増進の必要を論じ其の條件として國民健康の増進、福利施設高き賃銀等を擧げて居る。

成る程優良機械の利用は特に我が國の如く機械設備の劣つて居る國に於ては格別に緊要なことで、其の効果も顯著であるけれども、之が實行には多額の費用を要し何れの場合にも之を望むと言ふことは出来ない、又國民保健の増進等も結局に於ては労働能率の増進となるには相違無いが、其の主として目指す所は寧ろ他の社會的目的に在るものと考へられる。其の人類幸福に必要な點に於ては決して以下述べる能率増進方法のみではないけれど、其の能率に於ける影響は比較的間接で効果を觀面に期待する事が出来ない。言はゞ靴をへだて、搔く嫌ひがあつた。従つて工場主をして喜び勇んで實行せしむるわけには行かなかつた。

然るに歐米諸國に於ては過般の歐洲大戰前後より僅な經費で實行が出来、且つ能率増進上觀面に有效なる諸種の方法が行はるゝに至つた。

大戰中交戦諸國は空前に多額の軍需品を需要した結果として原料設備勞力資金等を極度に節約するの必要に迫られた。この必要に應ずる爲めに種々の有效なる手段が案出された。次に述べる如き諸種の方法は大部分は戰時中に案出されたもの或は戰爭によつて流行を刺戟されたものである。大戰前後より歐米諸國に於て能率増進の手段として採用されて居る方法を大別すれば二つとなる。

- 一、一工場に於て單獨に行ひ得るもの。
 - 二、全國的に工業者と政府が協力するによつて始めて實行し得るもの。
- 前者に屬するものには 1、科學的管理法 2、労働能率の心理學的研究 3、生理學的研究 4、小機械の利用 5、其他の方法があり、後者には 1 工業品の單純化政策 2、冗費除却の運動等が屬する。以下項目を分つて略述する所があらう。

1、科學的管理法

科學的管理法と云ふのは約三十年前米國人フレデリック・ウインズロウ・テイラーによつて始められ、其の弟子達によつて略完成されてゐる一の工場經營學である。其の大體を記する事は此の限りある紙面に於ては到底不可能であるからこゝには其の極一部分をたゞ輪廓丈述べて後は他の機會に譲り度いと思ふ。テイラー等の考へる所によれば今日の工場組織に於ては一方に於ては職工が充分に其の能力を發揮する事の出来ない仕組になつて居り、他方に於ては工場主は職工に充分なる賃銀を與へる事の出来ない仕組になつてゐる。即ち職工の側から云へば賃金制度の不備の爲めに平均以上に働けば單なる骨折り損となり、又作業方法の研究の幼稚な爲めに恢復し得ざる疲労に陥る。従つて労働心も失くなり生産高も減少する、又一方工場主の側から云へば職工の生産高が少くない故多く賃金を拂へない。

そこで科學的管理法は一方に於ては職工をして全能力を發揮せしめ、他方に於ては工場主をして高い賃金を拂ふ事を得しむる方法を案出した。其の方法の大略を云ふならば先づ工場主は職工の作業を分析研究し總て無駄な動作を省き、最も疲労が少なく且つ速かなる作業方法を選定する。此の作業方法を標準作業方法と云ふ。次に職工をして此の標準作業方法を覚えこませる。其の際には科學的管理法又獨特の指導方法を用ふる。次に一定時間に仕上ぐるに最も適當なる仕事の量を定める。最後に仕事と時間とを與へてその時間以内に豫定の仕事を爲したる者に特別の賞與を與へる、此の方法を實行した結果として職工は一方に於ては疲労を減じ一方に於ては生産高と所得とを激増した。

科學的管理法の取扱ふ問題は獨り労働能率のみではない、廣く工場經營の全部門にわたり從來の經營方法に比すれば全く面目を一新するものがある。

科學的管理法を採用する國は米國の外イギリス、フランス、ドイツ、スペイン、最後に日本等である。而し最近我國の各府縣に於て能率増進の講習會等の催を企てられるのは主として科學的管理法と次に述ぶる心理的研究についてである。

2、心理學的研究の應用

心理學の應用は能率増進上著しい効果を上げて居る、その最も著しい例は適性の検査である。適性検査の目的は適所に適材を選ぶ事である。人には種々の個性がある、種々の仕事は又異なりたる技能を必要とする。人の能率を發揮せしめ仕事の成績を上ぐる爲めには其の人の長所とする技能を最も必要とする場所におかなければならない。そこで何が其の人の長所であるかを知る事が必要となつて来る。適性検査とは心理學的方法に因り人の長所とする所を測定することを言ふのである。

3、生理學研究の應用

職工は如何なる作業態の下に労働するのが最も疲勞が少ないか、如何なる食物が能率上最もよいか、休憩時間は如何に定むべきか等の研究には生理學者の貢獻を最も多とする。労働能率の生理的研究の最も盛んな所はイギリスである。

4、小機械の利用

經驗によれば極めて廉價な機械の利用によつて冗費を節約し能率を増進し得る場合が甚だ多い。一例を以て申せばベルトは一定の張力に在る時最も能率が良い。そこでベルトをして常に其の張力を保たしめる爲めに張力検査機と言ふ小機械が利用せられて居る。

5、其の他の方法

諸國に於て著名なる工場は大低其の經營方法に於て若干の特色を有してゐる。之等の特色は科學的管理法の如く組織的或は系統的でないけれども實驗的に有益で参考となる事が多い。一例を以てお話しすれば米國のフォード自動車工場は、世界に於ける最大の工場で且つ成功した工場と言はれて居るが同工場の經營には左の如き種々の特色がある。

(イ) 投機の排除

同工場は材料を貯藏しない方針を採つて居る。即ち其の日の市場に於て最上の材料を購入し、其の日の中に之れを製品として送り出すことを以つて主義として居る。將來の價格の變動を思感して豫め多量の材料を購入し置くが如きことは同工場の斷

じて爲さざる所である。フォードは嘗て訪客に語つて「私は材料の買入について多くの賢い人を知つてゐる。私の方法はたしかに愚な方法である。乍然私がいもし世間の人の云ふ如く成功してゐるとしたら、其の成功はこの愚なる方法に負ふ所が最も多し。」と言つたと謂ふ。

(ロ) 利益分配制度

フォードは特種の利益分配制度を採つて居た。利益分配制度の眼目は工場主と労働者の共存共榮にある。かくの如き制度は必然に職工の労働心を増し、労働移動を減少し其の結果は生産を増加し製品の品質を向上せざるを得ぬ。

(二) 工業者と政府が協力して全国的に行ふに依りて効果を收め得べき事項

1、工業品の單純化

能率増進のこの種の方法の例として先づ「工業品の單純化政策」を擧げねばならぬ。

工業品の單純化とは工業品の型中實用の少いもの、製造を廢止し、實用の多い少數の型のみを大量的に生産し、以て生産費の低下と製品品質の向上を計ることを云ふのである。例へば今日我國に於て使用せらるゝ用箋を罫線、紙質、大小等に依つて分類するならば、其の型は實に數千の多きに上るであらう。今もし實用と趣味とを考慮して若干の標準型を定め將來はこの種の用箋に限り生産せらるゝ事となつたらどうであるか、我々は格別不便を感じる事が無いであらう。之れに依つて之を見れば今日の工業状態に在ては必要を超えて多くの型があつて大量生産の效益を妨げて居るものと言はねばならない。同様に他の工業に於ても——例へばバケツでも茶碗でも殆どありとあらゆる種類の工業品について不便を感じる事無くして單純化を爲し得べき餘地が多い。

工業品單純化の齎す利益は大要次の如くである。

(イ) 生産者に與ふる利益